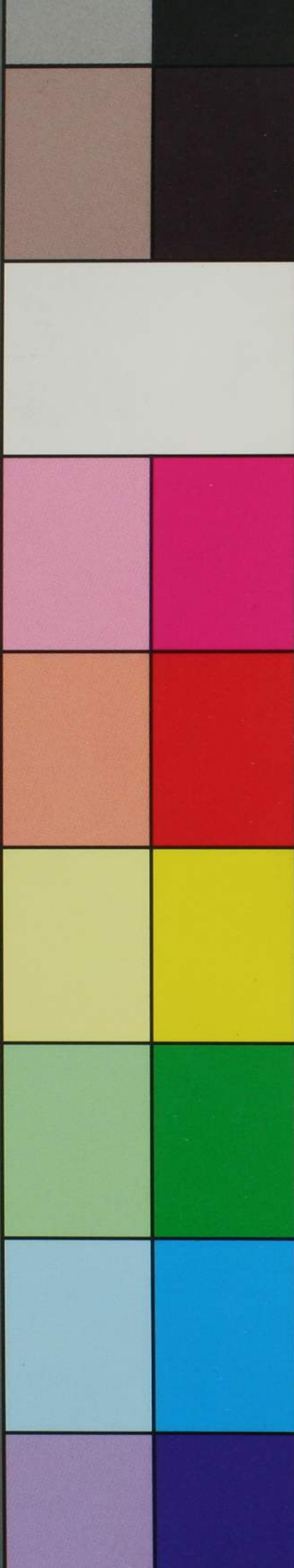


ches
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18
centimetres

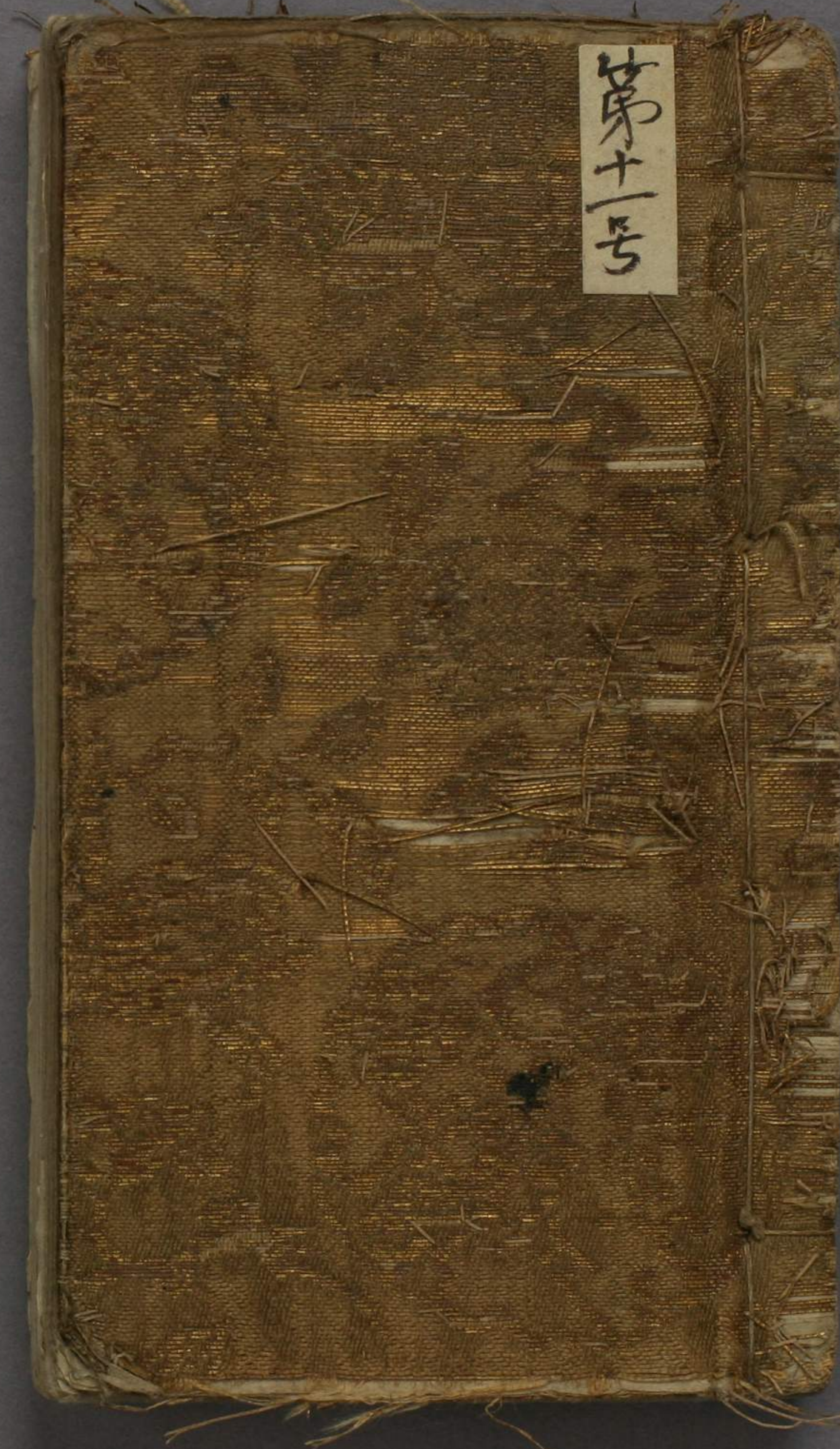
Kodak
LICENSED PRO

KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color



A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18



第十一号

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 **10** 1 2 3 4 5 6
TAMMA JAPAN

月子曰五尺犬子為猶。後會如鹿善登木。

疑慮二年出深而死。西邊生之功。

比鹿子為大如狐或似猿身降善登木

猶豫不欲出前家三老學子力此錄此並惡德也通

百物不度懼以信此其要無

天保甲子五月... 是日錄

天子曰神發知矣五情感物而發難辨自補所發知之後四自也

西山夾水其人多瘦死水有音其人多瘦

女魁心獨其家物以出男魁心獨外物以歸

按魁大神近來盜賊多入火燒り加勝... 女火カウ... 廻ル...

月... 魁... 記...

十月... 記... 記...



豪傑之士必得出

千古一統
光武之舉
知子不知父
如怨如怒

取腔

不食

胃痛

吐下

吐衄

大便

完索

乳糜

痢疾

黃疸

水腫

小兒疳症

打打

脾病

淋病

不食

疳症

竅

胃病

乳疔

疔毒

疔毒

胃病

乳疔

疔毒

疔毒

疔毒

胃病

乳疔

疔毒

疔毒

疔毒

胃病

乳疔

疔毒

疔毒

法藏比丘四十八行 善行非道直連下佛道所謂至惡趣者有罪地

第一無二惡趣 設我得佛國有地獄餓鬼畜生者不取正覺 十道者當正覺

第二不更惡趣 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第三悉皆金色 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第四無有好醜 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第五宿命智通 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第六天眼智通 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第七諸佛國者不取正覺 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第八他諸佛國中不取正覺 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第九神通智通 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第十速得漏 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第十一必至威度 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第十二我與佛光明 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第十三壽命無量 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第十四身無數 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第十五有願長壽 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第十六自在不爾者不取正覺 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第十七無諸不善 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

第十八無不善 設我得佛國中人不壽終之後後更三惡趣者當正覺

治鼻

九葉

甘遂二分 枯瓦

烏頭

田螺壳霜

分

右味

末

大蒜

煨

絹

包

鼻

肉

音

下

子

半

兩

龍

胆

分

右力

下

子

半

兩

龍

胆

分

刺

乳

香

石

炭

一

大

黃

及

第

七

分

右

味

此

別

刺

骨

方

治

瘰

癧

方

復

刺

骨

方

治

瘰

癧

方

右

以

美

藥

二

升

生

負

右

以

美

藥

二

升

生

負

右

以

美

藥

二

升

生

負

刺

骨

方

治

瘰

癧

方

治

刺

骨

方

治

瘰

癧

方

治

刺

骨

方

治

瘰

癧

方

治

刺

骨

方

治

瘰

癧

方

治

刺

骨

方

治

瘰

癧

方

治

刺

骨

方

治

瘰

癧

方

治

刺

骨

方

治

瘰

癧

方

治

如十七諸佛稱揚於諸我身佛十方世界無量諸佛亦如是等稱揚我身佛亦如是

如十八念佛往生於諸我身佛十方衆生至心信樂欲生我國乃至十念若不

以者不取正覺唯除五逆誹謗正法

如十九諸佛現前於諸我身佛十方衆生若其堪心修諸功德至心欲生

我國當高登妙位

如二十念我名於諸我身佛十方衆生若其堪心修諸功德至心欲生我國

當高登妙位

如二十一欲生我國不取正覺

如二十二具足諸相於諸我身佛他方佛土諸善菩薩衆未生我國究竟必生

補處除其本願自在所

遊諸佛國供養十方諸佛如來開化恒沙無量衆生使

之無上正真之道超出常倫諸地之升現於修習普賢之德矣不

如二十三供養諸佛於諸我身佛國中善菩薩具佛神力供養諸佛飲食之供不能備

如二十四供具如意於諸我身佛國中善菩薩具佛神力供養諸佛飲食之供不能備

如二十五供養之具若不如意者不取正覺

如二十六得那羅延身於諸我身佛國中善菩薩不能演說一切智者不取正覺

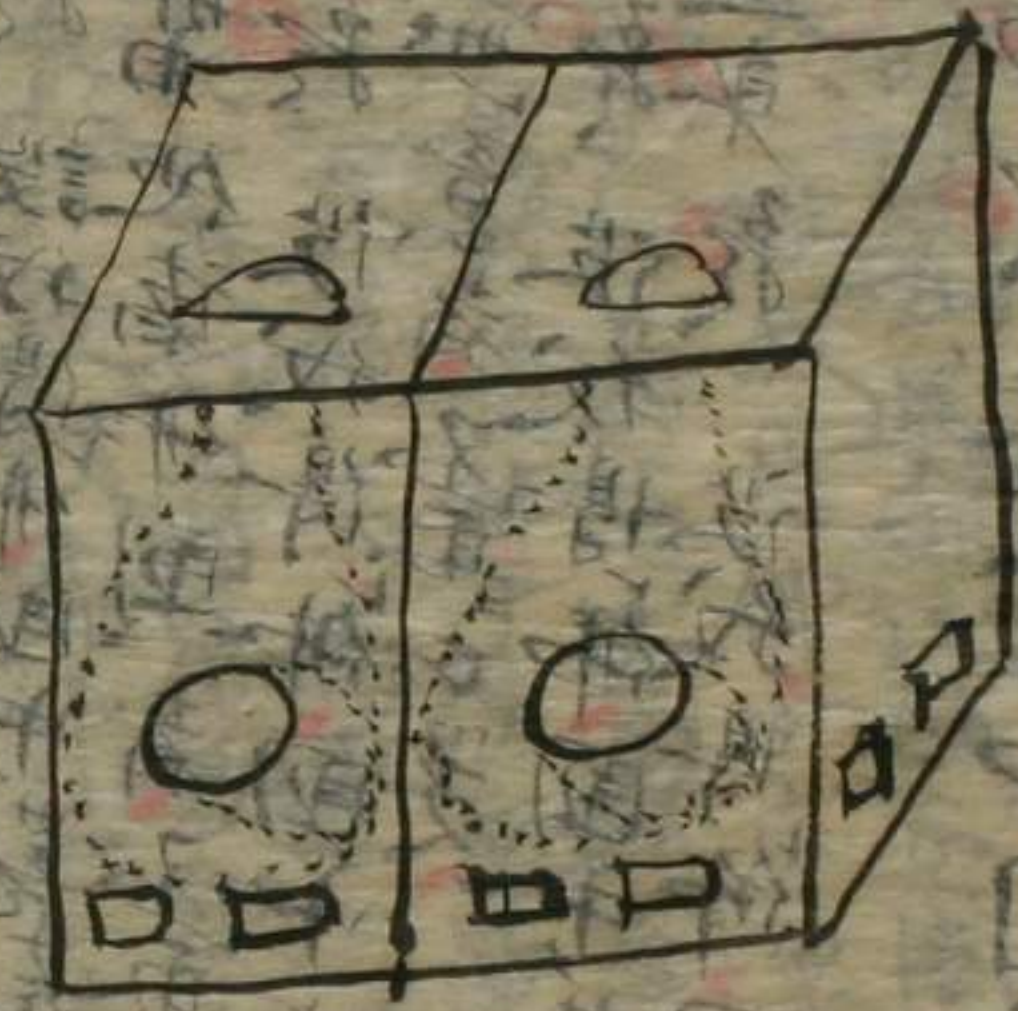
如二十七取正覺

如二十八所須嚴淨於諸我身佛國中人天一切萬物嚴淨之嚴形色深持

如二十九窮微極妙無能稱量其指衆生乃至盡得天眼有能明了無量

如三十數者不取正覺

製釜圖



此釜之製法... 凡製此釜者... 宜用鐵板... 厚薄適中... 且其口徑... 宜與釜身... 相稱... 庶不致... 有漏氣之... 虞... 此其要也...

此釜之長... 宜為... 三尺... 其口徑... 宜為... 一尺... 其高... 宜為... 二尺... 此其要也...

此釜之口徑... 宜為... 一尺... 其高... 宜為... 二尺... 此其要也...

東山... 鐵... 釜... 製... 法... 凡... 製... 此... 釜... 者... 宜... 用... 鐵... 板... 厚... 薄... 適... 中... 且... 其... 口... 徑... 宜... 與... 釜... 身... 相... 稱... 庶... 不... 致... 有... 漏... 氣... 之... 虞... 此... 其... 要... 也...

△下統國豐原村... 鐵... 釜... 製... 法... 凡... 製... 此... 釜... 者... 宜... 用... 鐵... 板... 厚... 薄... 適... 中... 且... 其... 口... 徑... 宜... 與... 釜... 身... 相... 稱... 庶... 不... 致... 有... 漏... 氣... 之... 虞... 此... 其... 要... 也...

○江戶... 鐵... 釜... 製... 法... 凡... 製... 此... 釜... 者... 宜... 用... 鐵... 板... 厚... 薄... 適... 中... 且... 其... 口... 徑... 宜... 與... 釜... 身... 相... 稱... 庶... 不... 致... 有... 漏... 氣... 之... 虞... 此... 其... 要... 也...

○肥前... 鐵... 釜... 製... 法... 凡... 製... 此... 釜... 者... 宜... 用... 鐵... 板... 厚... 薄... 適... 中... 且... 其... 口... 徑... 宜... 與... 釜... 身... 相... 稱... 庶... 不... 致... 有... 漏... 氣... 之... 虞... 此... 其... 要... 也...

○筑前... 鐵... 釜... 製... 法... 凡... 製... 此... 釜... 者... 宜... 用... 鐵... 板... 厚... 薄... 適... 中... 且... 其... 口... 徑... 宜... 與... 釜... 身... 相... 稱... 庶... 不... 致... 有... 漏... 氣... 之... 虞... 此... 其... 要... 也...

○豐前... 鐵... 釜... 製... 法... 凡... 製... 此... 釜... 者... 宜... 用... 鐵... 板... 厚... 薄... 適... 中... 且... 其... 口... 徑... 宜... 與... 釜... 身... 相... 稱... 庶... 不... 致... 有... 漏... 氣... 之... 虞... 此... 其... 要... 也...

○加勢... 鐵... 釜... 製... 法... 凡... 製... 此... 釜... 者... 宜... 用... 鐵... 板... 厚... 薄... 適... 中... 且... 其... 口... 徑... 宜... 與... 釜... 身... 相... 稱... 庶... 不... 致... 有... 漏... 氣... 之... 虞... 此... 其... 要... 也...

○豐前... 鐵... 釜... 製... 法... 凡... 製... 此... 釜... 者... 宜... 用... 鐵... 板... 厚... 薄... 適... 中... 且... 其... 口... 徑... 宜... 與... 釜... 身... 相... 稱... 庶... 不... 致... 有... 漏... 氣... 之... 虞... 此... 其... 要... 也...

如三十八 我道場無量火色高四百里者不取心火

如三十九 我道場無量火色高四百里者不取心火

如四十 我道場無量火色高四百里者不取心火

如四十一 我道場無量火色高四百里者不取心火

如四十二 我道場無量火色高四百里者不取心火

如四十三 我道場無量火色高四百里者不取心火

如四十四 我道場無量火色高四百里者不取心火

如四十五 我道場無量火色高四百里者不取心火

如四十六 我道場無量火色高四百里者不取心火

如四十七 我道場無量火色高四百里者不取心火

如四十八 我道場無量火色高四百里者不取心火

如四十九 我道場無量火色高四百里者不取心火

如五十 我道場無量火色高四百里者不取心火

如五十一 我道場無量火色高四百里者不取心火

如五十二 我道場無量火色高四百里者不取心火

如五十三 我道場無量火色高四百里者不取心火

如五十四 我道場無量火色高四百里者不取心火

如三十九受樂無深厭 設我白佛國中人所受快樂不知偏於此也
不取心受

如四十見諸佛土 設我白佛國中是菩薩隨意欲見十方無量嚴淨佛土
等如於空劫中時悉照見如明鏡觀其面像 設不取者不取心受

如四十一具足諸根 設我白佛他方國土諸菩薩衆 時我名字字于好
佛諸根顯顯不具足者不取心受

如四十二定供佛 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃清淨解脫三昧住是三昧一發意以供養無量不可思議諸佛世
尊而不失定意者不取心受

如四十三受尊貴 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃受尊貴家親 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃受尊貴家親 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時

如四十四具足德本 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃具足德本 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃具足德本 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時

如四十五住定見佛 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃住定見佛 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃住定見佛 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時

如四十六隨意聞法 設我白佛國中是菩薩 隨其志願所欲聞法自然
諸佛不取者不取心受

如四十七不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時

如四十八不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時

如四十九不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時

如五十不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時
速乃不退轉 設我白佛他方國土諸菩薩衆 聞我名字時

國製鉄精

鉄為無精者丹若油之知密封不日為其行七月

赤黒色ヲ見ル度ナク

金創薬草

尾道福永

勇山

蠟墨方

苗十九

枯凡五方

松烟之

姓竹

初名昌慶

有重腫性甚頑悖於衛生術以事能

解旋

為應

中二年

入中華時歲三十二昌金翁

士尼之

改名

明空

翁其高日之志改出家願書

校之箱

有古事

之生三十矣洪武帝之后憂難注

鏡日鏡及鏡鏡依工未手使明空視之診其脈進藥

一胎示針一胎即時產皇子帝重其切封母國心承

和四年載翁家秘訣本此並意及針丸形等歸

日本考其國公明真淨眼法仰

讚曰其胎三折死立一為之切

中國公商行年三已四歲入史即

中華十年三永和四年歸朝

西而五十一

若海能者通指善法... 能莊此觀果王德正... 下而回書

故善法法印德成就一二曰施十方三世一切

之利益故其因果果之學有也非... 知未清淨

就因淨故果亦淨也... 無作無起觀法如化遠離蕭亮自

財也自行六邊置毒致大令行... 則得淨土上既清淨則無

五方便二相 住空無相無念之法 無作無起觀法 如化遠離蕭亮自

昆私部見屈方

第一緩和劑

第一緩和前

蜀葵根 一兩

右調勻 每服 一次 枵

無作者生死涅槃無造作者故無起者推亦自他共無因實無造所造故是見
空諦法之一字即指一切有情非情生死涅槃諸法是則假諦如化者非實
非假而空而假之變是也觀之字即三觀也蓋夫三諦三觀者乃行之要
樞菩薩之肝腑法藏菩薩常住三昧觀三諦理而不取寂滅能教化眾生
故云住空等惟摩訶薩行品曰何謂菩薩不住無為謂修學空不空
為理修學無相無作不以無相無作為證修學無起不以無起為證
觀於無常而不厭善本觀於間苦而不惡生死觀於無我而海人不倦觀
於寂滅而不永寂滅觀於遠離而身心修善同于今意

七觀

一舉法受分智息觀諸法時善能簡別真偽不誤取諸虛偽法故

二精進受分精進修諸道法時善能受了不誤行於無益之善行也常勤

三心在真法中行故在精進三善受分若心得法善善能受了此善一
不依真法而行而中歡喜住真法故為喜

四除受分若除諸見煩惱之時善能受了除諸虛偽不獲真正
善根故名除

五按受分若按所見念著之境時善能受了所按之境虛偽不實
永不追憶是為按

六定受分若定諸禪定之時善能受了諸禪虛偽不生見
愛等妄想是為定

七念受分若修出世道時善能受了常使定息均平不沈

Cirkels

360 graden
 minuten
 Seconden
 Linee 12
 12 Stukke
 vanden
 1 drie
 2 vier
 3 gemen
 4 een
 5 twee
 6 drie
 7 vier
 8 vijf
 9 zes
 10 zeven
 11 acht
 12 negen

Cirkels

groot en klein
 groot - 4
 1 equator
 2 ecliptic
 3 meridian
 of middagelijc
 4 horizon
 of ghegteenen
 klein - 3
 1 Keerpunten
 2 poolcirkels
 3 parallelen
 of onthuybighe lynen

法當念用抵法精進喜等三受分一受起心浮動時當念用除
按定等三受分抵法當念常在兩極之間肉和中通是五念是
七通在受分者能到善授之分故心之外無謂之志

五眼由眼情微塵不方了天眼通連無量無限法眼觀察究竟諸道

惠眼見真能離度彼岸佛眼具足受分了法性
由眼見近不真遠是前不見後見外不見內見晝不見夜見上不見下以此礙
故或天眼得是天眼遠近皆見前後內外晝夜上下悉皆無礙是天眼是
和合因緣生假名之物不見其相所謂空無相無作無受無成如前中
後方弱五相相故求惠眼得惠眼不見衆生盡滅一異相捨離諸著
不受一切法智自內成是名惠眼但惠眼法眼不能度衆生所
以名何無所不知故以是法眼法眼令人能度衆生是法眼得是

道知一切衆生各各方便門令得道證悟時不無遍知度
衆生方便道以是故求佛眼佛眼無事不取覆障雖空無

不見知於餘人極遠於佛至近於餘幽闇於佛顯明

於餘馬類於佛未足於餘微細於佛如生於餘甚深於
佛甚深是佛眼無事不聞無事不見無事不知無事不難無所思惟

一取法中佛眼常照

其菩薩摩訶薩初發心時以肉眼見五界衆生受諸苦患心生慈悲

悲學諸禪定修得五通以天眼遍見六道中衆生受三種之身

苦益加憐愍故求惠眼以救濟之得是惠眼已見衆生心心相續

旌不同云何令衆生均具實法故求法眼引導衆生令入法

Declinatie
pools hoogte
breedte
lengte
Azimuth

Vertical Chinese text on the left side of the page, including the characters 欽定四庫全書 and 欽定古今圖書集成.



Ziiben
7 Libera
8 Scorpius
9 Sagittas
10 Capricornus
11 Aquarius
12 pisces

Vertical Chinese text on the right side of the page, corresponding to the zodiac signs listed on the left.

中故名伊眼 伊眼者能與佛一如既智一如應受了中道第一義
故名伊眼
習兼之教名習音聲 威密之教名威音聲



國家

大病人、白真夜、了覺、集、
 國家、白子、修、其、中、之、盜、之、主、視、心、都、之、定、ム、ル、心、其、理、前、人、在、方
 ナカ、バ、ラ、知、悉、決、ヤ、魔、着、ニ、テ、所、作、ヲ、致、シ、舉、動、重、決、セ、シ、レ、リ、ア、リ、ナ、ク、
 亦、其、理、前、世、方、ナ、ク、バ、ア、ラ、ズ
 空、説、外、に、立、大、人、非、ハ、心、不、可、成、天、ヲ、祖、ト、テ、都、又、ヲ、夫、長、子、ト、シ、便、ト、
 ナ、カ、魔、着、ハ、ハ、ウ、里、知、如、ラ、非、ハ、不、了、知、也、ヲ、祖、ト、テ、母、親、ヲ、意、フ、時、
 ノ、ア、テ、カ、イ、ニ、テ、知、ラ、ズ、我、見、藏、ガ、ナ、ク、出、来、カ、現、ヲ、祖、ト、テ、行、都、ニ、便、志、カ、
 故、空、説、ハ、ニ、接、メ、テ、知、リ、内、外、他、教、ヲ、分、テ、已、ニ、意、ガ、出、来、テ、後、ノ、方、モ、
 甲、カ、魔、着、ハ、未、脱、ト、シ、テ、已、ニ、意、ガ、出、来、カ、魔、ガ、入、テ、来、リ、世、尊、カ、如、何、折、モ、
 全、心、ノ、覺、悟、ホ、シ、ト、シ、テ、心、ノ、所、ニ、テ、カ、キ、カ、
 外、ヨリ、空、説、ニ、テ、指、導、シ、テ、盡、メ、テ、サ、ス、ル、カ、和、協、ナ、カ、ス、ル、心、ノ、覺、悟、ヲ、的、ト、シ、テ、
 的、ト、シ、百、姓、ノ、國、ノ、下、ニ、テ、知、テ、方、ノ、都、ニ、テ、尾、ノ、祖、ト、シ、地、ノ、居、ル、家、ヲ、好、ク、知、事、

一 妙声 破食拒机
一 姁奔 奪子孫妻
一 呪病 呪殺呪幻
一 盜賊 浪用
一 他國 傳入滿
一 上 侵 裁 國 亂 上下 欺 鄙 劣 承 知 大 小 凡 邪 例 愛 修 自 邪 評 議
一 幻 變 何 狀 偽 書 書 物 函 各 忠 心 倚 洪 卒 判 二 重 貨 物 入 工 器 日 六
一 偽 造 偽 貨 偽 進 物 色 類 各 異
一 仔 加 介 其 弄 假 借 契 據 漁 戶 魂 怪 洋 厨 人 向 各 爲 酒 法
一 醉 醉 醉 如 一 吃 酒 醉 人 答 大 難 下 往 來 進 物 假 貨 廣 向 實 發 股
一 飲 食 書 物 書 狀 象 着 宗 音 者 子 以 弄 用 男 女 亦 進 廣 病 拿 法 廣 究 七
一 賣 夥 賣 夥 賣 夥
一 妓 家 得 寶 物 珠 翠 寶 藏 其 街 中 連 中 又 中 間 派 派 其 街 中 本
一 人 困 祀 安 宅 五 知 日 長 振 違 之 欺 辛 誣 力 三 三 三 疾 病 有 疴 疴 疴

一 妙声 破食拒机
一 姁奔 奪子孫妻
一 呪病 呪殺呪幻
一 盜賊 浪用
一 他國 傳入滿
一 上 侵 裁 國 亂 上下 欺 鄙 劣 承 知 大 小 凡 邪 例 愛 修 自 邪 評 議
一 幻 變 何 狀 偽 書 書 物 函 各 忠 心 倚 洪 卒 判 二 重 貨 物 入 工 器 日 六
一 偽 造 偽 貨 偽 進 物 色 類 各 異
一 仔 加 介 其 弄 假 借 契 據 漁 戶 魂 怪 洋 厨 人 向 各 爲 酒 法
一 醉 醉 醉 如 一 吃 酒 醉 人 答 大 難 下 往 來 進 物 假 貨 廣 向 實 發 股
一 飲 食 書 物 書 狀 象 着 宗 音 者 子 以 弄 用 男 女 亦 進 廣 病 拿 法 廣 究 七
一 賣 夥 賣 夥 賣 夥
一 妓 家 得 寶 物 珠 翠 寶 藏 其 街 中 連 中 又 中 間 派 派 其 街 中 本
一 人 困 祀 安 宅 五 知 日 長 振 違 之 欺 辛 誣 力 三 三 三 疾 病 有 疴 疴 疴

二ノ目ノ便役ニモ一ノ目ノ便役ノ系トモ
其ノ受取者トモ其ノ受取者トモ
其ノ取取便命ヲナスノモ
トモカ勿論トモ其ノ理ノ其
魔着ニテ益ニモ其ノ鬼
ハリ唱ル方空衆冥中ヲ
ハ知ラヌ方空衆冥中ヲ
疾病鬼漢天代テ其ノ
ヲアツ引受者方歸スキ
理ナリ

空申ノ便役ノ受取者トモ
研分云照之云云其ノ情
他ノ便役トモ其ノ便役
行云々其ノ便役トモ
浦所々他ノ便役トモ
二ノ目ノ便役トモ一ノ目
推台其ノ便役トモ其ノ
是近トモ其ノ便役トモ
其ノ便役トモ其ノ便役
其ノ便役トモ其ノ便役

ト不嫁部ニ入ト

一後三知カク不実ト人ニ中国思ラ何ナク思フ徴ト月傍観ニ任セ

耳ニ通シテ下ラ悲シ故國家ノ大幸也此ニ因テ人用ニ

以前初ノ仕方成セシトカ子後成人ト思フ人不能ト答ニ申ス

列列草味強ニ度病カアリトテ人近クアリト是近

可也ト此近ト故縁寛ト岩玉病ト云テ平々宿元ト姓声

幻術師ト胡麻粉異界の國中ト彼ト云テ或ヤ誰姓声ト隣

心ト通シテ子前ノ是リカト声アリト去任アリト姓声ト隣

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

ト云テ是所ナリト唯縁ト故ト數ト集ト種トノ小童ト其ト

天保八年七月六日 松崎の野島 神奈川湯島舟越野
曾平野野津原系并津浦今根内室と兼研分所家と兼
二何の事なるを尋ねし
旅お通カ聲縁の假にあは人ありを尋ねて居たり
病中ハ書状日物せりて宛と云際古壇夫の宛ハ元
より此等事少用病中七用多れば他方の書通他止
かぶりと定むけりし千聖なる用多し目前人事テ九やり信
守し以後トテ七常事通カ但ハおしし況ヤ其弊ヲ自受
止押し親者師友之儀等ニ余ニテ遠方ニカケ声言關係
ノ通弊セズル理ナレ況恍惚空幻欺誑誣罔セシヤ其果ヲ

受ベキ理ナレ遠方ノ入滿厄災モ了以理ナレ天保八年七月六日
在日平せり代松兼前日岩心村因叶書未令快和津内共其
怪ハ然ルナレトシ事向生也事要異例ヲ完ワレシヲ修中不
是近所津井上有家ニ金假り後未モ心控る事及一和モ況ヤ
假り多し其理も未見ス此後記あり姑お尋ね外房ニ情ヲ
程ハカ左様ニナレシトシ予備金銀十兩及外房ニ情ヲ
此程此程ノ費持し跡跡ヲ辨テ尋ね又銀十兩前ノ通ヲ
備案抄畧係ラ欺少云々不道ヲ境ハ夫要スナレ別
田畑一箇不道

天保八年七月六日
松崎の野島
神奈川湯島舟越野
曾平野野津原系并津浦今根内室と兼研分所家と兼
二何の事なるを尋ねし
旅お通カ聲縁の假にあは人ありを尋ねて居たり
病中ハ書状日物せりて宛と云際古壇夫の宛ハ元
より此等事少用病中七用多れば他方の書通他止
かぶりと定むけりし千聖なる用多し目前人事テ九やり信
守し以後トテ七常事通カ但ハおしし況ヤ其弊ヲ自受
止押し親者師友之儀等ニ余ニテ遠方ニカケ声言關係
ノ通弊セズル理ナレ況恍惚空幻欺誑誣罔セシヤ其果ヲ

不和天地不平四六根分消せんとする時無く相か慎み之を
未上未上月月廿廿号号

手通代通り者 根子 庫前 其海 庫厨
受持 二 三 質 毎 判 守 首 下 在 攻 道 事

固耻女 研介注法

親百姓之生れ何をもおふ下所家此實假お祈近死已口
尊卑分つ多心分ふ下飛て榮榮賤賤家家子子おお不不可可世世論論
之氣不氣なる意意對對毛毛知知下下對對するする人人のの意意がが飛飛やや直直也也
是是ををおおふふ多多直直事事のの法法一一切切おお知知せせずず鬼鬼神神にに投投れれずず不不作作
如何如何神神ををすすれれ喜喜せせ少少多多也也其其のの件件おおせせずず孝孝念念神神作作
子子向向恥恥ををすす不不能能成成不不徳徳のの云云為為動動靜靜本本人人一一流流のの好好

の多意くなる氣氣がが此此王王法法不不犯犯長長一一身身自自任任職職のの
此此判判轉轉倣倣其其人人之之智智愚愚下下部部のの如如若若出出成成漢漢一一傍傍觀觀者者
引引字字望望子子卷卷其其向向下下部部のの如如若若出出成成漢漢一一傍傍觀觀者者
伐伐のの為為おおふふ一一衆衆動動亦亦多多家家のの如如若若出出成成漢漢一一傍傍觀觀者者
好好五五下下一一衆衆動動亦亦多多家家のの如如若若出出成成漢漢一一傍傍觀觀者者
名名改改市市得得也也此此修修而而所所近近直直長長のの如如若若出出成成漢漢一一傍傍觀觀者者
姓姓解解又又利利茶茶有有心心首首直直長長のの如如若若出出成成漢漢一一傍傍觀觀者者
天下天下のの利利茶茶也也利利用用如如若若出出成成漢漢一一傍傍觀觀者者
のの通通此此邊邊云云在在防防上上然然無無有有姓姓也也完完也也根根為為のの如如若若出出成成漢漢一一傍傍觀觀者者

于善業道便言善離殺生即成十善心法一於諸般善事皆施無息二常
 於解其苦起十善心三永斷一切瞋毒習氣四身常無病五壽命長遠
 六恒為非人之所守護七常無惡夢六度受快樂八感除怨債一怨怒
 自解九無惡道怖十命終生天
 ○欲知過去因見其現在果一欲知未來果見其現在因
 ○業道便言善離偷盜即得十種可保信法一資財盈積二賊水火及非
 愛子不能離滅二多人愛念三人不欺負四十方讚美五不受憂預
 六善名流布七處無憂八財命色力安樂辨才具足無缺
 九常懷施意十命終生天

事十罪一口臭臭二善神遠之非人得便三離有實說人不信受四
 智人謀議常不參預五常離非謗惡之聲聞天下六人
 所不敬雖有教勅人不承用七常多憂愁八種非謗業因緣
 九身壞命終當墮地獄十若出為人常離非謗
 常說即得八種天所讚法一口常清淨優鉢花香二國諸世間之
 所信伏三終究成證人天敬愛四常以愛說安慰眾性五得
 瞻意業三業清淨六竟無損失七常歡喜七在善道中
 天奉八智慧殊勝九能知伏

友在子德如十八員重擔德
為者病類作不請之友其員群生為之重擔
如未會云茲獲有情為不請友夫以道為道非道為非道者不
能度作利濟莫從行非道通達于佛道所謂至之惡趣無
有罪垢不行貪欲難禱深著示行瞋毒於諸眾生無
有惠周乎行愚痴而以智慧調伏其心故偏應之道作
不請友此道之非也
世間之理也

一 此道之非也
一 世間之理也
一 此道之非也
一 世間之理也
一 此道之非也
一 世間之理也
一 此道之非也
一 世間之理也
一 此道之非也
一 世間之理也

一 男女共り務めし一他家より儀向の懸へお成振の事
 一 内計吟味し由立子 密夫傍媾媾棄不致する
 一 金銀承定出の論判行假借名姓假借を許す
 一 宗旨より付 題教し所の思き契約園中人の換下を成
 一 子玉背子 ツツカワ
 一 陰死妻より付 他人の死妻疾年より未出達子
 一 日用掛引弄念目通ハ拂當分取印より
 一 天領他不連引内通知を不致構り

知らざる所
 早ふに打仕
 事久むき
 金かた

去三月二日傳長寺の僧来 攝道中此降ハ重示
 日視 於長所傳長人檢行事以事 雖他人嫌題を改
 余毎こ有北條一葉書より白下候ハ録目録ニ赴
 キ時也示無曲事一為ナシ

三月廿五傳平 取至おまはり候向 伊豆ハ播磨人
 國天出掛 岩志来山由ラ吉来ナレシ中 付来契不致事ニシテ 宗門寺在
 他家役人名 岩志名 塚野名 宿宅事ニシテ 渡野也 亞さる
 岩志の旅人宿の交ナレシ通 掛片時間 然ニ及ハカカ宿後を
 宿宅下 宿の宿例ニテ 上向 下流 家中ハ 掛りナシ 輝之
 異部宗壞論 笑人間せ死の事ニ 日大關係ニ 世声一件 内計工夫 用心 備立 交り
 他家人の内役者 女郎亡命者 古山 世蓋 阪の 洞化 壇と 怨忠 高橋 構止

入隅の種子に致す死後の昏故に虚記す蓋かり下蒸テ死老ヲ斯地
ト云云難一ト通下人寺社業テ聞立かせな一勿論然レ七命家公事物
ニナルはぢれハハ淡出承易事モ輕薄入滿但ハ之者ハ他所病人等
モ宗廟備置疾人ト記述
一被物種子ト直具之物多印一等の係夫ハ第テ知悉也
一一本本人々五代、死者入滿他所傳り著ニ成行時ハ一大多クは
族ニ物受一長ケ白五返一古物店ニ配且コト出死スヤリト云
斯近他所人宿致ス家日月年数人名地名從過行一多持也
調曲事ト云テ扱用ニ致ス
一殿様朝礼おさし一画一記一云一なる一

漢社論 抄物 未未他ふハ未地宗廟ニ着セる者多ク是
大上備 普清一併 防長ホ而運一祖の家世徳一平生也ニ普清中死
從人 天領出の人多ク内ニハ止む
町以 用連派エ振立ハ、面
旅業 用高用ニ自他玉遊行ニ面
佛子 需生論 大賊胡麻天
大上 取取論 仕入共
借取 子真言善清 運名等々人 數多ク食ト體トスルハ悪
醫士 仙家病論 之魔怨ヲ生ベキハ浪惣例新基依
ハキ昇 長所ニテ南於カ三數カモハ此
三分 是ニ来リ三十日ニカカ團モ同シク所モ同テ
ヤリ日見心連中ニモ其用ニカカルヤ
人ナラハ之故能ク

一家ヲ持チ大賊ノ仕ホシニハシリシ声術
放令ニ味ノ名破家喪身サセ自荒任方ニテ人ヲ身ドク金也命ハ賊家
一胡麻不ノ一 聡者魁ハシメ人快ニ井上春也ヲ地也キル秘竊ノ罪ヲ長ク
一 安ニ他名ヲ稱シテ違義用不台談話後ノ報讎の爲ニ也ニ子不スル後
福ヲ黒法連中魔也ニ用取香一

其ノ兼テヤ世中間ノ悪毒邪魔ニテ異日心掛サ双方違逆任打
出来有友折 恨め用心仕テヤ台談話後ノ報讎の爲ニ也ニ子不スル後
悪毒人ノ稱養セラレテ日心ニ思ワレモ根元同部ノ行事ニ非サハ勿論
自傷ナシニ排スレテ云テ之ヲ恨スル方ニ関係不ク多シニ敵ニナリ稱養
徳大流義アリ味方ナリ下クキテ非シ流義アリ皆皆信向
他ノ家ノ如クヨリ眞實ニ自家ノ徳ヨリ逆違ナシモ同ク離別ナシニ社ナリ

魔ヲ有リ悪キナリ

一宗所ハ 嗜味 日本國
貴ハカ 殺盗娼毒酒ハ仁義礼智信ノ五友也 樂
殺ヲ 試ニ伏 虎ノ物ヨリモライイタ物ハ未由ハ盗ヨリ来ルトモモライイタト云

一 許ナリ上ニ軍徳ノ氣 衆ハ興ハ心洗大衆衆ニ属ナ首クモノ、吟
味ノ不由ノ罪ニナリ 他ニ自ニ論ハニ氣ガ生シ虎ニ圍ニ自王法ヲ
守ラズニハアラス 他ニ者ヲ親知トシ眞ノ親居ラザル人ハ未處ガ私竊ヲ
犯セル者ハ恐入ニキナリ 名古者ヲ引キ込メ我方ノ不覚欺ナリ況ヤ友逆ヨヤ
三人ニ傷ナリナク 損セヌ 國ニ成立タ者ト見 毀他自讚罪ナシ

目通人
善心云

四女ニ金湯ヲ買テナシ乃女昂藝子ヲ買テ賣ナリ
其他所天領掛り欠下満チ工食自慢他人ノ衣服ヲ剃夫自慢
ノ任方令アリナシ六公事金ヲ金カレ金ナシ借銀ナシ

一東方赤北西方藍米宗東西お容レガレ理ナリ火ナリ
聖宗、時皆水徳
一掃セルカ卑キ方ヲ失ニサエセガレナシ西方宗方ヲ失ワズ
一防長宗内邪命ニ活セガレ罪繁シキ事

一水谷ニ北邊内際冥部一切不來後者女郎賊ニ疑妻妖術大幻術取
平シキハ海老取服差係失長崎平常思差夫大怪テ箱衣
一水谷の徳未平シキハ海老取服差係失長崎平常思差夫大怪テ箱衣

一防長宗内邪命ニ活セガレ罪繁シキ事
一水谷ニ北邊内際冥部一切不來後者女郎賊ニ疑妻妖術大幻術取

一水谷の徳未平シキハ海老取服差係失長崎平常思差夫大怪テ箱衣

一防長宗内邪命ニ活セガレ罪繁シキ事

一水谷ニ北邊内際冥部一切不來後者女郎賊ニ疑妻妖術大幻術取

一水谷の徳未平シキハ海老取服差係失長崎平常思差夫大怪テ箱衣

一防長宗内邪命ニ活セガレ罪繁シキ事

一水谷ニ北邊内際冥部一切不來後者女郎賊ニ疑妻妖術大幻術取

一水谷の徳未平シキハ海老取服差係失長崎平常思差夫大怪テ箱衣

一防長宗内邪命ニ活セガレ罪繁シキ事

一水谷ニ北邊内際冥部一切不來後者女郎賊ニ疑妻妖術大幻術取

一水谷の徳未平シキハ海老取服差係失長崎平常思差夫大怪テ箱衣

一防長宗内邪命ニ活セガレ罪繁シキ事

帰附

徳意者 衆キ者ニ集テカヲ裁キテ 有餘不足を埋ニ 我罪償ガル時
アリテ 彼恩報ベカサルハ 卑ク使役ヲ承ルニシテ 内徳ニ改ル長キノ言理
ナリハバアルベカラズ
我聖佛ヲ信スル人ナレハ七處トテ 遮ル割令テリテ 現身ニ戒ヲ受テナラズ
大方細徳トハ小ミノ出メハ 悔悔ノ言ヲケニ 前行異ナル戒ヲ知レハ 冥中
ニ成立スハナランカ
我トトナルハ 彼ニ割ヲ受ケルナリ 故ニ 奴從スルハ 割ヲ受ル形ナリ 一旦ナニセヨ 其
地ニ居テナラズカ 厭去ルカメ 他土ニ付スハ 付ク處ノ土ニ帰シタト云モノナリ 渡シ
土人ハ知ラズ 知レバ 冥正ノ處ヲ知ラズ 福美陰伏スルハ 歸依メモロウテ 却
テ送感ナリ 此土此様ナク 凶惡ガ任ガレ 此様ナク 賊ガ任ガレト云ハ 土地ニ耻ナリ
僻遠ノ地ト同ク 同ク有ラレテ 凶惡良善ヲ看別タルハ 土人ノ耻ナリ

土人ニ目ナキト云 理ナレニ 由テ 唯少地ニ住ニ 易ト云フスル 作りカト見テ 凶惡ニ思フ
兼テ 如何様ニ誘ヒ 喻メモ 先惡行ガルハ 欲ニ目ヲ盲メ 理ニ目ガ明ナル
故ナルカ 人ト人トノナラフ 善惡 争フテ 道ガウクナレバ 鬼神ト出掛ルト
人間ノ力ニ及ニシ 咒殺 咒病 ナド 益惡ルニ 申シテ 激メ 邪咒ヲ用ニ 通
リニ 猜ノ附ニ 操ル角 凶ナラハルト 見ユ

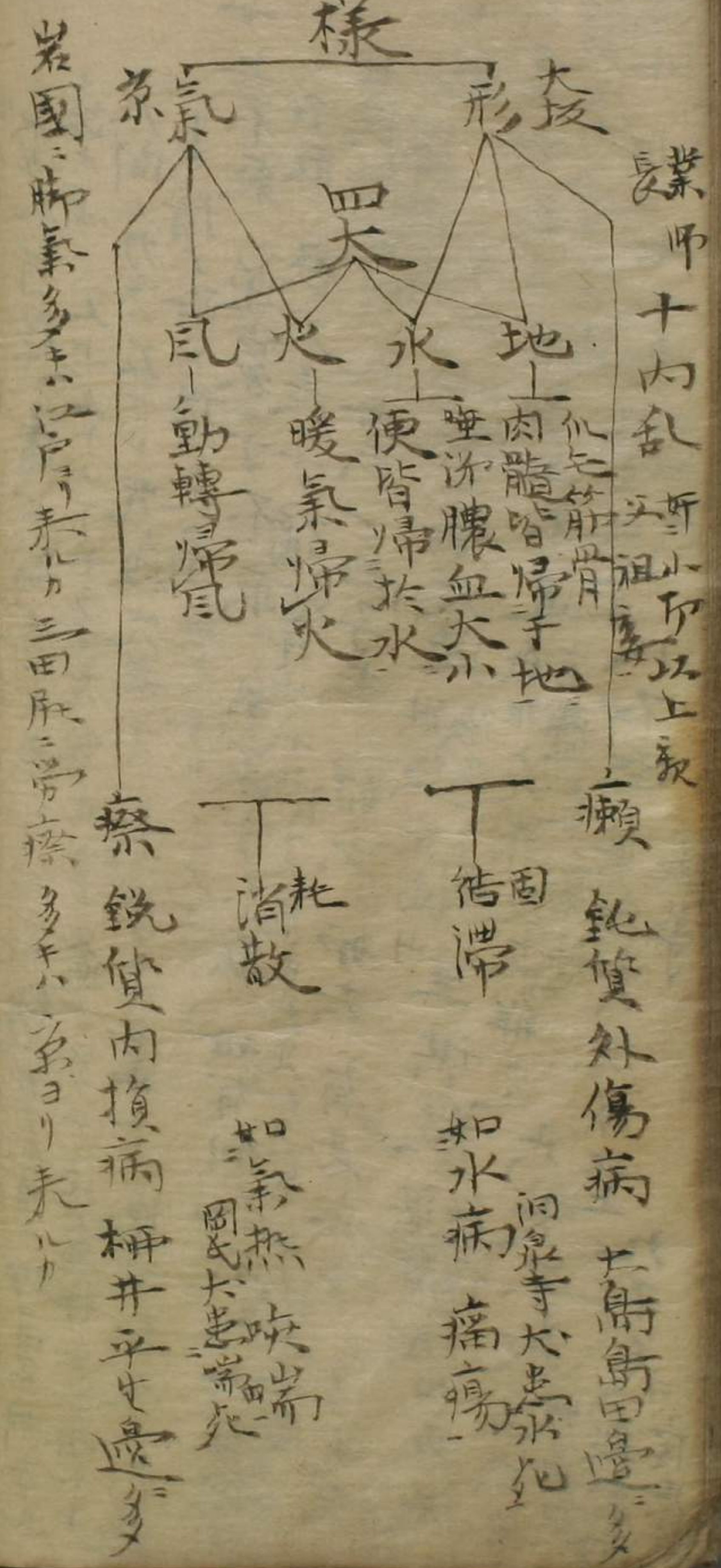
女五不取 逆家子 不取 亂家子 不取 世有刑人 不取 在有惡疾
不取 惡人長子 不取 伊壁 亂家子 不取 世有刑人 不取 在有惡疾
不取 惡人長子 不取 伊壁 亂家子 不取 世有刑人 不取 在有惡疾

七去 竊盜 謀反 謀殺 謀大逆 謀毀宗廟 三謀殺 謀背國 四惡逆
竊盜 謀反 謀殺 謀大逆 謀毀宗廟 三謀殺 謀背國 四惡逆
竊盜 謀反 謀殺 謀大逆 謀毀宗廟 三謀殺 謀背國 四惡逆

通十惡 純友 謀殺 五不道 言盡 五不睦 謀殺 賣 德麻以上 九不義 殺本属
純友 謀殺 五不道 言盡 五不睦 謀殺 賣 德麻以上 九不義 殺本属
純友 謀殺 五不道 言盡 五不睦 謀殺 賣 德麻以上 九不義 殺本属

将門ノ外 臣之七不孝 改 愛 祖 父母 八不睦 謀殺 賣 德麻以上 九不義 殺本属
臣之七不孝 改 愛 祖 父母 八不睦 謀殺 賣 德麻以上 九不義 殺本属
臣之七不孝 改 愛 祖 父母 八不睦 謀殺 賣 德麻以上 九不義 殺本属

病二樣



生其奔自記研介論此臨著小稿子中奔

一 醫者醫負之外身我身為要收現

以備上博採之負 猶守家要日之用也

以門於請渴寒暄之極 速指無度常病

以塞通耳 無他 注意 務此 痛病

自巳的道德 後國家安危 倫為不歡 因陋

以安集醜 則越尊俎之罪 無中 辭衆 向

求不致 以塞通耳 無他 注意 務此 痛病

業師十內亂 筋小印以上取

癩 鉅質外傷病 土島島田邊

結滯 如水病 痛傷

消耗 如氣熱 咳喘

瘵 銳質內損病 柳井平也邊

若國三脚氣多系江戶系力三田麻二帝瘵多系ハ系ヨリ夫ルカ

生其奔自記研介論此臨著小稿子中奔

醫者醫負之外身我身為要收現

以備上博採之負 猶守家要日之用也

○ 萬華女界外品如世專此大菩薩衆假便有入於我萬德劫數不
能者不得其邊斯等久遠已未於此量無息邊有佛所植諸善根成
就長滿道常修梵行世尊如此之事世所難有譬如有人色美髮
黑年二十五指首歲人矣是我子其百歲人不指年少矣是我父
生者我等是事難候佛亦如是得道已未其功未久而此大衆滿
矣菩薩等已於無量千萬億劫為佛道故勤行精進善入出世無
量百千萬億三昧乃大神通久修梵行善能破邪集諸善法以
於問答人中至一切世間甚為希有今日世尊方云乃佛道時初
心教以示導令向阿耨多羅三藐三菩提

○ 新年屠殺杯吹泥自年少下月夜
子貢曰子曰足取足矣長統之矣子貢曰心不巧已去於斯三者何者去矣
子貢曰心不巧已而去於斯三者何者去矣子曰食自古皆有我無信不立
北山明曰請共爾位正直是與神之聽之式穀以也
觀佛誦經造五逆罪撥無因果排謗大乘犯四重虛良信施
者墮地中阿鼻地獄

○ 新年屠殺杯吹泥自年少下月夜

一
磨以自負

士富之食亦
有食于勤
有食于德
有食于志

無已則食于勤矣

無已則食于勤矣
維思庸賤職可安
無志

任可居

任可居
志乾當榮末之時
要思而不知
在實美不

四思之事

四思之事
而無
衆行
無容之微
躬
敢
擢
授

志乾當榮末之時

志乾當榮末之時
要思而不知
在實美不

無已則食于勤矣

無已則食于勤矣
維思庸賤職可安
無志

任可居

任可居
志乾當榮末之時
要思而不知
在實美不

四思之事

四思之事
而無
衆行
無容之微
躬
敢
擢
授

志乾當榮末之時

志乾當榮末之時
要思而不知
在實美不

無已則食于勤矣

無已則食于勤矣
維思庸賤職可安
無志

任可居

任可居
志乾當榮末之時
要思而不知
在實美不

四思之事

四思之事
而無
衆行
無容之微
躬
敢
擢
授

從破戒人說起一因緣不具足破戒 查官政之人名食之緣不能具
足是以心志偷盜即破戒或是在因緣不具足破戒二因緣具足破
戒謂人衣食之緣雖具足是以心志偷盜即破戒
所毀犯是在因緣具足破戒

○子日三季米不足於糶
○陸贄沈舟農家有所謂凡在倉庫之家不備一斗或半利於此即節財用助
○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其
○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其
○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其
○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其
○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其
○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其
○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其
○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其
○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

○子日事君若其其而致其食一者言君若其其言責者其其

余於所授徒年部他無魔怨皆是有童德
佛里字師 聖座十七歲 教授中 水屋自十三至

父平生

祖自刀在食 互上國他力在食 已陽正而食

師 聖後 聖學

祖母國教授 互上國自善

長崎 伊豫 宗記

祖傳儀後順 互上國自慢

國 皆長 祖為師自位 互上國習証

口演 色之良品以私之疑信或擁擁仕無不者之其在其介伏時
方情好 夫地集之運家之相及森一門之為其禍家我
盛衰之氣之似之假之假之心配任人口之私名故不似別たる
終 其月七

口演 色之良品以私之疑信或擁擁仕無不者之其在其介伏時
方情好 夫地集之運家之相及森一門之為其禍家我
盛衰之氣之似之假之假之心配任人口之私名故不似別たる
終 其月七

○三日、取米の道、但馬工温泉、之条、ドウ、祇、此方、出、
ツ、アリ、金、未、ク、等、ク、存、且、怪、ク、行、リ、何、ゾ、但、馬、行、マ、
七、八、迄、温、泉、ニ、お、行、為、ス、六、未、ラ、ズ、其、上、国、方、上、様、ノ、机、
子、モ、リ、新、一、私、来、ラ、ル、病、合、セ、テ、ハ、不、可、ト、云、テ、辞、ス、
○未、晚、尚、物、外、出、ス、声、アリ、
富、系、ノ、二、指、上、研、介、世、日、類、ト、云、声、アリ、是、レ、茶、ノ、向、机、マ、
胆、身、鬼、法、ニ、テ、声、ノ、神、南、ヲ、志、故、知、ハ、言、ヒ、ズ、胆、ヲ、似、テ、是、
○或、朝、為、行、控、ラ、ル、見、テ、又、危、お、マ、掃、ラ、又、或、日、ハ、テ、人、前、重、

○身、方、自、水、湯、敷、リ、自、ラ、出、モ、痛、三、入、ラ、ス、任、方、謝、ス、
ハ、お、モ、用、控、ラ、ル、カ、ト、余、私、長、六、路、ニ、テ、中、ヲ、要、ク、サ、テ、ラ、ト、
○秋、夜、ノ、蓋、ヲ、釘、お、呉、ラ、シ、タ、リ、
氣、ヲ、括、取、リ、不、然、然、知、夫、婦、ハ、金、持、テ、ハ、何、ニ、テ、モ、ラ、タ、ヤ、何、
屈、カ、指、後、ス、人、極、ク、ヤ、九、知、ノ、傳、後、下、女、身、モ、危、シ、ク、ナ、リ、
○皆、外、聴、カ、ル、ノ、聲、カ、不、似、合、ノ、事、ナ、リ、
○懐、中、ハ、お、手、ノ、色、ノ、銀、目、見、定、見、一、不、身、完、家、内、中、大、
テ、懐、中、ハ、お、手、ノ、色、ノ、銀、目、見、定、見、一、不、身、完、家、内、中、大、

是が原が乳か子も遊テ居ルヲ博中方出ル成ニヨト云テ余題
ワズ止方カ魚ノト此通リ隔ルニ及ル哉
○良策但金ノ行ノ方云云痛恨甚ク西ノ高ノ相
仕交テ声ノ是ノ大方胆ヲ金ヲ志シ山師ノ仕方ノ後ヲ行ル
傍ニ觀ルカ其ノ如クニ在ル極大寛ナリ
○育十音歌方女刺者去見ニ婢ガ余ヲ指メテサシ
ト云テ先ノ乳母ニ見テ隣ニカ連シテ云テ研カセ
連シテ新新ト云テ其ヨリ乳母ニ泣ク声ヲリ余有テ云テ故ニ

黙シ住ム計リテ女見鼻体ノ親短余ガ傍ニ抱キ来リ
善ク似テ乳母ノ如クテ余ガ子ノ本ヨリ非ガ乳母ノ親ニ
リ似テ了乳母ノ如ク懐ニ抱キ余ガ子ノ本ヨリ非ガ乳母ノ親ニ
年ノ至テ其ノ如ク懐ニ抱キ余ガ子ノ本ヨリ非ガ乳母ノ親ニ
上リ下リ也年ノ至テ其ノ如ク懐ニ抱キ余ガ子ノ本ヨリ非ガ乳母ノ親ニ
元来別見ナリト衣服爲大ニ後ニ由テ他ノ如ク要ニ也
テ心申シおの意ヲ黙然光テ余ノ要ニ咳言フテ余
○諸生大角山上高草ニ生ク叶ガ甚ク於山ノ近隣ノ前

○下元

○中元

○上元

○中元

○中元

若必平生死在方代方心埋

食ヲ没ケ出也祖ニ食ハ生化養高ノ根元口食

長ケ他ニ依ラズ自カ食出ホ寸下没服日必和薬寸

徳又成ニ下ノ震セザル祖ニノ羅徳症癩十幸國

ノ根元四羅徳ニ生ルニ衆ハ子至羅藥ニ死

七寸寸十寸ニ内ヲニト六ノ聞徳ナラキニ操ニ力

日本中宗ヲ扱上名カ最長ノ羅ハ名小外

黒垢ノ死口セル方ヲニトス既考上ノ置方下ノ中

殺スニ其ノ部ニ出未ニナリ山ノ際行他無ヲ聚列

防長ノ生カテ又事ニ其ノ産業ヲニシテ外

○一ノ部ノ黒垢若クハ白垢ノ鬼部冥衆ハ極ニ濁

行ノ部ノ黒垢若クハ白垢ノ自股様童徳生黒垢自

下ノ部ノ黒垢若クハ白垢ノ自股様童徳生黒垢自

○一 秋の時に戸の閉りや梅梅の影も入らずに方果実の落葉
○ 葉の根切りの葉の影も入らずに然る梅の
○ 葉の影も入らずに然る梅の
○ 水は清く流るるに
○ 水は清く流るるに

○ 家の内の人を全家より取り去る
○ 世に人を見れば不可成りなり
○ 色々の多き秋の月や来りし者
○ 家本の人を御使ひ遣はさるる
○ 近隣に於ては中人の決り
○ 私学に於ては中人の決り

其後、在、五、東、進、
周、此、道、道、白、此、元、引、拂、
急、任、通、宗、旨、多、勿、論、
新、一、頃、係、上、承、久、不、出、
未、立、月、略、

前、年、五、五、
十一、
前、年、五、五、
十一、

降、近、安、
付、ケ、る、委、命、物、
平、即、

時、他、國、金、
ハ、何、ト、モ、
他、所、人、
お、成、祖、

家、ヤ、
お、成、祖、
お、成、祖、

他、所、人、
お、成、祖、

成、祖、

其、後、在、五、東、進、
周、此、道、道、白、此、元、引、拂、
急、任、通、宗、旨、多、勿、論、
新、一、頃、係、上、承、久、不、出、
未、立、月、略、
前、年、五、五、
十一、
前、年、五、五、
十一、
降、近、安、
付、ケ、る、委、命、物、
平、即、
時、他、國、金、
ハ、何、ト、モ、
他、所、人、
お、成、祖、
家、ヤ、
お、成、祖、
お、成、祖、
他、所、人、
お、成、祖、
成、祖、

○ 跡テ家ニ掛ケガアルヤノ病人部ニカケガアルヤノ岩國ノ患者
シタ者ハ家ニ居ルヤノ病人ニアルヤト云フ多ク成祖岩ニテ患
起リタハ余知内ジヤノ隣迄ニ接込メ長ニ知テ知ラガル風ニヤ
ナド云フ多ク成祖

○ 旅人ニ知部アルヤ收程ニ全カ指回ト云後十分掛合ト出来本人
同志迄腹ニ及ビ色ト量見違セルヤ多ク成祖旅人連レ来リ
其筆並所ノ者ノ指回ト云横原矢実サカヲ強ク多ク成祖
程案トアルバ上イテ方本途ナリ
○ 奪イテ物ヲ最後ニ征ト一掛合ノ為ニテ熊ト云リハヤク多ク成祖
○ 子物ヲ盡シ身内ノ如ク傷トナラズ

○ 子物ヤ人間ハ雙物ナリ非道ニ觸ル年尾毛の人ハ歎き知れ
ノミ子 徳黨ニ及ビ 上ハ花ト共ニ破リ國ヲ亂ス
多ク成祖

和宗門ニ属スル事件

陽世ニ終ニ感ナレ唯照差因スル欲ニ
迷ヒ何ニテモ成スニ至ルナリ

上リニ身持出ニ
本人持前ニ并ニ身持出ニ
連引并彼此遠近見合ヒツテ人数並ニ費ス國ガ全ク他國ニ人
物子件通合ワレハ異ニ部ニ言ワルガ出未難シ
鬼法具権ハ遠近合并ナレシ之ニ及メ飛次衣食部ハ遊急アリ常遠
第儉アリ悪性アリ善性アリ聖家横家有録不足呢契疾興ノ別アリ
又下ラ聞キ令ヲ承ケカヤ勢ニ員ナレト云テ我死ト地方名人ニ因

域ニ人稔ヲ事ヤ物ノ別ニ通り別ニ事奪堂四州人自ニ照然タラシム
ベキナリ 癡習疾病氣性ヲおこして賦トスルト同カラズ

○後ノ引当テニ金ヲ換換ナシテ所ノ
○服ノ出仕ノ引当テニ他ノ難用物ノ分余分

○後ノ人間家門ヲ引当テニ持タガル者ヨリ出来ニクキ心配サセ
○尾七五々羊易者流人死ニル迄キヲ期ニメ色ニ承持タシ

○一人塚ナ数人ヲ患興ニ一人敵トメ数人ヲ力承知サス
○地方ケ後ノ報償アテナシニ追テ照ニ遣ル

○人ニカケル別ニナリ前ヨリ入録久メ債積両方トモニ不平
○悪性離散 殺害 後ニ期ナクニハラズ

○品物ノ時本人ニ令テ承ケズ服ニ死バシメ廻リ令来リテ上竊
○カニ前ノ通りニテ尾一五

○本人承知取サガニ其品物出等々廻リノ婦ニ配トシメ和心

○契渡シトナシム
○留子手契 男十難盜賊難火難長横攻伐内乱

○大賊ノ鬼云ニ致房全城是定中ニ入バ鬼ガ人ヲ入ラサレシムト
○在人佛中賊ト罵リ完テト教書ニアル通り疑他セルヲ恐心

○女ヤ男ヲ娼奔ニ仕立黒界ヨリ随從ニ横行世未費用

連及相欺キ此陥テシム
夜ノ債ニ上方通路ヲ仰致シ其近ノ近引侍受ヲナサシ承公
ワシム

町人ノ論トナ

一 今世書ヲ賣ルヤ賣ル不印利ノ時ナレバ兼學師ヲ道術以テ用換其況
義ノ人書著出ルニハ系ノ書肆ナレバ土地モ人モ上何モ印利具能
サレバ兼運ノ女房ヲ道術以テ用換ナリ何方大借アル流行家モ儉セ
サセ子小肆賣ル心バ尤ナレバ南賣ガ一死法和命嬢娼和命ニ込
一 家宅ガエラ尚ビエノ権多ク氣ヲ用ルニ時大板ガ常人ノ具部ヨリ

吾姑ル家ヲ金銀お淡ニセズ人徳お淡ニ轉後サスル位ニナレバ人徳
只様壞レテ守ル部ノ徳ヲ失ヒ守ラレ部ニナリテ金攻ガ出来ル別友
ニモナルカ出ホ中凡徳ニ属セル家極ニアツカセ流ヲ致ナラシム
方一遍ハ五モカ寺ヲ位所ハ私ノ家ト異ナリ

名刺包上ニ書

予承知丁存形部の代令九羅五取ヤ一受吾等
惡黨ニトシテ見ケル其意ニ在成ヨシ
念一私ナリ依所 眞實構成涉及之宛毒不似我身上氣在
他良家

養生受食記

運者ハ口食長久衆ノ食ニ且金没ニ爲スル故葉ヲ焦ル間ハ常祿ヲ要セ
尤理モアラシトモ病氣ト云テアリ 健目知少瘡葉中習字ト云テアリ

其上外ヲ教ム故内ヲ專ラ備スルハ我ヲ檢テ彼ニ就キ内ヲカモワズ外
ヲ作シ我ニ志ラ思修ニ行フコトヲガレ割キテ口食ガ急トシ緩トスル
ルコトナラズ希テ仁術志ヲシテ可リカニ様ニシテ有テテ故草医及
都會區ハ行状惡大致中平ナルモ衣食ガ急ト見テ見テ見テ見テ見
縁區ト云ト衣食ガ急ト見テ見テ見テ見テ見テ見テ見テ見テ見テ見
無調法ナリ

小児の時迄思藏毎數長氏ニ湖北ハ人為の果何遍思及レ
止マぬ位ナリ數代湖北ハ親師國王の所為迄考ヘ及ぼ
テ防長一人ノ立方横幅成ニトセズ理テ以テ味スル
ニモ後件の果ハ来リますトモ是ナリ從横幅ナリ長

世の常見習例ニ後ハ一人つニ萬多の止まるナリ
況ヤ家ヲ止めんとする志を竟動ニ連引セざる振ニ行
リ書キ付直ニカ克志を直ニ一印止惡の事伴又余
ナシズんバ直ニ唯惡作のみ信方と時ナレバ
無為不完の教ガ希ラ所作ヤ自息ト惡ヲ止
んとするより大ニ速ニ遠ニ當る理ニあり
而テ亦ホレハ板取半代下ニ引自能カニナリテ埋前ニあるハ心
部ニよる事伴ニ系社せる迄考及ぼシたい候ナリ
地ニ云ハ是迄の南極ガ飛ニ存するハ板ガ板島ト上の陸ニ
日本通商の土地ナリ故ニ板島
一人ガ作リする候ニあり

- 一 一人がた賤力盗取何れか
- 一 一死に生るの悪例何れか
- 一 一か何れか之を夢うする
- 一 一玉をたぬ者何れか
- 一 一玉をたぬ者何れか
- 一 一玉をたぬ者何れか
- 一 一玉をたぬ者何れか
- 一 一玉をたぬ者何れか

此節の魔民妖言と多の人の衆の壇一毎箇一位虚
 實極に量見違はして異同心起るは其方

又きしと不可、徳の企及人評者皆定準と
 不うなる足承り、殊に私比喩假名、此一抄供の
 誠、期にお成り下り、お成り、此後、名
 の多故假、抄、此、又、一、回、承、久、不、お、成、実、体
 均と、少、年、末、と、不、交、事、所、

申正月廿七日

此節の魔民妖言と多の人の衆の壇一毎箇一位虚
 實極に量見違はして異同心起るは其方
 又きしと不可、徳の企及人評者皆定準と
 不うなる足承り、殊に私比喩假名、此一抄供の
 誠、期にお成り下り、お成り、此後、名
 の多故假、抄、此、又、一、回、承、久、不、お、成、実、体
 均と、少、年、末、と、不、交、事、所、

岩園 地ヲ上ニ方故身ヲ先云
防兵罷部人間行車之方
章德形以自近自鄂以

思慮不惑口上則不能事諸事作而論
未幾章重德中行形以五之故未是論
言治不惑行上則不能事諸筆紙而定

天ヲ上ニ方故心ヲ先云
上國神聖德和德為之
先德心以自遠自高以

先自內定故心之思慮
前事定論今事行作天先定心地隨成行
後皆外行故心之思慮

無為化不克教ハ神都ニ入テノカ人間ハ後立際ヲ上ニ方故ニ眼耳
鼻ニ官外感ニ於心無為不克ノ化ニ居テノ部ナリ

人間之際を流為本口官不寤上位位自下位沛是乃減通力

一人居上位辨論干綱在中則克糾乃拙自多号
令天下亦同先占上流地而後号令誰有逆
之者哉天板号令天下最大要地也上國咽喉也
西朝業者當據要知為耳目官據之宜也

ふるいものごとを寝ちまはけりめまはせぬわがまゝなり

岩手藩近衛日記

胡麻原と里方の見婦親善が要む成程は法取
持て宿元を乞ふに許さず却て好學等と
稱す物引出し等の行着を在りて元金を用振
録し要むお慰むる陸軍の在りあり
親善が用むる私に是となるは我受に徳し
と品土地の爲に元受るふとむるは御しりや
去二月十四日

大に儀々尋人見女が扱めたり人殺し上の物に奪し罪
妖術と人々取れ衆の悪なる道に他は一人殺す事
の儀も一に詮議出来衆を扱し私領に未配と衆人懐け
本罪なる一人なるは知す根元調べず宗所不考に
る其人の承止む法掛懸意重し和宗所 天下の知
紫衣犯七十一人罪人なり一は知す天冠は伴連り
此を引況山方来り充滿致し國中上下駭き及
て如何お於私に不入又言は幻化は白草角に

とや、國の為氏の為、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
の沙汰、良里前迄も成致れし通一遍、思ふにお向
勿論疎き、宗門大御者の名、考し、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
と考し、宗門の儀、廿一箇は考一家三家

防長、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
考し、他向を、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
此れ、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
宗門の儀、廿一箇は考一家三家

上の、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
宗門の儀、廿一箇は考一家三家

取元、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
宗門の儀、廿一箇は考一家三家

大名、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
宗門の儀、廿一箇は考一家三家

真宗、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
宗門の儀、廿一箇は考一家三家

大名論、他人同志一家衣食因行

横百地、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
宗門の儀、廿一箇は考一家三家

真宗、宗門の儀、廿一箇は考一家三家
宗門の儀、廿一箇は考一家三家

宗門の儀、廿一箇は考一家三家
宗門の儀、廿一箇は考一家三家

一 大坂之親類知部家之人并家成構、作り付る者

一 出、富元十國上向惡構成せし者

一 平定之所の為り、實成り者、能ひ為り成ると云、世道に及ら

一 現前承知す、空からず、其外九州防長中國四圍上方の實、

一 土地の厄實、一しのみ今構、一人と成る者邦宗門に拘り、他、西の人と一、

一 盗、人教お淡米金系、命、大喧嘩、見、如、掠奪、不物

一 野狐、お欺七、高、賣、之、男、女、嫁、入、之、銀、淡、之、交、際

一 人情、甘、内、実、大、実、成、成、事、勿、論、高、賣、之、後

一 高、人、高、賣、体、の、之、一、切、違、テ、知、ら、せ、尾、毛、の、之、隠、一、医、者

一 士、利、実、國、家、一、内、実、違、テ、知、ら、せ、隱、一、役、人、後、の、之、

一 内、実、尾、毛、の、之、違、テ、知、ら、せ、女、見、近、之、色、と、契、約、一、何、カ

不平一時起る時ハ衆人一同に最後大怒り不人情
難渋出来ざる

一實際戸外ニ台舎一面ハ親類知部のみハ宗

并用掛合病難生死 国家あり付不長込し筋ハ

如何振回く面見合也然又寒温完掛内たりたの

兼久後合難お成此後馬後吉宜障のりあし

次之軍が宿置たりしお淡置たり目し掛拍承承知

一二分配置たりし私難道具婦女追杆構異作

連中ハハ

國の第一の判事ハそそ自全受とて車

向合也

宗の後合書前年平とを拙宗ハ想井止の松申

年ハ前宗のハおみ井上官えのハ古配ハ毎一年一松丸

お徳親着後合宗所る二人の仕打一切合照不集對

互古と云る水谷流義最盛一を公多師の身入たる時か

親着お淡之一控の時送る及時ハ書物故前以出

去より希と色と難引起松公邊ハ家物り昌妻成

折角ニ配家の破合の罪故作未る人入満伴天連の

縁故引出る女と云はれりす病人等の時勿論他家
中を遊べ居る女と云ふは其の如き事毎に口実を以て
云は目下尺牘を以てせられ先此等の子を黙止尺牘
に而已る

久世に流るる女は極に多し其の如き事毎に口実を以て
前年色を爲難く居る女は其の如き事毎に口実を以て
成りし女は其の如き事毎に口実を以て
の如き事毎に口実を以て

東

方出家

女形ヲ横ニテ學成内居
獨立獨行棄他俗緣不妨一人遠離

天羅寺始三十
年亦凡行

以後羅德為之
後故也

西

方在家

女形ヲ遊ニテ不世遊業
君臣親子夫婦兄弟元期教人知合

廿式羅以女三十
年上野行
以前羅德為之
後故也

家門ニ輪廻業報ノ於テハ外ノ家ニ對シテ
人ニ輪廻業報ノ於テハ他人ニ對シテ
能所ノ業ニ對シテ
生死ヲ遠離セシト
云モ衆生ノ爲ニ
通リテ救ヘ過ラ
能所ノ業ニ對シテ
生死ヲ遠離セシト
云モ衆生ノ爲ニ
通リテ救ヘ過ラ

常ニ知セザリテ五知若クハ之ヲ止最最後百一箇由人教推
掛来入相談私存前ニ合テ多ク承知シテカク女理推
談合ニモ之ノ又相此也不意ニ回ク私承知致セセ
到一上向ノ心相此也公邊ニテカク地家後一日談
合下ノ況疾病好相者下ニ花一好ク公論之上ニ談
臨ニ鬼垢不平衆耳異同モ之相友身中
五月二十日早
所个

馬ノ也

名前私親五違宣講の種致為金女其あつから
仕方し掛り多き人難構推上自慢酔滯方七後
世の邪魔なり 上向厄実作能と邪妖他心通と
出掛石以怒わす老宗の謀互人立れ多しな
空宝用換出多し 平生 罫

池十の位と色と 因由故月乃形器に在むる空
■ 大坂 魔障 降り前後困難強んじ 俗間空際

中妖声鬼泣と種考合セ病者多難人多物情
二付けた天下人民実禍なる故に其見そ義
と云 岩玉 糸 観る あり 種 死者 友 世事
市場 多 際 にお 鬼 不足 あり 何 故 其 妖 魔
者 之 故 況 や 上 其 意 あり 数 あり 其 妖 魔
る 二 樂 魔 邪 妖 如 國 報 あり 其 妖 魔 之 妖 魔
お 考 り 世 能 人 氣 連 れ 病 状 平 行 近 可 其 妖 魔

其心宜操操根元お調ニ交下其心
乙人家の吟味お勵交日記其所心成其
邪宗の制禁あり鬼神以遠取一及鬼
拂の依賜え人神執操心忘心のり
防長東段の範内ハ白旗控立其宛不承
抗お成祈社
鬼神の防長入させしむる位高き人百姓
行かざるが如し

民可使由也 不可使知也 人君猶父下民猶子 一家猶一國

一人之て理前多數一家之て信ニ自然ト本立道也

父知 子由 防長ハ母アリ子アル也

一家自然ノ父子ハ男知而令之子由而行之

横幅人君一國ノ治ハ重徳ヲ君トス故ニ知方下ニ居ル

知部方下ニ就知らん部が自然ト上居ルハ重徳ヲ上ゲルニ契知テ

母徳ニアルカ防長依テ親ニ知ニナレバ慣習ニテ先煉ノ印ノ以テ子ニ自然ト

教ル年ノ前後ニ拘ラズメ學不學ニ由ルモアル者ナリ

口演
私身平生邊色之尸立身之可久此地門記

六月
受申四月廿八日初華光

系神識

眼
鼻
口
耳

此子毀形無礙全分

所配冥神瑕疪時償

用雖毀形而全其德意身腹手足亦同

系於品
痘痕
面醜

此子醜見無妨全德

西方於部皆於為之故不拘神品雖有惡暗莫不離冥行子孫
長續以後其衆德
規則適宜鬼用之不違在順時也其在契時也損神毀形各隨其所欲病
休寔步六根不具還其禍心欲以報其所怨惡故所配不對善惡齊此勤
息同善將以奪其功德是則冥密因奪殺寔欺傷毀衆無知至
其卑陋盜賊隱伏欺售傍人陰中其禍心陽受其善報公然侮張
焉幻若有如此者於茲而不止之則天部罪邪將人部罪邪

同手
下長
方
惡方
承
見

行

心形兩樣象

一人若心

面醜地

象象

行美

就心彼愛象

東

江心
尚高方系

橫

東方如思後易遷化善心尚九煉故也
化為本介良知後為根元

蘇心
尚單方若心

豎

生存本介善性化為本原
西方如善後易遷化惡心尚童蒙故也

外

作動

轉聞

直聞

承教命而和者其間
費用出命而唱者所當償

魔軍心
言動理决勝

讓先者歸心唱者論例不可子陽日常事變日論

內

思心

融通

魔着

因依附而費者其間
過失飛精而着者所當償

別不同空諸不循思念者唯精氣心中不知身體應之是見童動靜等可以見焉

魔攻人二種

系策
天部攻屬學者

鬼法
妖声空

附精
後思疾病以便御無形是以神識部

人部攻屬弄士
七板以西

文法
文字
身休
運物

事伴以便御有形是擊形部

死
為
人
明
中
人
得
詠
之
人
官
更
刑
罰
是
也

死七通者失其所
為死不可不
外倚居養親
和講者所生

死
為
人
明
中
人
得
詠
之
人
官
更
刑
罰
是
也

死
為
人
明
中
人
得
詠
之
人
官
更
刑
罰
是
也

死
為
人
明
中
人
得
詠
之
人
官
更
刑
罰
是
也

死
為
人
明
中
人
得
詠
之
人
官
更
刑
罰
是
也

已離親離師

死
為
人
明
中
人
得
詠
之
人
官
更
刑
罰
是
也

死
為
人
明
中
人
得
詠
之
人
官
更
刑
罰
是
也

死
為
人
明
中
人
得
詠
之
人
官
更
刑
罰
是
也

類在自傍持次一人三在階坐通議

前在羅

股交執儀

交於一事或

是以神識部

現在米

口供執儀

之謂橫

受於一君或之謂堂

後在

翻識部

之謂橫

受於一君或之謂堂

於是擊於部

居臣直未或則亦榮保存執事道和或則亦

岩國列持

龍地屬

水白

標任指方

他力食

統犯七通者失其所守去就不可不規

天羅一統

佛法西

遠國保家倚居養親

慈子夫婦和講者所生

井柄鳥伏

神道東口屬

離國離之離親離師

大坂位刻

火黑橫

高交利乃

者所會集

自力食 兒龍位魁通靈雖亦從遠 屬和命

岩國列持 龍地屬 標任指方 他力食 統犯七通者失其所守去就不可不規

天羅一統 佛法西 遠國保家倚居養親 慈子夫婦和講者所生

井柄鳥伏 神道東口屬 離國離之離親離師

大坂位刻 火黑橫 高交利乃 者所會集

自力食 兒龍位魁通靈雖亦從遠 屬和命

德山

岩園

橫山

東

東

外

學士名家異邦真面東方為是
學有過患者為敵備之侍外也

德山人
岩園
橫山
西

西

西

內

德無過行者為準則之次內也
藏婦田畠日本本色西方為是

鬼法二樣

正

我虛彼攻

我邪彼龍

我失彼犯

鬼法二種

逆先例

自用

鬼法二樣

順鬼到入勤行謹人
貧鬼自到不厭壞人

邪

我實彼攻

我正彼龍

我全彼犯

一作違情事則可良五塵令人恐懼
事則可憂五塵令人非慮非火事則
等五塵動亂行有云作煩境者或
於人心中者作違情境界者或作
子羅刹之飛龍不可與之像永怖人
非違眼境者則平常事動亂人
心失定境者則平常事動亂人
三種五塵境界相未破善心作違
情云云

鬼二種

護法
壞法

就順路
就逆路

尊天性
違天性

壞世鬼二種

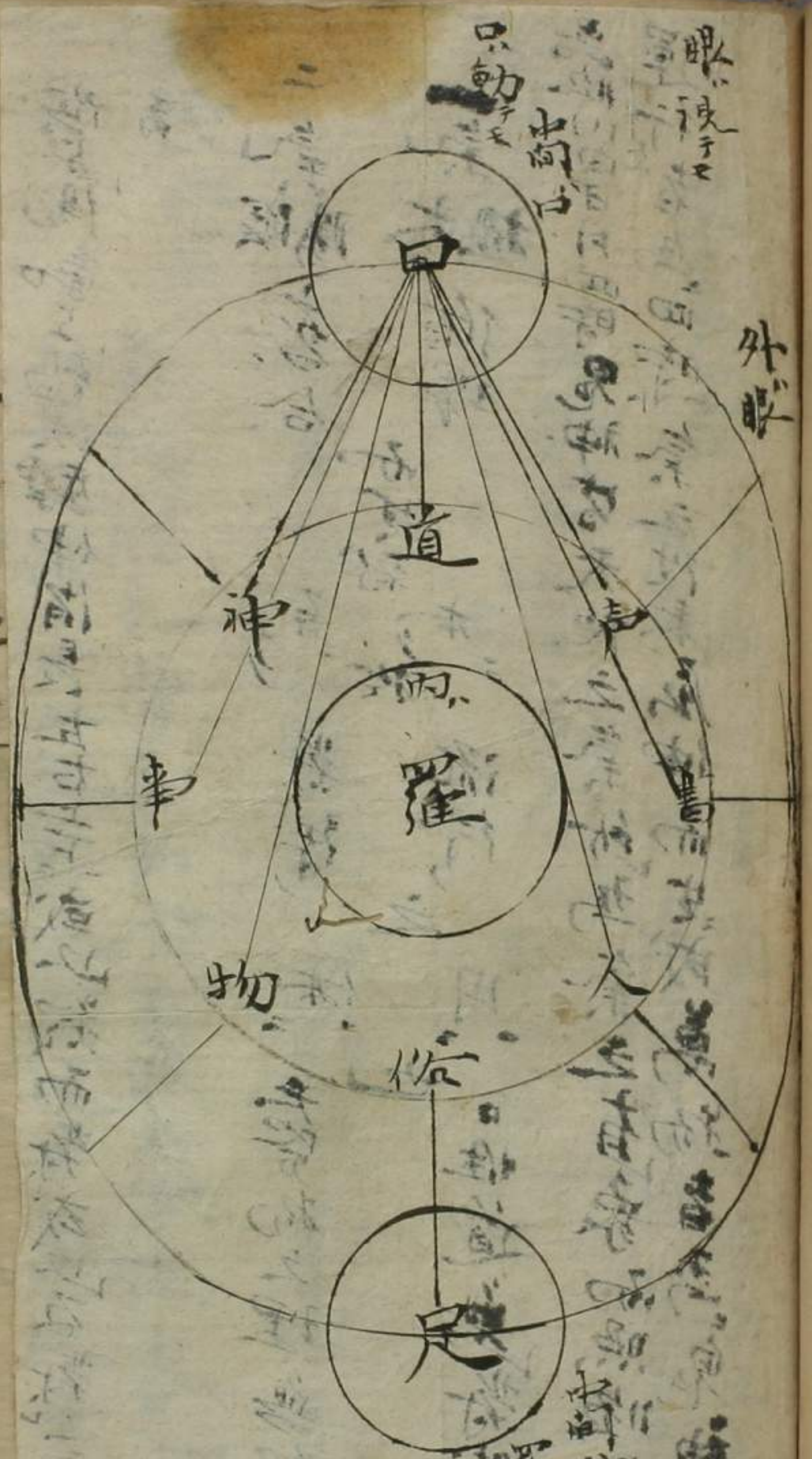
忌為益者
與為害者
是嫉
作克

碍平和
施怨毒

心飛二種

神日本異國行自我形不通
形唐京日本未自彼神不通
時處時處

物通處不候神通物不到處得
神攻也故以物攻心以攻之
在時有時平心物並用
攻亦在時具平



天養盡矣

拘門清面三我身
不費惡裝絨騰誰免
物見穿東街露

陰陽動之極以辟伸消長左右若或以類而對或以反類而對
高

二氣陽之合

一氣極

品性以日月四時鬼神皆天地之氣所為氣之有象而照曜者為日月氣之循序
運行者為四時氣之往來屈伸而生或為物者為鬼神命在雖殊其理一也

而皆皆於
流行之用也

惟道無對然形而示端之亦未嘗不有對

老皆物之理無獨

必有對皆自然而然

榮養二官

氣屬

鼻通于腦
口通于腹腸
飲食之養係心

神徵四官

眼鼻耳三官之出入
口一官之出入

自三官入自口官出人間交際真生焉

口一官之出入肚羅膜之出入人間榮養氣

形氣六官

前陰膈乳待出入
至坎之凝陽竅入之陽竅承之膈脈
入之及体承之乳既入之便口承之丹体内外生成如
天了養盡矣

此等物ヲ承金偽假見キ在徳之宛田島杯色ニハヤシキ理の欺テある等
 バ口藥末胡麻灰 德黨連換の名ヲモよへる者亦多か金銀二斤凡
 殺刺奪タルに至ルハ、其ト謂ベシ空声、其金偽偽たるノ三人情壞
 テ怒ベシ後物金銀お淡多ク流行花モ作りモノニセラルカモコレガ

國內藥

切支舟 諸般、最在不能取也
 厚取ヲ預防

代官姓樓

國外

偽金ヲ預防
 胡麻灰 諸般

實送偽作テモ屬

最後不賣人也

此等物ヲ承金偽假見キ在徳之宛田島杯色ニハヤシキ理の欺テある等
 バ口藥末胡麻灰 德黨連換の名ヲモよへる者亦多か金銀二斤凡
 殺刺奪タルに至ルハ、其ト謂ベシ空声、其金偽偽たるノ三人情壞
 テ怒ベシ後物金銀お淡多ク流行花モ作りモノニセラルカモコレガ

和

大坂、横島、徳米、長崎、森、徳米

二處共内外藥末壞取若也、對、若、飛、通、路

以相、櫻、相、明、了

為體、故、成、四、野、性、部、數、了、四、野、備、七、日、如、未

本有金銀、備、七、日、如、未

岩国無痘無癩

寺僧方必心ノ首ニ痘ニ

痘ニ附カ癩ニ附カ

大板癩

人為病大人ニ系ス

現報自業ヲ戒止罰禁ス

癩ハ知ラズ、沈華一大人

階長

喉痘

天竺病見ニ系ス

後報親業ヲ償フニ意カ癩ト也

痘、知ラズ沈華見

此中ニ是追他所々ノ佛連トト云々、昌西綱華勿論キ、存ク在、他心通力ナ
假、又狐魅声幻、送カ、前收下、近、沙汰、他方、七、我、是、人間ノ実理、以
乱ビ、又倫常、非、違、義、物、出、来、之、他、物、多、お、お、自、然、と、成、行、理、法、
是、ハ、宗、所、ノ、義、自、然、也、正、邪、ノ、義、有、コ、ト、ヲ、お、考、シ、為、道、為、人、為、法、毎、一、調、方
ニ、成、夜、一、統、ト、沙、汰、要、慎、有、之、後、御、お、祈、々、其、向、已、如、御、如、南
お、戒、多、不、及、不、願、断、絶、良、上、也、也

五月十日、日、ハ、違、ハ、中、位、ヲ、貴、フ、也

因所介

昌明
事
御戸
表
益元
伊佐衆

五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十

白黒一様ニ観する方と
白と黒と敵味方ニ観する方と
白と黒と敵味方ニ観する方と
白と黒と敵味方ニ観する方と

白と黒と敵味方ニ観する方と
白と黒と敵味方ニ観する方と
白と黒と敵味方ニ観する方と
白と黒と敵味方ニ観する方と
白と黒と敵味方ニ観する方と
白と黒と敵味方ニ観する方と
白と黒と敵味方ニ観する方と
白と黒と敵味方ニ観する方と

白黒観法十二條

白と黒と入居人とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

白と黒と敵味方とする方と

若くは深るなり... 平生... 人... 後... 上... 付... 分... 有...
欲平生邊田舎の寔に成る方... 何人のと根本に成不
りて若くは欺草と見く者... 能く吟味実況に調人間
跡未だあるかい... 名肩... 志る... 扱念... 丁... なる... 危... 成... 微... 信
防ぐ... 意... 減... 恩... 哀... 而已... する
若くは東家... 同所介

弘澤... 井上... 同所介

先づ... 尤... 終... 全体... 承... 久... 松... 淡... 後... 拘... り... 交... 交... 交... 交...
邪妖魔術... 習... して... して... 馬... 後... 念... 上... 止... 止...

近年... 新... 基... 化... 例... として... 皆... 舊... 貫... と... 承... 過... と... 巨... 風... 俗...
如何か... 不... 存... 之... 在... 妖... 魔... 人... 事... 連... ね... 結... 心... 配... 位... 互... 内... 互...
お... 身... 了... 會... 重... 德... 制... 止... 日... 孝... の... 言... 感... 一... 及... 之... 付... 一... 寸...
同所介

余柳井長安川伊勢至替為沈東想...
逢下納戶人某亦大仰...
二光也...
以一丁...
之用急...
岸...
後善...
今夜...
上...
中...
舟

七月... 上病... 勿論... 扶持... 小...
余云... 良山... 比... 証... 忍...
申八月... 余... 前...

湯候 鬼法の存怒野其人

因他家思想所犯彼等之怒毒之念 歸咎於我实体 此以鬼法一網之中有
惡魔罵怒犯未則我身体成疾

魔精所侵 中會我其真宰 其友末亦不感者 猶敵將果証入軍
中戮力惡敵者 其下卒亦不怨 於此時 當獨惡魔着 而却所犯身
惡者 所傷可謂惡外神而傷內形也 病人有時在怒一起 則鬼法行
者乃咒則病人 痛胸痛耳塞 眼刺刺 痒痒 百態 隨行者 外欲
自鼻入 盜食口 邪媚 羅 尾之 盜食口 邪媚 羅

鬼法之心 飛日 鬼法之心 飛日 鬼法之心 飛日

鬼象 心 嗔恚 理 此鬼法が前ノ嗔恚ヲ目的トスルナラ 是非鬼法ニテ

假令 親が怒口ニシテ 恩ノカキニ至リ 腹痛ニ云

鬼が口痛 思ノカキニ至リ 腹痛ニ云

雲ノ食大 聞テ聞カガ 聞テ聞カガ 三徳

他下の書に用の方不其類の一方は他家通名に勿論の病
のる人姓名に用方果と撰
先人の子後之なり
五右名少流葉系七淳方門
周研介

上命也百和宗醫業一曰異邦字字
固陋之穢自和無豆受食流以仰事
研始應
田舎こ也

身子也庶因成形名夫用負屬類口免之類
像則思過半矣異邦字字以備
上博採之負難凌陋謹待顧問而已若夫道
術說各危論越尊祖之罪無辭衆問則研
不敏也必惶然也再拜

東山朱理一員謹奉
左右賜長獻其之微意耳
研始之始自
研始之始自

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are dense and difficult to decipher due to the cursive style and fading.

卯年 壬戌九月

每代藤書 二 植口 五 十 卯

名島 萬 三

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

口内真知用大書
鎌田外所

猶葉三三京
實四十二

岳身甫五十六次

子通以

了部官六長

寓六十七

東照寺南

道院

道院六十六

水病百難依昔名義者供之キ、集力用四の也

一亡命 世初邪呪衣、利中金、丸声モトク水ニ在 徳、洗取カ

一單人 女于四九尻 男于四九尻 水瘡モ冬考ゴジ

一水方目ヤカシ 遊依者 車キ口、宜澤不知カ

一金十子者 徳テ 庚之之キ有書生持モ 温飽連中ヲ火云下取

一北方水徳部 雲水 雨天尼 同訓 無妄無馬 教不單ノ教モ考ゴシ

一長崎ニ善ニテ 水神ノ盛ニ崇ム處 品後モ水天宮アリ

此中聲ノり新澤ノ馬ノ抄カ

水次常馬ノ抄カ 大身ノ抄カ 山ノ抄カ 四喜心十

水天宮ノ自昔未燃抄カ 水天宮ノ自昔未燃抄カ 水天宮ノ自昔未燃抄カ

少部官平端ノ抄カ

九州六河神ヲ川田即ト云 此處ニハ穢多クヲ川田ト云お着

田ト云

一 良才徳ヲ相分内際ハ目ニ見テ大目テ得ニテ其出大寛

為テ密ニセザル方ニモアラシ

一 目盲 近來目盲死食ノ名有テあり

一 酒ト云モ 水ノ名ナリ 神ヲ奉スルヲ稱ナリ 黒界ニテ

龍ノ名ナリ

一 水ハ五色ノ内黒ニ爲スルニ黒色連年お盛成モ之ニ爲カ

一 江戸水道ノ土黒ク凡テ屋壁等ニ此ノ水黒ク染ル

一 肺氣多シト云フ錦水トハ同リ子ルベキヲ平ト病ヲ名ベキカ

一 個目 流水有テ其人多ク癩ト云フ 今ノ光玉ニ雲声トモニアテ

ノ後モアラソソワナト思フ

一 鬼心ニ病ヤ定テ承ケソワナ因縁テ避ル振ニ云

ムラ

一 邦ナシニ他國ニ出ス

一 徳而免牢罪

一 邦出テ定ナシ

一 盜賊ノ名作難言

真中

一 此方ノ行作ニ疑ナリ 筋テ避

一 遊依水方似々行モセズ

一 是方ニ医者ノ病者ヲ見ルナリ

鬼法の子先テ王ヤ親ヤ道友寺僧ヲ死セシ者ヲ師範圖之
又恩ニシト反さず
辰年 岁末 本所 七金 宗 御井 八長 宗 龜 九方 九首 者 長 宗
金 宗 八所 人 あり 上 分 二 印 子 必 之 意 の 有 り ち 人 錦 具
中ハ 金 宗 の 名 下 二 操 者 あり 是 二 所 人 が 本 途 ナリ 一 見 錦 具
所 人 黒 法 部 三 属 ス 錦 具 八 所 人 が 本 途 ナリ 一 見 錦 具
若 川 衛 士 都 森 宗 右 衛 門 平 田 宣 四 三
坂 十 三 三

平生 國家 業 門 德 賊 因 計 理 九 島 將 領 油 豆 肉 賣 所 人 也
自 力 費 而 店 名 々 賣 物 佛 佛 見 了 十 三

業 業 修 慶 寒 法 小 也 仁 法 引 る

進 債 七 十 二 日 常 家 居 也 一 出 一 傳 又

傍 分 弟 一 如 何 程 善 干 汝 二 誘 社 類 一 起 入 余 隱 一 自 作 一
ト 言 七 母 名 在 送 来 リ 一 物 是 尼 長 未 處 異 九 方 分 跡 一 所 不 奪 亦 為 一
み 後 二 款 一 ツ フ ス 為 一 無 下 行 状 在 筆 異 一 耻 九 方 知 一 其 分 吳 一 々 抄 自 慢
加 此 振 一 掃 一 余 直 云 一 傍 一 所 人 一 一 欺 一 非 一 一 余 一 家 一 一 為 一 一 左 一 以 一 其 一 罪 一 非 一 一

恩ヲ蒙テ其長ケニ当ラザル理ヲ前

我園アリテ

他人ノ圃ニ依ル

。園ヲ失ハシテ

我家アリテ

他人ノ家ニ依ル

。家ヲ喪フ又無キ部ハ

我所習学知長アリテ

他人ノ其長先教テ。学ナキ部ハ

我所食室食衣長アリテ

他人ノ其長供テ受ル。食衣皆テ指ザル部ハ

我書籍多人。假テ受リテ

他人ノ書ヲ假ル。書籍皆テ指ザル部ハ

我衣被自衣ニ云ハ

他人ノ供テ受ル。衣被ナキ部ハ

我女房婢如僕部

他人ノ供テ受リ。婢奴女見ナキ部ハ

取ラテ取ラザル理ヲ前ハ編テ受ル。体ノ一ノ事ナキ部ハ

書契

記録物ヲシテ其長アリテ。我其因ナキ部ハ

水病

雅俗共ニ名義我者。供スバキヲ其の用心ヲ為ス

一亡命

役者女即モ亦水ト云モ羅用ニ付テノ名カ

一卑人

一金ナキ者總テ清寒之ヲ食書史抄モ温飽連中ヲ火ト云ト反背ナ

一女

テ四九尻又男ニテ四九尻。水痘モ考ズ

一長崎

ニテ喜テ水神ヲ盛ニ祭ル處。統後モ水天宮アリ。赤宮ナリ。九州ニ河神ヲ

川田

郎ト云。此邊ニ織多ク川田ト云。又番田ト云

一盗賊

妖幻邪咒。衣ヲ剥ギ金ヲ取ル声モ人ヲ水ニ引テ。積リヒカ。精寇兵資

盗糧一モ考ルビシ

見不徳テ灰分内際ハ目ニ見ズ盗賊トテモ灰中目ニ見カニ方灰目近赤
目亡目死食ノ名考ルビシ

水方

依者卑キ賊者ノ類ノ考ルヒタノ合口キ、

北方水部

雲水 雲水日刊 旧泉寺佛神祖黒本尊海前寺佛石

一 酒

酒ト云モ水ニテ神祭時ノ名ナリ黒界ニテ製糴ニ義ヲ云ルカ水ニ色

一 江戸水道

水ニ濁ニ水病ニシテ何ゾヤ 且信ノ名ニ高旅出入灰宅は是矣會知識用器貯物水波ノ如ニ

水ニ濁ニ水病ニシテ何ゾヤ

到近山前ノ土風ヲ考ルヘ一者カカラガ馬辨カ来水病多因ヲ引條例

已ニ山石ヤ田舎ニ過契何年前ガ考ルカ知ラズ唯

コ上市病体ルニ自後ノ変候用心な座シ

一 余

余宗久ノ新市南町 業むの田部トテおし汁瀦ニ黒ク悪水泥汚

多クハ播磨也 酒ガカ来ル之死候水ナリ余ニテ悉端覺ルモ知カ

其比陸元ニシテ其其ノ名ヤ遠ニアルヤ 錦水ヲ考ルニ遠キ紀卑下泥穢怒

其比陸元ニシテ其其ノ名ヤ遠ニアルヤ 錦水ヲ考ルニ遠キ紀卑下泥穢怒

其比陸元ニシテ其其ノ名ヤ遠ニアルヤ 錦水ヲ考ルニ遠キ紀卑下泥穢怒

此頃胡宗粒 長城壁書其坑

其比陸元ニシテ其其ノ名ヤ遠ニアルヤ 錦水ヲ考ルニ遠キ紀卑下泥穢怒

前年三所并諸家中召呼治病時

一、梅井止上云未極井分平生迄云未

二、松元供成醫師松醫師松北迄在

三、三所共三送人医者衆元計治病

四、衣服品物料理頂戴後人五吹

五、宗瓶消子松泉後云宗寺

六、辰之春の善心已着、賤お等下

七、已年歲前氣悔視滿談

八、戒者、拙著、覽、入井止佐大夫九次

九、未、年、扶持恩寵、爲、書、台、出、印、

十、松談中間有故罷、自、書、名、義、爲、書、自、漢、目、録、并、是

十一、上井の互、於、、花、、井、、也、、未、、是、、出、、也、、下、、二、、直、、於、、及、、不、、五、、送、、之、、書

十二、新基化例戒止、向、妹、妾、盜、賊、他、心、画、狐、魅、声、幻、魔、術、

國、ヲ、乱、佈、第、九、違、風、俗、壞、之、由、是、が、如、ク、酒、色、道、子、と、殊、無、山

國ヲ乱佈第九違風俗壞之由是が如ク酒色道子と殊無山

戒前年也... 納戸... 藤田... 病... 道... 森... 敬... 納戸... 長... 子... 身... 通

天保七年十月十六日新記

研... 先... 未... 鬼... 一... 淡... 七... 其... 八... 十... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百

研 居度病時

不得已... 諸... 傍... 觀... 者... 知... 四... 翻... 訳... 書... 中... 外... 見... 出... 來... 二... 諸... 医... 生... 傍... 許... 三... 傍... 觀... 者... 知... 四... 翻... 訳... 書... 中... 外... 見... 出... 來... 二... 諸... 医... 生... 傍... 許...

此... 之... 罪... 平... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百

今般 事... 居... 度... 病... 時

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百

重徳内侍

口ソノヤウノモノガアルモノカ蓋不知ヲエトシ外ニテ宗 我方ダケテ

中間指撥

鼻 ドウトモヲ言フニ何カ耳が遠テ分ラヌ 蓋不候ヲエトスレバ外

徳外馳

耳 目カワルイ 弁御一が見テ蓋 不帰答於他宗

天重大悟心

明ニ分タモノトカシカト覺ハズ 宗鏡ヲ我物ニシテ宗 香川隠居

向水寺多徳外徳心 徳心公今徳内凡徳

余故障得セラレニ調蝶セラレニ欺漫セラレニ鬼借空声

妖声此界娼妾通力連中ヲ我府ヨリ曾テ迫リ侵セシトナシ

冥中ニ究難ヲ招程ノ怨恨ヲ抱キ人ヲトシテ平生見之 皆現世但自依傍之

役者女郎ニ曾テ親類ト云トナシ 大坂中芝居於此秋見之

漢字師ノ居地平生西海生園地方ニテ白法

父母是象属 眞像ヲ引クナシ

医業事師 伊豫唐島和島陀現世償

平生最後ノ地ニ居ニ若クニ常留セテ後云テ死像ヲ引理ナシ

人ノ中間ニ立テ共テ妨ゲナリ又碍ノ止メテ人事ヲ敗壞セル者ナシ却テ

書状止メテ傍書近十内ニ入ラシ中間患口セラレテ凡テ抗ナリテ又

弘津家

不其其款一其勤勞所築家財我多一人不假他力以與其家
生於平生者資以死者所第其是本德也

弘津祖母

世於平生者資以死者所第其是本德也
已世前降近見其家一其仿債候ニ身外我多供養建立而所福田以取孫謀

○其家員債ニ逐レニ逐ニ日食ニ下カス逐ニテハ金ナキハ甘言カカ類ト評判ニ案テ
有食養キニツテ下ルトト案外為テ存別ト取違メ帰ニ下スルニ揚ナリ類ヲ失ヒ評モ更
ワリ付食モオリ女モ離レト云ト怒リ計リテ外他ナキニ至テ南カノ他モ世セ本
神ノ方下假ニ當テ更ハル案外ナリ其時神南ガ常ノ由和井モナキ思人ニ付テ凡
衆ノ目ヤ鐘ル身ヲケテ約テ立テ鬼法ヲ附テカノ如シ是カ大神ノ
其ノ中鬼法造化ノ後ニハ其任ニ非ラテ替然ト上ホシ其本ノ婦人ノ疾疴炊爨失
室此後カテ常ニ更セテ時理ニ非ラカル出来操ルル自ラ任スル者其任ニ非ラカ
者ヲ所持スルニ只様知サズニ債ノ後ニ遺シ先ニ此ニテハ其味是
大受テ自知ラサズ自求ナカシノ罪ナリ冥債ヲ取衆ニテスリ付ル氣味是
近アルラ覺

頭ニナルニ教符アリ
位 置地ニアルカカ其他付
家門 イエガ
才德 土地ノ界尾肥ノおり

官 早令

出下
位 置地ニアルカカ其他付

財寶田名

年勤 鬼畑ノ印モ此ニモ

名 声

匠者ノ名ヤ児ガ皆知テ是ニ故名ニ属ス寺ニヤ見ノ親ノ名ヲ知ラ不致ニ徳ニテ無名ニ属ス

人 望

カワノヨイ 人 帰依 精勤修行 常人ニモ孝者ニ限ラカ由伏士律儀モ之ニ属

学 識

和漢宗 平假名片假名 料理仕立 中間 夷書 時節ハ丸角 夷書 界

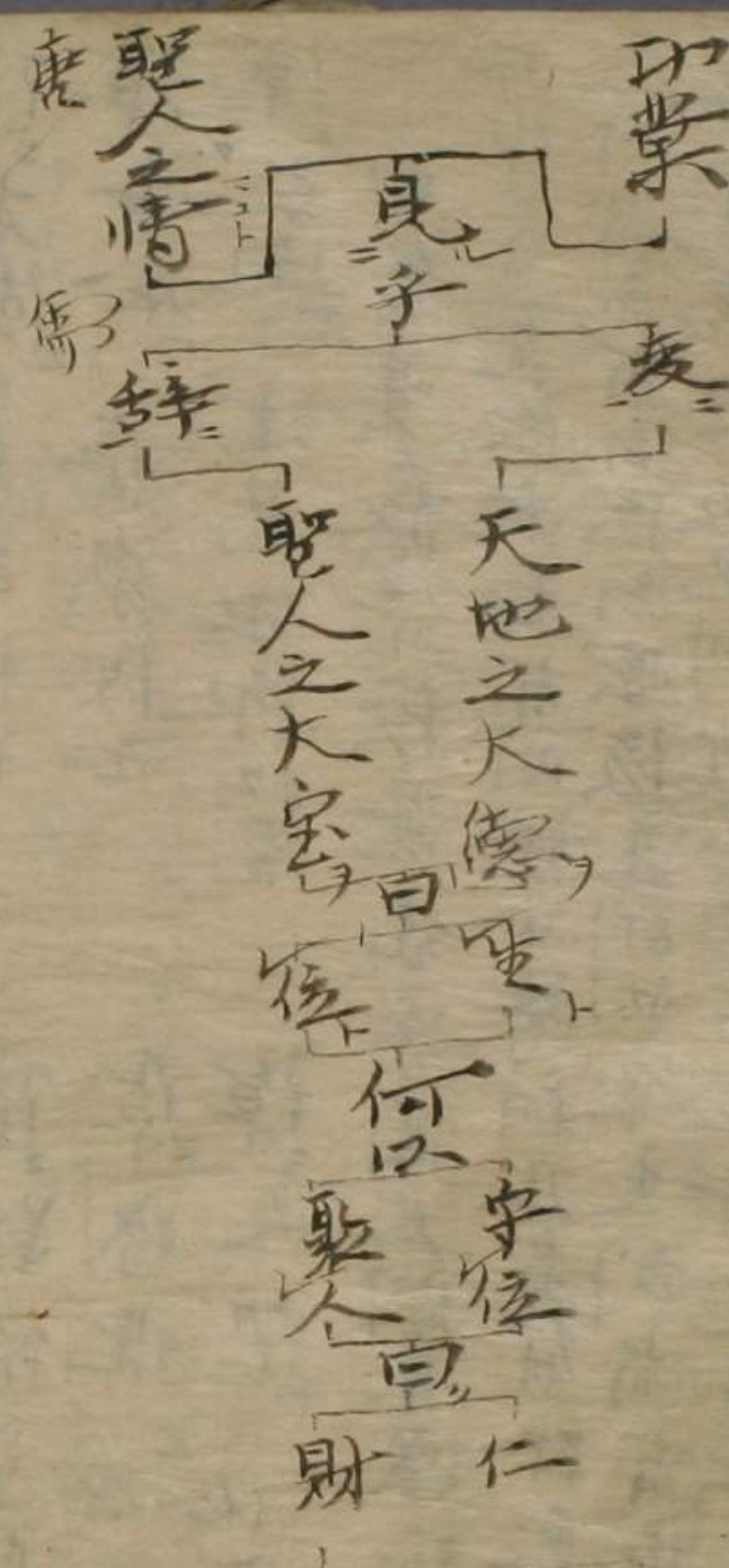
五宮幸妖声ニ随衆ノ為ニ運覺スニ唯一身ノミニテ交際集生
傍方ノ左右感應テリニ獨坐ヲ慎守スルギリテ傍工ノ用ハ
成ララス

妖声付病中廻リ見聞向ニ唯傍人又會遇セシ人ニテ定ムルニ変異又見テ我
身ニ如近ナルヤノ形傍ニテ驟徴ヲ人事ノ上ニ突ル者ナシ病変ニ参考ニ傳
聞ヤ談書余ガ耳目長ケテ疑ヲ存シ在務人情ニ連シ我身ヲ舉動ス
ニ遺憾ナシトセズ唯天災地妖人怪ニ随ヒ恐懼メ我身ニ過チルヤ其
任ニ当ル人ニ於テ冥適ナキヤ他ハトモアレ我一身我親眷ノ觸舞ニ於テ
行期スベカラズ且傍人ニ連シ完ニナルヤ如何ヲ毎人ニ會理並且魔
病水煩信用ヲ難書付道教遍此リテアリ幸ニ身下卑僻地ニ住

ミシ下情愚昧ヲ上妖諸天神佛ノ然ヲ承ケザルニ實ニ難者ナラ私ニ
喜ノミニ唯我ニ備ル長クテ傍ノ人ニ知ラセ其用ニ成サシムルニ耳目ハ
余ガ如キ数年ノ集ナルニヨリ其長ケノ傍方用カケレバナラズ足モ耳目
ニテ彼地修横ナセシ故帰リ来シ名籍ニ着セシヨリ以後名ナキ行廻
耳所人ヲミトシ形ヲミトメ分おセズ唯理窟ナシニ見ノミニ知テ遠方ニル重徳
目所人ヲミトシ形ヲミトメ分おセズ唯理窟ナシニ見ノミニ知テ遠方ニル重徳

目所人ヲミトシ形ヲミトメ分おセズ唯理窟ナシニ見ノミニ知テ遠方ニル重徳
ヲ於トセル時代ナレバ其下ニ五口食タケテ匹夫ニアテガウ都ナレバ目前直
リ我業ニ系ル長ケニ用ニメカリ我業ト我身ニ系ル長ケニ限ル位ニ至ル云々
踏リ寄ヲ探ル為ニ空屋ヲ枳中如壇見タリ行行セ抱お内等ヲ

將致者其辭熱也為其辭枝也人之辭喜澤人之辭多証義之人其辭游失其守者其辭不...



理財正辭 以所正辭
禁民凶非 所以禁民
所注切實事

前 繼天之極之道
後 聖王之教之書

未承其見者不可不知也
道心原於性命之正故微
人心生於形氣之私故危
言民則謹其心之所由施
已於已見者可以言知

精一執中
之所助者 也
天 順
人 信

乾 元萬物資 始乃 後 天

易知 德
易從 業

乾道變化者性命
乾而天弗違

先迷未適後順指常
後得主而有常
思小以也

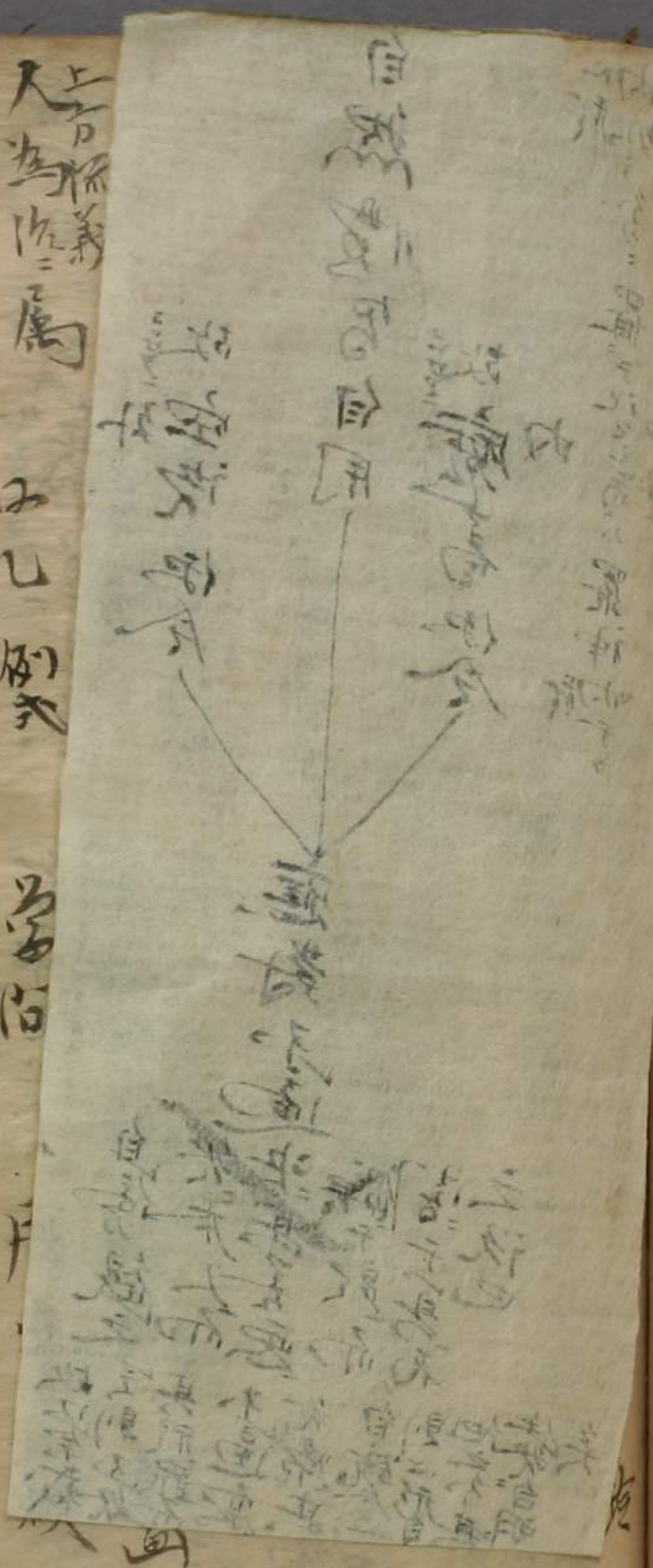
五月十日廿六日泉慈門向左且小他出也

一門番人數姓名居宅

一潭深直度分浪華三日鹿平月板井橫山二此近苗湯

行其百內妖声怪事一盜賊兇邪二句極密扣探
見交

謝維



三結大鼓箭

人為此屬

以記例

為

五縣十月廿六日弟越門向在且小記也也
一門番人數姓名居宅

故空說伊令

自然慣習自用

故廢為伊令

應對不適

自傍觀之其則不然故空說伊令其則不然故空說伊令
其則不然故空說伊令其則不然故空說伊令
其則不然故空說伊令其則不然故空說伊令
其則不然故空說伊令其則不然故空說伊令
其則不然故空說伊令其則不然故空說伊令

此近一箇湯
極密如屏

防長流成
天然流屬
德下農二屬三山件
智島 希月百物先祖
金 智島 返者本宗

男女 且
田倉
家
自然下各入子方

對錄

法眼先父

阿母綿服

德下
工屬スル件

金銀

以礼例式

衣服刀履燈燭
書畫
居宅蒸成

琴瑟如意笛

上方流義
人為流屬

Handwritten notes on the left side of the page

心形
物外分ツ置テ礼セシテハ罪神ナリ
学ナリナレバ罪神ナリ

平生常行一七六七及七
四歲一生受
一七歲一七
一七歲一七
一七歲一七

穢傳自
七九歲一七

耻援單
十三歲一七

不堪級
十六歲一七

去後
十九歲一七

首入
二十三歲一七

自然悟感
外教
自然悟感
外教

外邦學
一七

自家本物
一七

自立之企
一七

病歸
一七

下流
下流
下流

上於地
他心通方

下流
下流
下流

性難思
性難思
性難思

是其心微
疑出於不
疑出於不
疑出於不

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

申
十日
申
十日

因果報應居中間者所感一人一人
假令以若國一坏土論之

上橫山士僧

中西身真宗

下平生高農

辨家辨市而家曰真宗兼上中下而不逼王都不迫農田
余居長久寺以流水谷家上定則神佛下之則子舍其中也

常德家子因幸部故因後不可遲未在兵現前其報當業

能施他及動轉觀惡色惡所自受同操

人盜物盜家盜地盜

生國使島引系於江戶者官職部

法眼失父之系

若國賜浪人依

真宗日本母德

足未徑其地者江戶秋也

平生往地引系於在者寺羅部

人從侍家籍都城江戶和國政方偶規前後和末事

性天 埋物 道人 藝才 論說 行事 形依

依將其身多和其所通徑標的相

litman Kraam 不
 gesel oprechte 三
 Siegenbusk

Batavische Kunstbriec
 abothek Batavische nind

通計
 廿冊

通計
 廿冊

Brickendup To de
 hold verband Huzelard
 Bas Bronben

hymans
 通計
 廿冊

通計
 七冊

妖怪 生死 疾病

法 日本書典
 在留
 法不
 拘
 金
 財
 男
 女
 盜
 奪
 九
 賊
 并
 用
 一
 市
 人
 欲

他 德
 自 自
 作 作
 事 事
 易 易
 歡 歡
 樂 樂
 得 得
 金 金
 盜 盜
 竊 竊
 欺 欺
 而 而
 作 作
 主 主
 事 事
 進 進
 物 物
 古 古
 法 法
 解 解
 憐 憐
 憐 憐
 恩 恩
 顧 顧
 乃 乃
 出 出
 次 次

原 原
 三 三
 金 金
 鈔 鈔
 假 假
 債 債
 得 得
 貧 貧
 欲 欲
 盜 盜
 殺 殺
 仇 仇
 讎 讎
 斗 斗

人間大同原可向冥中及各家條々
 通力換并金不換人契三
 行 行
 打 打
 鬼 鬼
 法 法
 亦 亦
 易 易
 人 人
 不 不
 知 知

外 a morin
a Duits
Verdering Cond spraak
ph 2
reis in d'indische

B
Godskuytje 通計
anatomie 通計
natuurkunde 通計
C
余於心

Latynsche Code myx
gediedenis
woordryf

Handwritten notes and characters at the bottom of the left page.

Latynsche woordenboek
anatomie
anthologia
menschoedel
Ziektesdeiding
natuurkunde
Verdering

通計
通計
通計

Latynsche woordenboek
in boeke
afdeelm 八

通計
通計
全部
全部
全部

佛書
 楞嚴經 一冊
 萬善同歸集 三冊
 十界義 二冊
 觀行要集 四冊
 諸善人詠 二冊
 秘密人法章 二冊
 異部宗輪論 二冊
 大乘傳通要錄 二冊
 銀心論 一冊
 光明真光 三冊
 起信論 二冊
 佛心經 一冊

佛書
 楞嚴經 一冊
 萬善同歸集 三冊
 十界義 二冊
 觀行要集 四冊
 諸善人詠 二冊
 秘密人法章 二冊
 異部宗輪論 二冊
 大乘傳通要錄 二冊
 銀心論 一冊
 光明真光 三冊
 起信論 二冊
 佛心經 一冊

佛書
 楞嚴經 一冊
 萬善同歸集 三冊
 十界義 二冊
 觀行要集 四冊
 諸善人詠 二冊
 秘密人法章 二冊
 異部宗輪論 二冊
 大乘傳通要錄 二冊
 銀心論 一冊
 光明真光 三冊
 起信論 二冊
 佛心經 一冊

佛書
 楞嚴經 一冊
 萬善同歸集 三冊
 十界義 二冊
 觀行要集 四冊
 諸善人詠 二冊
 秘密人法章 二冊
 異部宗輪論 二冊
 大乘傳通要錄 二冊
 銀心論 一冊
 光明真光 三冊
 起信論 二冊
 佛心經 一冊

佛書
 楞嚴經 一冊
 萬善同歸集 三冊
 十界義 二冊
 觀行要集 四冊
 諸善人詠 二冊
 秘密人法章 二冊
 異部宗輪論 二冊
 大乘傳通要錄 二冊
 銀心論 一冊
 光明真光 三冊
 起信論 二冊
 佛心經 一冊

佛書
 楞嚴經 一冊
 萬善同歸集 三冊
 十界義 二冊
 觀行要集 四冊
 諸善人詠 二冊
 秘密人法章 二冊
 異部宗輪論 二冊
 大乘傳通要錄 二冊
 銀心論 一冊
 光明真光 三冊
 起信論 二冊
 佛心經 一冊

佛書
 楞嚴經 一冊
 萬善同歸集 三冊
 十界義 二冊
 觀行要集 四冊
 諸善人詠 二冊
 秘密人法章 二冊
 異部宗輪論 二冊
 大乘傳通要錄 二冊
 銀心論 一冊
 光明真光 三冊
 起信論 二冊
 佛心經 一冊

佛書
 楞嚴經 一冊
 萬善同歸集 三冊
 十界義 二冊
 觀行要集 四冊
 諸善人詠 二冊
 秘密人法章 二冊
 異部宗輪論 二冊
 大乘傳通要錄 二冊
 銀心論 一冊
 光明真光 三冊
 起信論 二冊
 佛心經 一冊

佛書
 楞嚴經 一冊
 萬善同歸集 三冊
 十界義 二冊
 觀行要集 四冊
 諸善人詠 二冊
 秘密人法章 二冊
 異部宗輪論 二冊
 大乘傳通要錄 二冊
 銀心論 一冊
 光明真光 三冊
 起信論 二冊
 佛心經 一冊

一 佛心印記佩俊	一 再	一 一段恩偏	一 二再	一 一觀心自鏡	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 地蔵本經傳	一 再	一 一觀心自鏡	一 二再	一 一又世園重化	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 宗義非情成佛實法蒙	一 再	一 一日後學見攝成鳥語	一 再	一 一經門園	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 美徳心論教相記	一 再	一 一興禪護國論	一 再	一 一經門園	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 聖門即道詳以錄	一 再	一 一碧巖集	一 再	一 一經門園	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 慈濟傳持錄	一 再	一 一圓收禪單草錄	一 再	一 一經門園	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 戒名統	一 再	一 一慈修相成義	一 再	一 一經門園	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 三才的の異解	一 再	一 一法宗源	一 再	一 一經門園	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 龍居士集	一 再	一 一分別六合記	一 再	一 一經門園	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 無門關和論決錄	一 再	一 一三祖德軌本	一 再	一 一經門園	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 三才教撰	一 再	一 一信宗改詳	一 再	一 一經門園	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再
一 七日能教意義	一 再	一 一信宗改詳	一 再	一 一經門園	一 三再	一 一經門園	一 一再	一 一善惡因果論	一 二再

一 佛心印記佩俊
 一 地蔵本經傳
 一 宗義非情成佛實法蒙
 一 美徳心論教相記
 一 聖門即道詳以錄
 一 慈濟傳持錄
 一 戒名統
 一 三才的の異解
 一 龍居士集
 一 無門關和論決錄
 一 三才教撰
 一 七日能教意義

一 佛心印記佩俊
 一 地蔵本經傳
 一 宗義非情成佛實法蒙
 一 美徳心論教相記
 一 聖門即道詳以錄
 一 慈濟傳持錄
 一 戒名統
 一 三才的の異解
 一 龍居士集
 一 無門關和論決錄
 一 三才教撰
 一 七日能教意義

親其自他亦不喜何也蓋積口即其要均未能石要化之則白有未
歷正三以所聞事懸一定錄概

○研介拙者病事不保血年鬼也空肆一網一苦其冥子空象
○惡智微和望隨逐由才九尺敵之而處ヲ安之難ヲ若魔ハ初ハ
賊ヲ起リ仰ハ信者起リ思了以魔法劇醜古防長國

○家以暗怒
○七逆罪者殺六殺母○殺主
○盜法欺愚者
○盜法欺愚者
○盜法欺愚者

○假兒偽構寄美者○不償宿債者
○或他逆或亡命或他家未償

○漢受冥債謀遺子後者交其部飽恩者

○素德傷高貴者
○內高伴天連打他者

○奪犯他妻女販賣他人者
○不賣美費婦女固以陪救名義ヲ

○盜殺娼女碎受冥獎惡惡針炳者

○東方土產罪部有冥約者

○我カ然女逢テ他カ火女逢テ喜下部

○宿在冥獎中ニ未殊コヒ例善者今在冥心部アテカワシトスル部

○以命不改者

○胡麻原在徒組

○他亦入徒組六十萬人未受從生トリ

○上國地廣島分
 ○口底上唱部
 ○嘗假冥口部契不改者
 ○我が四九尻ト他ノ四九尻ヲ喜ブ部
 ○我が口弄用不足ヲ虚デ且シテ虚ヲ張テ外ノ攻カセル方ヲ弄及偽陣元部
 ○前ヲ掃シ跡ヲ遮リ虚界構衆百人ヲ換ズルニ而モ偽設字部
 ○以上二十三日虚界不ヲ接見者及ノ多儻ヲ以真鬼部
 入刻ノ者

上方冥部能他

殺害
 盜賊
 邪嬭
 宗派
 飲酒



邪嬭 果冥部所他

殺害
 盜賊
 邪嬭
 宗派
 飲酒



邪嬭 地

能テ
 上其地
 所テ
 下白
 能テ
 他
 所テ
 他
 所テ
 他

天下何思何慮天下同歸而殊塗一致而百慮天下何思何慮夫子因感極論感應之道夫以思慮之私心感物所感極天下之理也理雖殊而其歸則同感雖百而其致則一雖物有萬殊事有萬變之統之必則死能遠也故貞其意則窮天下无不感通焉

○五種蓋障

一煩惱障 根本煩惱乃至八万四千中下品障蓋淨心乃由宿世偏習故妨礙道機不入佛法
二業障 過去及現在世造諸重罪乃至謗方等經是人雖

有得道因緣以先業障未除故難當難不入佛法

三生障 是人若得勝上無難處必當快道然乘前業

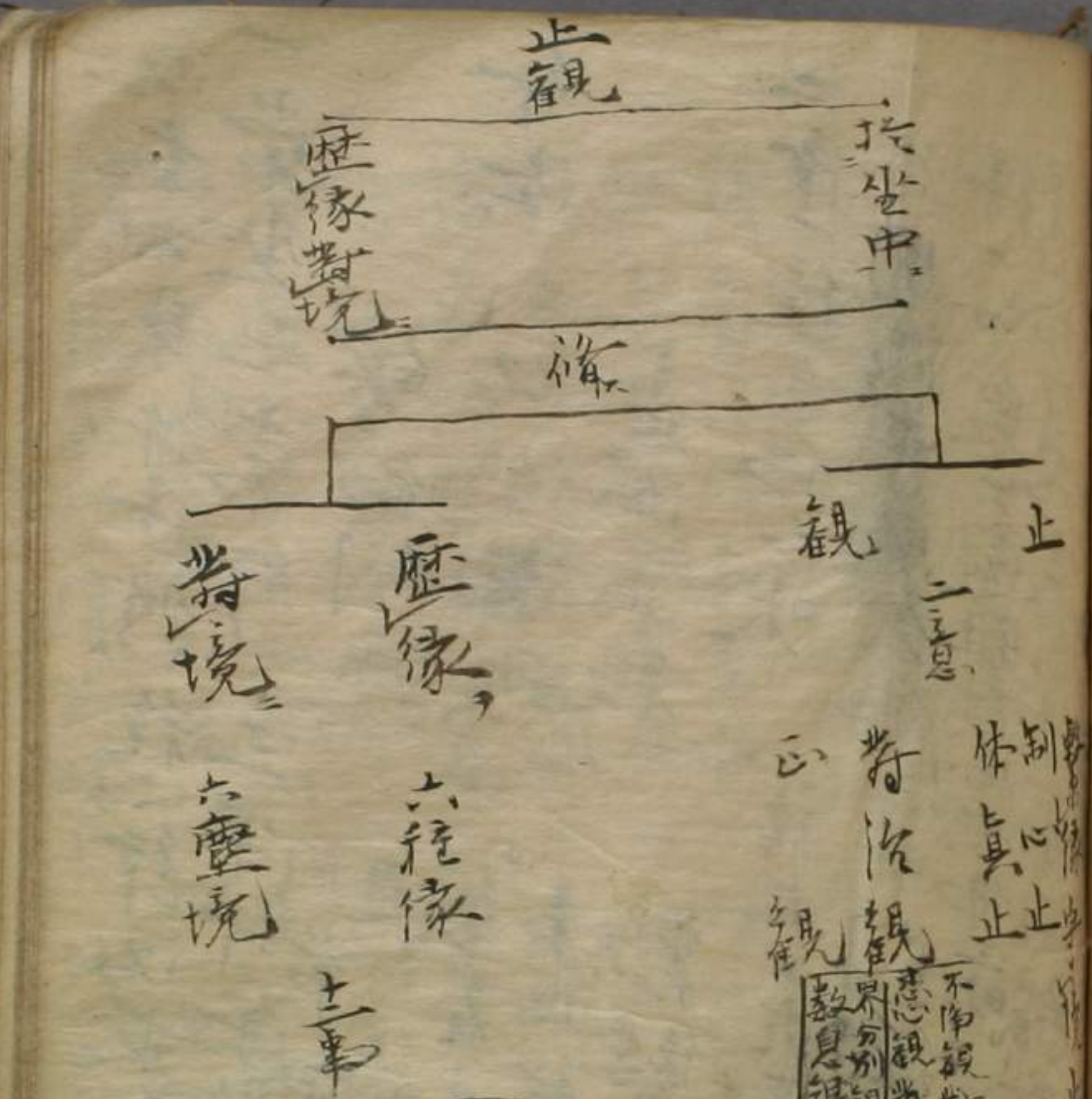
更受無暇之身即以報生為障不入佛法

四法障 此人已得無障生處子有快道之機以先世曾有

障法等緣故不逢善友不得聽聞正法

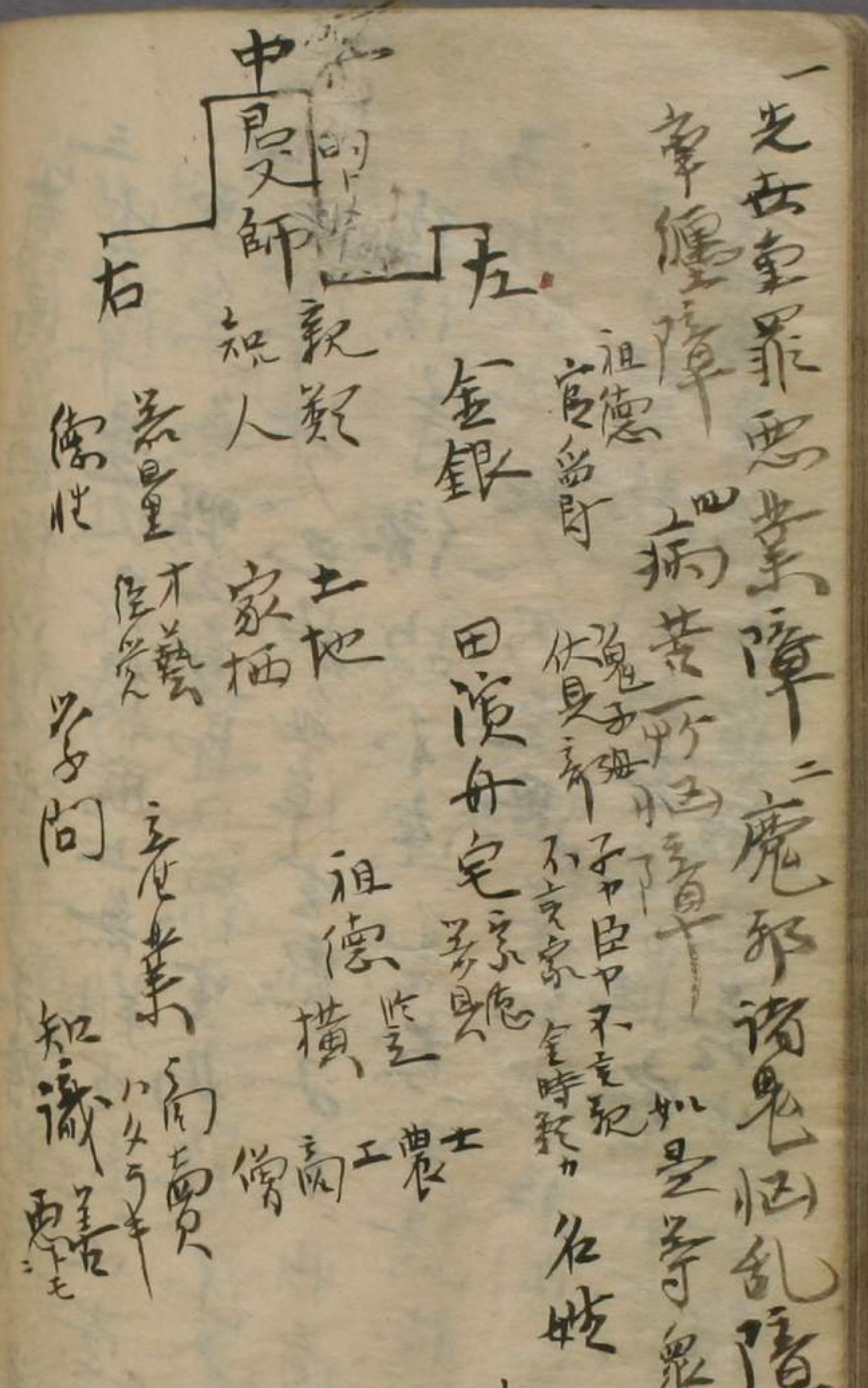
五所知障 此人乃至遇善知識以聞正法然有種種因緣

而不和合妨礙般若深羅密如上品魔子品中廣明亦是先世或曾善他道機故善友此障也



不仰觀於飲食欲
不思觀於睡眠
不思觀於多言
不思觀於多事
不思觀於多色
不思觀於多聲
不思觀於多香
不思觀於多味
不思觀於多觸
不思觀於多法

五意
隨便宜修止觀
為均齊定慧
諸法無相並是因緣所生
因緣無性即是空相
所觀之境一切皆空
能觀之心自然不起



今假一廣論及
得現已失
未得
孤寡不救貧道
九子

法華云見下佛子修行
一常坐 二常行 三半行半坐 四非行非坐

行法

身論開遮
口論澆默
意論止觀

常行位下 所遮者勿犯
除近解開者 如南修學
除惡少 莫主推思 較多原修
覺像是一念是觀

二十一種念佛三昧

諸大菩薩所說

得圓滿普照念佛三昧門 悉能觀見一切諸佛及其眷屬嚴淨佛刹
得一切眾生遠離顛倒念佛三昧門 隨一切眾生所應悉令清淨
得一切力究竟念佛三昧門 悉能觀見一切佛實於彼佛所聞法受持得

分別十方一切如來念佛三昧門 悉能觀見一切世界諸佛如來
得不可見不可念念佛三昧門 於一切微細境界見一切佛自在境界
得諸劫不壞念佛三昧門 於一切劫常見諸佛未嘗遠離
得隨時念佛三昧門 於一切時常見諸佛
得嚴淨佛刹念佛三昧門 起一切佛刹無能壞者普見諸佛
得三世不顛倒念佛三昧門 悉見三世諸佛及其眷屬
得無壞境界念佛三昧門 於一切境界悉見諸佛
得寂靜念佛三昧門 於一切中悉見一切世界中一切如來示現涅槃
得離月雜時念佛三昧門 於一切日中悉見一切如來示現涅槃
得廣大念佛三昧門 見一切佛身供養充滿法界
得微細念佛三昧門 於一切毛孔見一切佛成等正覺
得莊嚴念佛三昧門 於一念中見一切佛於一切世界成等正覺神力

自在
得清淨事念佛三昧門見一切佛無次等普照轉妙法輪
得淨心念佛三昧門自心明了見一切佛
得淨業念佛三昧門見一切眾生眾生諸業如鏡中像
得自在念佛三昧門見一切莊嚴法界諸佛充滿
得虛空等念佛三昧門見如來身普照法界及虛空界

性受妙明

無始無本逆流自妙之明

誠者天之道自誠明謂之性誠則明

本光明妙

對始受者順行自明之妙

誠者人之道自明誠謂之教明則誠

性受妙明

理入學志依義

所介平吉固若水... 高野... 陽世... 形ノ未...

一陰差ハ本男子ノ男子... 祖宗ヲ辱メ... 不孝内面ノ目印...

一今な六... 一連... 一成... 一罪... 一受...

此魔が業ヲ償フ氣テ彼カ凶妨ニ至其及ブ所ヲ病テ彼カニテ人程テ欠ヤ南ニヤウテ呪
自慢ニヤウテ世界中ノ人皆バカニシテ故ニ唯彼用セザルテ的トセスハナラズ

一余ハ衣食ハ已ニ外、私命ヲ痛ク見取俾ニ供テ仰カトモ信ナリ一物ハ夫克ニ其部ニお
談拘リナシ羅弊ノ邪業ハ何處ニ行テモ陽ギニ由テ刑餘ニ類セシ其罰自ラ代病

一知ラズ冥中ヨリ天遣テラ國君ノ衆中ノ所賤ノ中ニ已數十年前ノ患ニテ國下
生レテ知ハ勿論其理前ノ内ニアリ遠方ヨリお自受スベキ患ト雖中ノミテ知テ

況ヤ研ハ吃ヨリ天遣テラ此レニ故ニ極極長ク十餘年ノ向ルナシ只摩尼珠ノ獨業
長ハ家業ヲモ知自ラ能ク知リ唯徳ハ魔ノ著ノ所致判テテ能クモ思ハ其時一時

一日本流ノ業ニテ他ニ及ブナケル其究一身ノ保養ニ止ルニテテ婦接後ノ骨ヲ我
家平世ノ門ヲ備積セリハ當セメ國君ノ前ニテ改テテ前津セリテ交數ハ少クテ

一洗滌ヲモ止ムカルト同カラズ誠ニ重欲知テ後懲ノ為ニモテモアラズ
一知リ書讀ナレバ後少クモ厄不ニ至ス要ニ不況ヤ無彌想ハ其果トモ思ハレテ

一罪人ノ一人世行ノ魔着ノ時定テ他ニ賊ノ當カイ人ノ時ニ此ノ魔セカモ知カズ
一若シ此ノ世ノ魔ヲ知ラズヨリ數年前ナリ況ヤ上病ニハ知テ謀友ノ任打ニ在リ

一後羅生ニ揚梅瘡ニ點有セリ是ハ氣ヲ都ニスルハ大ニ耻テ是ハ流義ナリ勿論
一若シ此ノ世ノ魔ヲ知ラズヨリ數年前ナリ況ヤ上病ニハ知テ謀友ノ任打ニ在リ

一後羅生ニ揚梅瘡ニ點有セリ是ハ氣ヲ都ニスルハ大ニ耻テ是ハ流義ナリ勿論
一若シ此ノ世ノ魔ヲ知ラズヨリ數年前ナリ況ヤ上病ニハ知テ謀友ノ任打ニ在リ

一後羅生ニ揚梅瘡ニ點有セリ是ハ氣ヲ都ニスルハ大ニ耻テ是ハ流義ナリ勿論
一若シ此ノ世ノ魔ヲ知ラズヨリ數年前ナリ況ヤ上病ニハ知テ謀友ノ任打ニ在リ

既指橋端... 痛... 痛...

二咽破吐血... 鬼氣... 痛...

此目印ナリ... 鬼... 痛...

ノ誤用ナレバ... 鬼... 痛...

ニキナリ... 鬼... 痛...

一たび... 鬼... 痛...

ト方... 鬼... 痛...

ト目... 鬼... 痛...

加み... 鬼... 痛...

着... 鬼... 痛...

ア... 鬼... 痛...

濱... 鬼... 痛...

清... 鬼... 痛...

他... 鬼... 痛...

日... 鬼... 痛...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

新白色、面倒
一層の直線、上
全体、承久、松
之、邦、妖、魔、術、者、之、名、也
接、合、中、上、玉、也
未、同、所、也

親身明堂之物
胡麻采之
私實之極
此受止陽
自土起の
為子而
此受る子
をふさる
此
修
有
名
之
日

同新

叙者 朔夜 物と
後者 朔夜 物と
後者 朔夜 物と
後者 朔夜 物と
後者 朔夜 物と
後者 朔夜 物と
後者 朔夜 物と
後者 朔夜 物と
後者 朔夜 物と
後者 朔夜 物と

同紙下

一 邦宗的伴天連無名而入滿 黑白連對白之蓋之凡有
一 米通依通抄子 二 色子亦 普語攻 旅遊攻

一 也邊連果

一 原專

一 假先

一 身或馬也途中極

一 亭主，尚守也

一 位者也即蘇子 雲亦

一 胡麻所聖者矣

一 守也名于稱下

一 東之救胆廣 國北下直

先年上方遊齊司出信之時司扶持
頂戴仕至於六非方司出改未豐集
中熟行下業可致就一德長能
中之由倫氏之與子教授之辭
事自心悲為敬在御之與也
了以榮魏弟之在出之物即述
P上到 德以
子德世子長

五七九 2015. 2. 25. 704



五七九 2015. 2. 25. 704

五七九 2015. 2. 25. 704
眼目 凡眼目常带赤为川芎 黄片 木通 白芷 荆芥 菊花 甘草

眼目 外障 障翳 丹膜 为菜 地黄 木通 黄片 荆芥 菊花 甘草

神目 凡眼目血少眼痛 当归 川芎 地黄 木通 黄片 荆芥 菊花 甘草

水眼 凡眼目水眼 羌活 独活 防风 荆芥 菊花 甘草

眼目 凡眼目 羌活 独活 防风 荆芥 菊花 甘草

眼目 凡眼目 羌活 独活 防风 荆芥 菊花 甘草

眼目 凡眼目 羌活 独活 防风 荆芥 菊花 甘草

眼目 凡眼目 羌活 独活 防风 荆芥 菊花 甘草

眼目 凡眼目 羌活 独活 防风 荆芥 菊花 甘草

眼目 凡眼目 羌活 独活 防风 荆芥 菊花 甘草

眼目 凡眼目 羌活 独活 防风 荆芥 菊花 甘草

五七九

八灸法

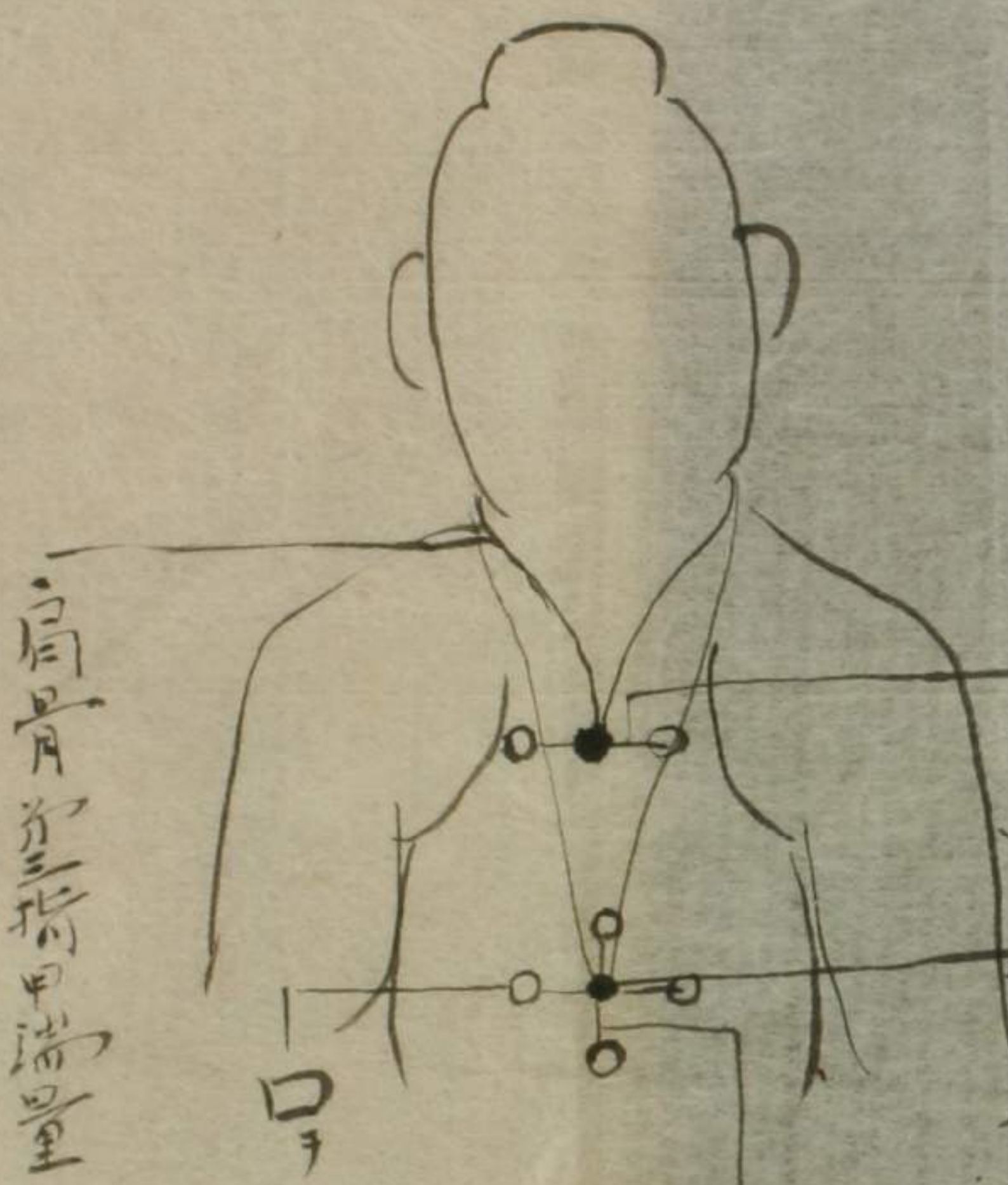
足部之穴 諸瘡灸于足部則耳尖上周圍用大得量之以其
 得當候候下至項後双垂之以患人子橫握其端而切去之其
 得端當腰脊中骨上點之出左者去中骨半寸灸右出右者
 去中骨半寸灸左者

耳部之穴 瘡發于耳部則自肩至高骨端至第三指頭爪甲端
 踏之以其得量候候下至項後双垂之如耳部法

背腹之穴 瘡發于背或腹則乳上周圍以其得量候
 候下至項後双垂之如耳部法

足部之穴 瘡發于足部則足尖上周圍以其得量候
 候下至項後双垂之如耳部法

大指之穴 瘡發于大指則大指末節以其得量候
 候下至項後双垂之如耳部法

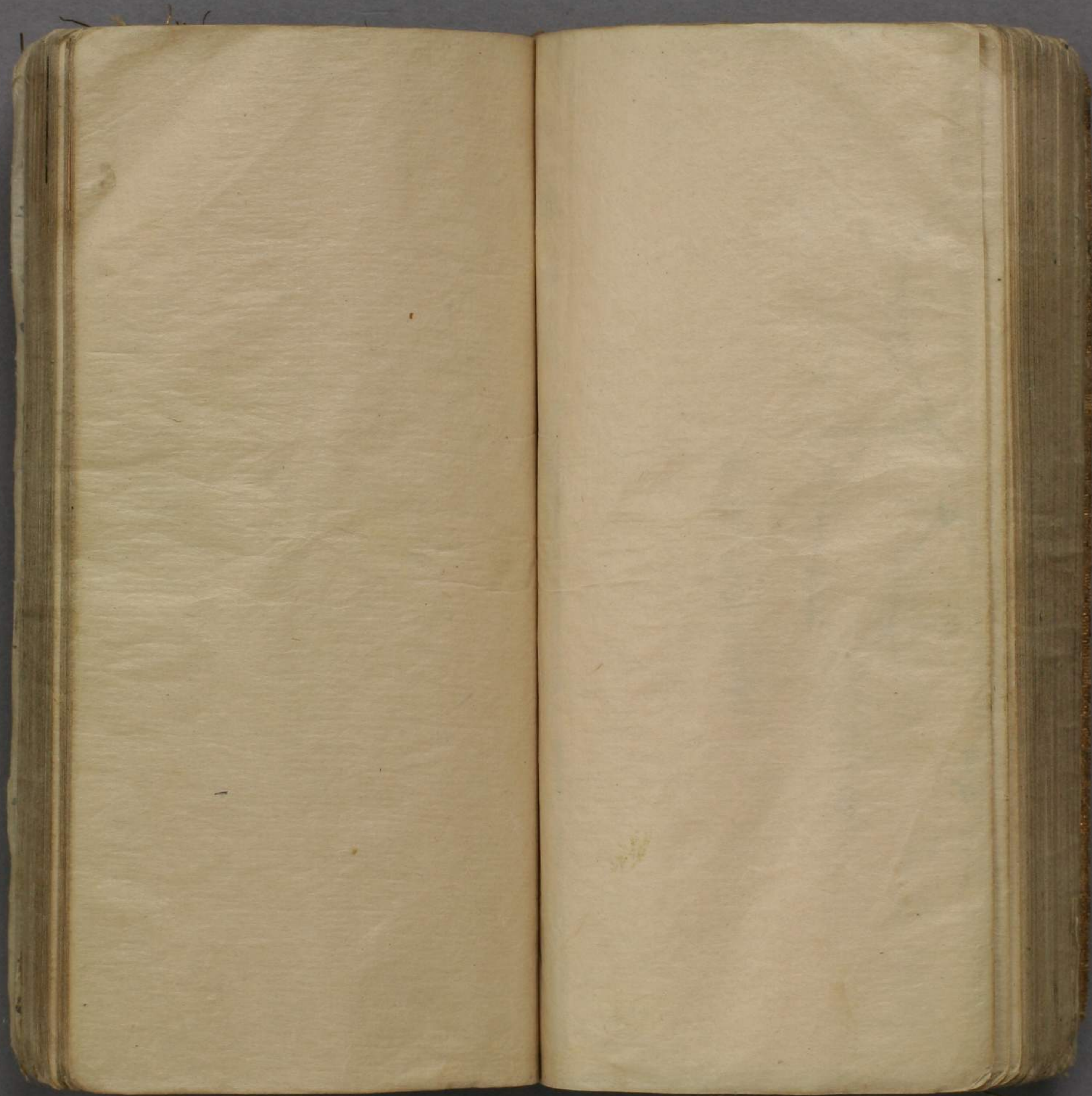


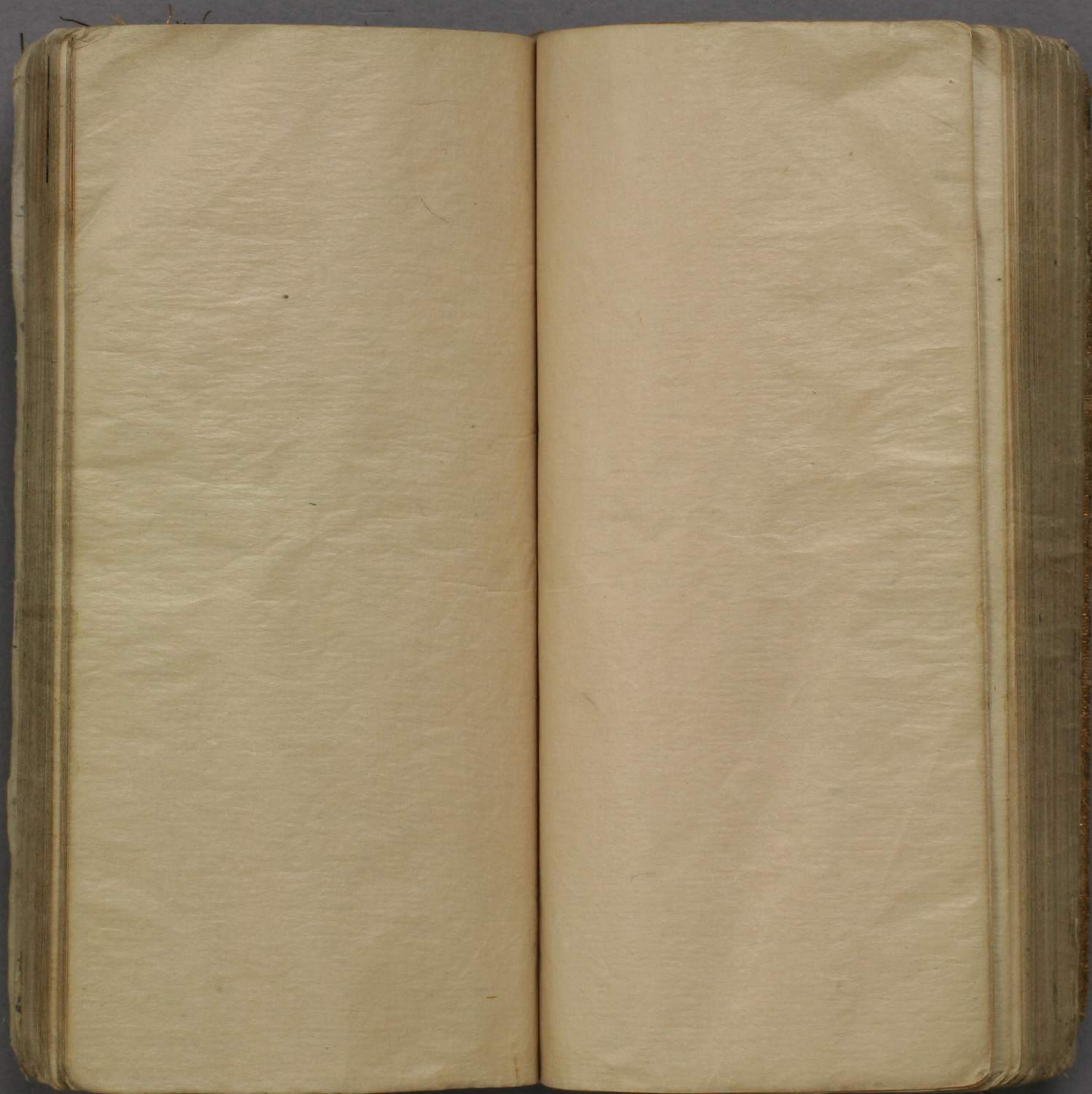
肩骨節三指中端量

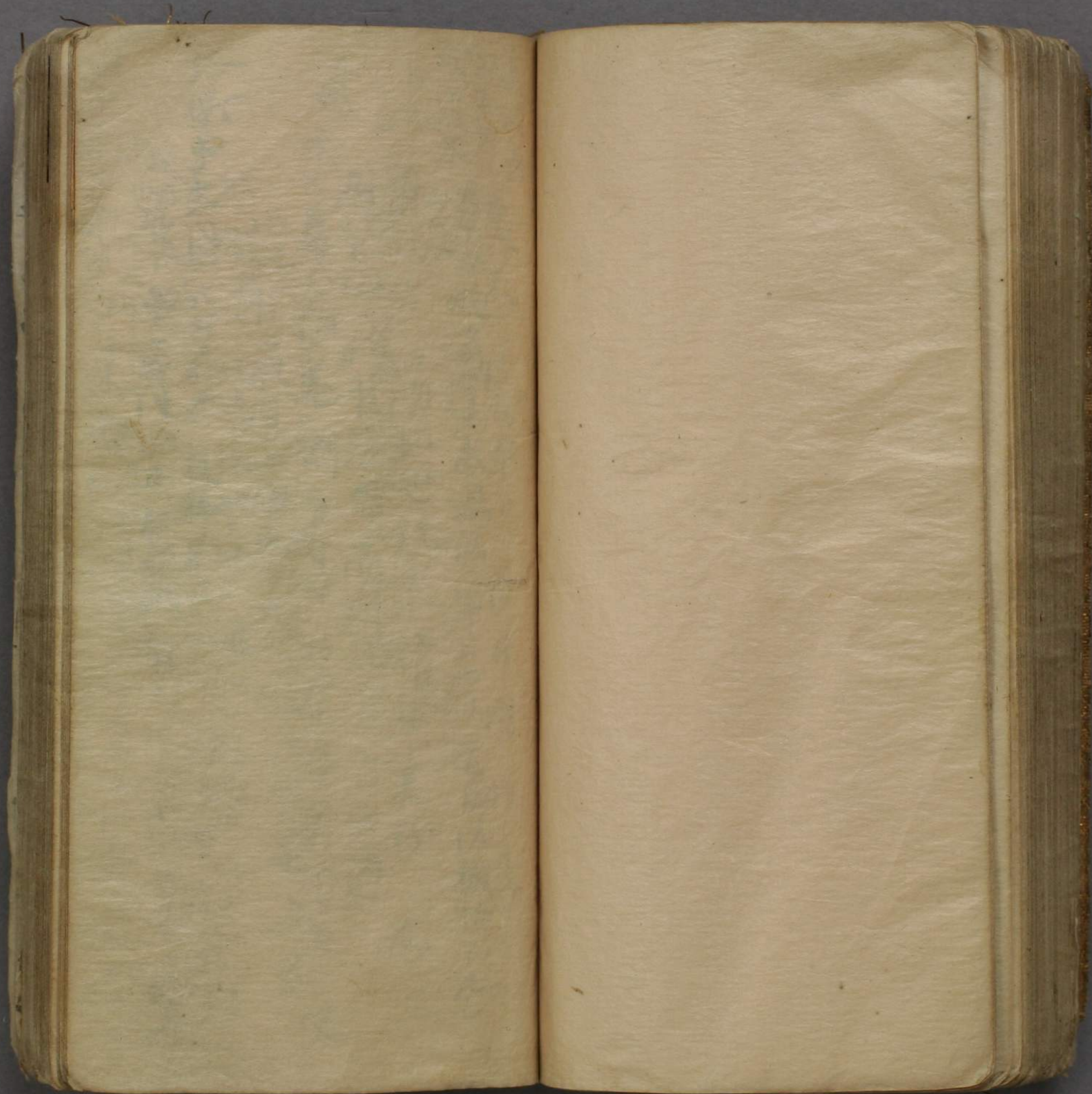
口橫寸

口橫寸

此而穴同時灸之七壯至二十七壯







大瀉散卷

之三
戴沙米

香膠散
右每服

一匙
温酒送下

二七日
以穢物下已

十日
以穢物下已

淋疾方

尉已

以

以

以

以

以

以

天保中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

新羅國... 通... 家... 西... 後... 川... 延... 北... 各... 統... 南... 四... 國...

文... 寺... 知... 稱... 也... 公... 正... 名... 國... 如... 為... 系... 今... 藝... 物... 公... 長... 而... 甘... 上... 云... 同... 二... 十... 九... 力...

唐 名上自天... 下至... 地... 所... 謂... 神... 或... 之... 溢... 用... 唐... 字... 這... 者...

日本 德... 貴... 印... 利... 人... 全... 一... 人... 一... 不... 務... 送... 高... 人... 送... 高... 人... 送... 高... 人...

大... 切... 傳... 指... 財... 天... 徑... 云... 每... 月... 十... 日... 望... 子... 上... 去... 中... 十... 日... 內... 中... 去... 下... 十... 日... 內... 惡... 二... 一... 既... 歸... 十... 日... 皆... 變...

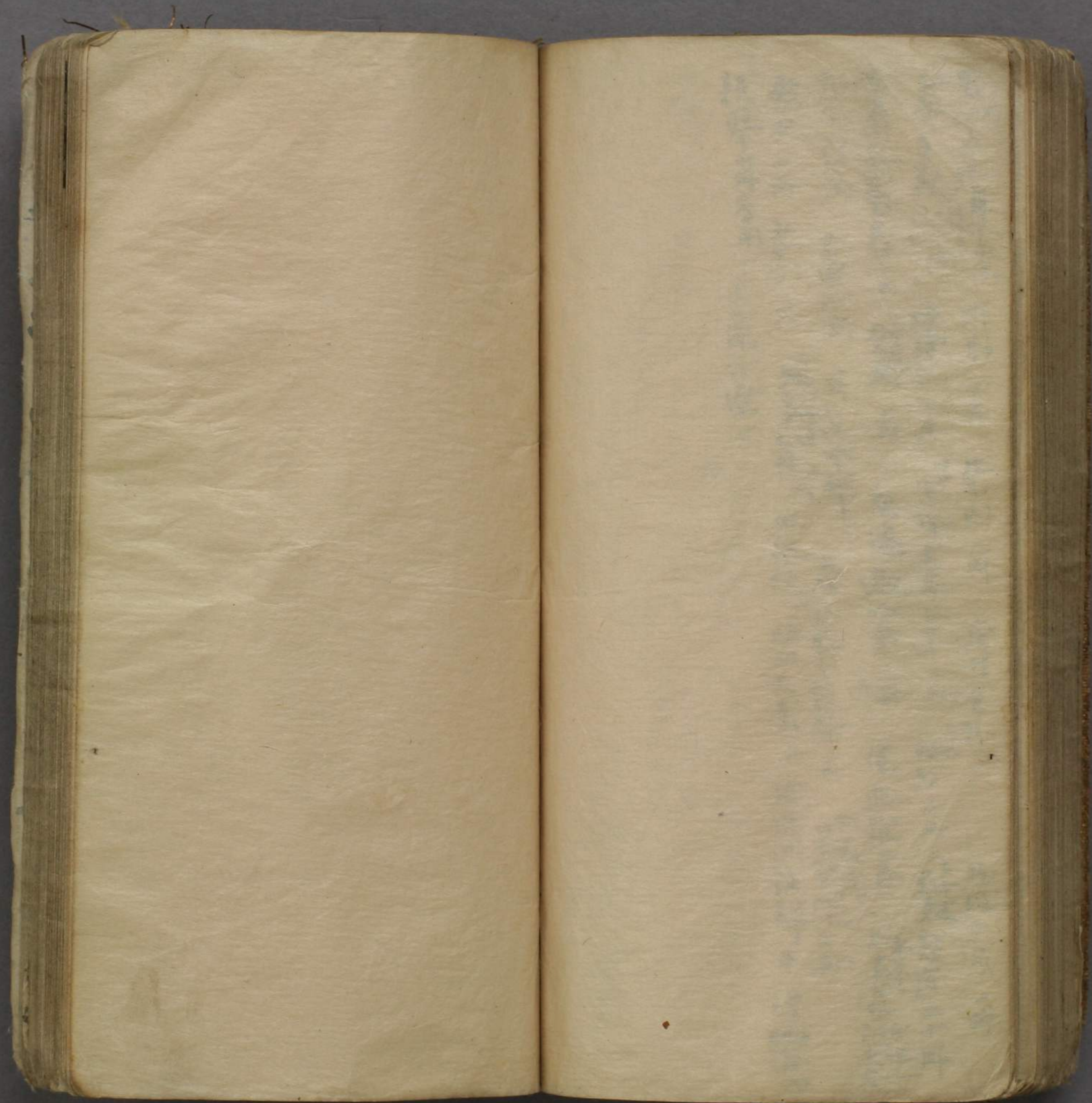
長谷川最良の本草類聚新編巻第一

上巻目録
一 種子部
二 根莖部
三 葉部
四 花部
五 果部
六 菌部
七 動物部
八 植物部
九 雑部
十 附録
十一 索引

本草類聚新編 巻第一 種子部

一 菴朮
二 白朮
三 蒼朮
四 藁朮
五 木香
六 阿膠
七 地榆
八 熟地
九 生地
十 砂朮
十一 鱉甲
十二 龜板
十三 虎骨
十四 熊膽
十五 蛇膽
十六 猴棗
十七 猴棗
十八 猴棗
十九 猴棗
二十 猴棗
二十一 猴棗
二十二 猴棗
二十三 猴棗
二十四 猴棗
二十五 猴棗
二十六 猴棗
二十七 猴棗
二十八 猴棗
二十九 猴棗
三十 猴棗
三十一 猴棗
三十二 猴棗
三十三 猴棗
三十四 猴棗
三十五 猴棗
三十六 猴棗
三十七 猴棗
三十八 猴棗
三十九 猴棗
四十 猴棗
四十一 猴棗
四十二 猴棗
四十三 猴棗
四十四 猴棗
四十五 猴棗
四十六 猴棗
四十七 猴棗
四十八 猴棗
四十九 猴棗
五十 猴棗
五十一 猴棗
五十二 猴棗
五十三 猴棗
五十四 猴棗
五十五 猴棗
五十六 猴棗
五十七 猴棗
五十八 猴棗
五十九 猴棗
六十 猴棗
六十一 猴棗
六十二 猴棗
六十三 猴棗
六十四 猴棗
六十五 猴棗
六十六 猴棗
六十七 猴棗
六十八 猴棗
六十九 猴棗
七十 猴棗
七十一 猴棗
七十二 猴棗
七十三 猴棗
七十四 猴棗
七十五 猴棗
七十六 猴棗
七十七 猴棗
七十八 猴棗
七十九 猴棗
八十 猴棗
八十一 猴棗
八十二 猴棗
八十三 猴棗
八十四 猴棗
八十五 猴棗
八十六 猴棗
八十七 猴棗
八十八 猴棗
八十九 猴棗
九十 猴棗
九十一 猴棗
九十二 猴棗
九十三 猴棗
九十四 猴棗
九十五 猴棗
九十六 猴棗
九十七 猴棗
九十八 猴棗
九十九 猴棗
一百 猴棗

。周禮古注蘇氏東注 周易四冊 學因六冊 庚子金錄
地學考義欽定二冊 搜神記五冊 漢書音義孫堂三冊 增訂三冊 物理知識一冊
常用老四書集注二冊 欽定四庫全書 夜法選錄三冊 傷逝錄三冊 一家書法欽定三冊
古學紀略 小學行密 周禮通解 常用聚公類畧二冊 皇朝年表三冊
蒙史二冊 蒙問二冊 續編雜記六冊 排報錄一冊 北山醫案三冊 臨候訓法解十冊 博物志四
類畧二冊 常用 之藥行密一



以下

4 丁

白紙

土地ノ人ヲ殺セ目

上保人西八月廿二日
其他家ノ隣近ニテ悪口罵辱シ其家ニ面滯セシ程
盗娼要辭ヲ勤ナキ者ヲ多ク排擯嫉妬シテ出入勝手勝手ノ權ニ而テ

其後ハ其部ノ再ガ成ヲ奪リ過多クシテ其誤ニテ再ニ言ハ
言ハズニ西ソレ長ク入ルモトシテ其言時ニウソト欺テ其言ハ其言ハ其言ハ

其後ハ其部ノ再ガ成ヲ奪リ過多クシテ其誤ニテ再ニ言ハ
言ハズニ西ソレ長ク入ルモトシテ其言時ニウソト欺テ其言ハ其言ハ其言ハ

其後ハ其部ノ再ガ成ヲ奪リ過多クシテ其誤ニテ再ニ言ハ
言ハズニ西ソレ長ク入ルモトシテ其言時ニウソト欺テ其言ハ其言ハ其言ハ

其後ハ其部ノ再ガ成ヲ奪リ過多クシテ其誤ニテ再ニ言ハ
言ハズニ西ソレ長ク入ルモトシテ其言時ニウソト欺テ其言ハ其言ハ其言ハ

其後ハ其部ノ再ガ成ヲ奪リ過多クシテ其誤ニテ再ニ言ハ
言ハズニ西ソレ長ク入ルモトシテ其言時ニウソト欺テ其言ハ其言ハ其言ハ

其後ハ其部ノ再ガ成ヲ奪リ過多クシテ其誤ニテ再ニ言ハ
言ハズニ西ソレ長ク入ルモトシテ其言時ニウソト欺テ其言ハ其言ハ其言ハ

其後ハ其部ノ再ガ成ヲ奪リ過多クシテ其誤ニテ再ニ言ハ
言ハズニ西ソレ長ク入ルモトシテ其言時ニウソト欺テ其言ハ其言ハ其言ハ

其後ハ其部ノ再ガ成ヲ奪リ過多クシテ其誤ニテ再ニ言ハ
言ハズニ西ソレ長ク入ルモトシテ其言時ニウソト欺テ其言ハ其言ハ其言ハ

其後ハ其部ノ再ガ成ヲ奪リ過多クシテ其誤ニテ再ニ言ハ
言ハズニ西ソレ長ク入ルモトシテ其言時ニウソト欺テ其言ハ其言ハ其言ハ

大板心子橋筋土所 藤原氏京師之京三十九中 淨土寺 華嚴寺

下白土 子三十四 水場 教宗寺

長谷川 伊勢 五十八 四十六

真受寺 在 西 山 寺 志 京 十八 才

真受寺 在 西 山 寺 志 京 十八 才

真受寺 在 西 山 寺 志 京 十八 才

三元 建子 寶永 八 元 化 元 道 百 八 十 年

上元 正享 以 後 六 十 年 向 七 十 年 向 八 十 年 向 九 十 年 向 一 百 年 向

中元 寶永 以 後 六 十 年 向 七 十 年 向 八 十 年 向 九 十 年 向 一 百 年 向

下元 貞享 以 後 六 十 年 向 七 十 年 向 八 十 年 向 九 十 年 向 一 百 年 向

貞享 以 後 六 十 年 向 七 十 年 向 八 十 年 向 九 十 年 向 一 百 年 向

牛古所射 他物
昌明 德右所 他物
靈苑 德右所 他物

皇妙令
了回 么三京 章別

皇妙真
正惠 老天所 房別

皇真林
了意 九之京 氏別

皇真院
在回 老皇門 崇別

國老公十年
正保成二月三日
明勝二甲三月十日
實文七未十月十日
近宝二寅三月十日
正保三未七月十日
正保五未七月十日
三十八歲
七十八歲
九和元年

正保三未七月十日
正保五未七月十日
三十八歲

正保五未七月十日
三十八歲

正保五未七月十日
三十八歲

正保五未七月十日
三十八歲

按 佛補如 日本
衆教 孤界 年 滋 名 無 學 衆 生 界 神 華 名 如 幸 則 章 則 學
生死 真 界 諸 界 執 高 漫 同 教 人 念 念 一 人 因 障 漏 運

定 由 辨 可 易 之 儀 年 障 好 款

大島 長 公 喜 年 和 華 三 十 以 來 京 和 三 生 亦 日 妙 也

○大上立德其次之印 且 主 榮 主 德 其 榮 主 而 為 湯 武 主 矣 用 以 孔子

萬年 男 次 郎 天 保 西 十 四 由 天 保 元 年 與 痘 癘 時 七 月

唐 改 生 四 十 九 歲
神 皇 元 年 四 月 十 九 日 崩 百 歲
應 和 三 年 二 月 十 九 日 百 十 七 歲
南 原 院 院 院

天保八年七月

日本盜名十ヶ 三ヶ 困家
業キ 子

十訓
一人を施す者多し 二情愛をばあはる者多し
四人の上はいまいとむる者多し 五朋友と撰ぶ者多し
七思慮をなさずとむる者多し 八行をばあはる者多し
十才藝をばあはる者多し

心 法學之業
身 環顧工部家在家財目事子
家 君臣之跡後人侯王場下
一 家中家来

今心カキカ逆違身亦偽リ在寓之家ニ他ニ依リ困守
リ新リナリ十六思律依ニル死能ナリ多ク空言飛ニ病
ニ中ニ前件ニ思慮更ニ九次幻化
三人偏ニ思慮更ニ九次幻化
六忠直を存べざる者
九慾望を止むべざる者
一時欺
具厚交
易カキ
土地厄事

他人より
由文思子 義之所思而義屬德行一思 主天 猶日本於外邦一

由文思子 義之所思而義屬德行一思 主天 猶日本於外邦一

由文思子 義之所思而義屬德行一思 主天 猶日本於外邦一

由文思子 義之所思而義屬德行一思 主天 猶日本於外邦一

大徑會疏竊以今徑所宗造異諸徑以茂羊滿法為是席介以方行因修平獨
為正宗唯專至心信與之喜愛全離息慮心之思量然古今痼家徒混
辨微難證教義覆蔽六識位橫空去懸附約教觀心異解下証
調指方立相法門所以依學之造雖假名於真宗暗橫空真像各
義一脫意於他家章疏輕誦家宗旨肯一生恍惚虛攻異端難
易不辨自他無判嗟吁南我所謂按自前之美玉而求不可必
得之破滅者也豈不惑哉

臨日廿六

[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side.]

口教

せ肉づくつがまどきあふまーばたニある世、
 元を親元老おどく口ごい、
 あるまどきさうと
 男女れらうてあーきたつわれらることは
 むごきことか高しーかこりこることは
 いやらしく氣味をささるとは 意地をささることば
 多埋非道あることば 一こそ不作の及べきは外かやうあること
 ばみ作具多々まべー 羨しいひねりかこー 自ぬこたつあ
 今末ー 男は後かさるべくはとかく新る性恐がたふ
 女口教

元女の柔胞の品自けまばさーあてくは、ーまやけうかぬおの
 大やうをいっび受の作を能きこて肖うを 女は十歳バクーニもけりし
 中戸すうおへむさと出ぬものあり 男の行作はあま及ぶをきつて常
 一し物やうらうらあてく 子細りーまに常のにてあーく 品思ひるんや
 ーくくばまー 流し言を用こるべー 容貌をこまけい
 ーろくむ娘らーくおとあーきりよー だかぶくも目立ぬ
 やろのたとあーく見ぬ物のおまきいいやー 好まごこと
 常世見いすからぬ人のまろるのあり目立あーく 女の業に
 多習う三つむまおくりあつそたちとの儀 徒料理煮焼
 か裁たやうかくのねー
 たぬよんことらものいやまとあてく人のまをま

德生三個

自然

非自然

反自然

自成行子的入

自下全自收全入橫等呢也

自壞字戒居後下入

自無字戒入

自上下自橫入豈等逆也
倒置毒海苦故傳

人

耳口鼻眼耳目羅

逆施

以道應之

五逆

殺盜婬

之受寺戒連當無此後業報

東僧為僧前逆
西僧為得後呢

天生此疾痴夢覺鬼咒法靈鬼狐魅思想精氣

北方東西

東人為工

殺死

無死

刑罰五中責在人間

西人為農

病卒

家死

鬼法漫漫良在其中

這在中間平法刑罰鬼法慎觀守業莫忘

善惡分

切人家業流名道

高字起 華庚生行
高字家 城市田園
為教人 官眷師友
為片業 士農工商
為空家 王侯將相
為狗名 軍戰官役
為道 儒釋道學百家

惡分

殺盜婬
不殺
不盜
不婬

有是欺有



善就

研今處不同也

因紙介申月廿七 若五日後

為眼困先父 自立耳部無學象

真宗 無量壽佛 一休無待等

大島小松田中先右高女 無傳高象

光文已 尊神日 本神我 存如上人 長流元六月十八日六十二才權大滿

農 自下收 無成困又無魔因

○新家元元七月九日二十三才 秀光慶長三月十七日二十三才 源義家長次己酉年八月九日六十八才

醫 國

防長界 先志 白出 河耶國

○龍將光茂 十月十八日 家康四月十七日 池田忠重 大御前 元正三月十八日

木德 高院 內外 直 菅 菅 菅

真中 部 馬

水谷 水谷 水谷 水谷

此通り 今世 野位 今世 野位

水谷 水谷 水谷 水谷

野位 今世 野位 今世 野位

水谷 水谷 水谷 水谷

天保十一年十月十九日卯 名不台林近

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

天保十一年十月十九日卯 喜受乃子了業補德 老長其之京 健忘痴 成

大石寺日光寺側東原

善徳四十八箇内三十九年

高七仲十九寅

要介日中養子十六巳 淨土宗瑞光寺

僕久米噓十五午

照存日中養子禪宗安禪寺

下婢江向年不吉

照打真宗普泉寺

東隣

龜尾房五郎

葉京神廟東方黒水宮神棚雲訪赤

京京門外三月廿七日入内二月廿二日入陸多由是 洪隈生是村

東村野村二十子 申上京 建立寺

京京門外三月廿七日入内二月廿二日入陸多由是 洪隈生是村

京京門外三月廿七日入内二月廿二日入陸多由是 洪隈生是村

天保辰日記録

三月十日 日記

一 園研介お所用和の達し趣可有くは子八等ん 揚也
了はの用所々学方し人事

園研介

右今日申也役中お申徒而美是上ノ振調左取ノ振
の用所相し之作中し隨の用人方々申有く其後本人
の傍に之をせん 此お其而ト存の要ノ用ノ方相考有く之有

一 右子と此の役の真説方ん 研竹の集調合と何自人付る
ト 淡下抄連 一 係甘く 役の用人方ト尸上者ト其
後竹を巻着の袖を布ト云

四月廿七日

和の書院に 出上人
天保八酉 脈片 司也 岸雲墨巻分 字出

天保八酉 脈片 司也 岸雲墨巻分 字出
宿名用字本之み外側
今日の来入り方と子の記入とよれ
勿論之逆用と方と七遮り後有方と
大勢をいふ一人宛外と云

和州郡山 矢田筋 和日新五右衛門 勇 為 本國 なる 和子
山名 長公寺 少 長 久 寺 檢 成 時 未 迄 於 上 人 慧 明

長公寺 少 長 久 寺 檢 成 時 未 迄 於 上 人 慧 明
長公寺 少 長 久 寺 檢 成 時 未 迄 於 上 人 慧 明
長公寺 少 長 久 寺 檢 成 時 未 迄 於 上 人 慧 明

牛宿 郎 十 甲 十四 森 領 切 山 三 年 經 前 入 長 公 寺
一 十 沙 簿 意 美 十 四 森 領 切 山 三 年 經 前 入 長 公 寺

書前 雲 際 什 書 在 東 將 洞 長 公 寺 同 年 次 後 悉 心 因 前 食 中 年
不 止 偶 合 及 為 懶 家 者 比 感 不 認 水 定 一 獨 是 陽 在 思 家 而 而

水 定 一 獨 是 陽 在 思 家 而 而
水 定 一 獨 是 陽 在 思 家 而 而
水 定 一 獨 是 陽 在 思 家 而 而

知不知生死

生不知ノ所作自然

死知テ後ノ所作有也

陽 僭逆 惡口 謗言

陰 卑劣 田反 盜奪 止命 掘道 毒害 邪咒

冥 田反 盜奪 止命 掘道 毒害 邪咒

甘言 福養書 幽儀 尊揚 邪言

辛護 公吟 居義 大業 正法

生

心

土肥 鄙下 行跡少 見守少 儉朴

謙少 疑少 疑交少 疑難少

小家 小家 小家 小家

大坂 倭者 虛心 虛心 明堂部 外於 綱 系于 食也

京都 如申 實心 明堂部

江戶 力者 實心

皆長 商人 和帝部 外已 他人 就言 神立 言供 系于 食也

皆長 商人 和帝部 外已 他人 就言 神立 言供 系于 食也

家居他行交通 在社 并月 屋高 帳面 他也
此方 德ノ交易 一モ 漢ガ 大十ト云テ 帳面ヲ 地
記セザルハ 欺ヨリ 知ラズニ 何心ナリ 記セザルニ 及バズ

小家 小家 小家 小家

五保八家

西人 丑 四十五
四方 辰 四十二
俊 巳 廿三 真堂寺

俊 巳 廿三 真堂寺

宝相院 元正元年 正月十八日 天保九戌道十九年

西園寺 天保九戌正月十八日 天保九戌道十九年

伊豆 天保九戌正月十八日 天保九戌道十九年

天保九戌正月十八日 天保九戌道十九年

天保九戌正月十八日 天保九戌道十九年

天保九戌正月十八日 天保九戌道十九年

天保九戌正月十八日 天保九戌道十九年

天保九戌正月十八日 天保九戌道十九年

天保九戌正月十八日 天保九戌道十九年

天保九戌正月十八日 天保九戌道十九年

天保九戌正月十八日 天保九戌道十九年



三五 攻方

過去 平 壞胎

天母 汝貞系

西身大板高ノ系里寸ハ大板而ノ徳ハ所長内徳

現在 平行

現身自勤

未來 知識

法為無統

陽世 傍洋

國內家中出家ノ關係

現在 業試

岩圍 上下ノ病用

匠者 攻内外 藥品 疾病 唯病者身分

研出後

冥中 空機

外側天部ノ關係

鬼法 前在現陽同時

衆謀レハ 要求ノ實志 冥中ノ非

陽世 初次

耳目口鼻 手足白昼官公 恍惚 微于形體 千事ノ考道 腹不飽 羅不飽 口實 偉 冥告

冥中 初次

耳目口鼻 犯戒 手盜 搦賊 冥告 羅偽 腹子 食之 偽

日 軌 野 法

道半 己 宰 貴 往 来 者 亦 屬 焉 侯王 義 面 接 外

月 密 法

京中 子 師 貴 居 守 者 亦 屬 焉 道親 寺 仁 羅 障 内

西

心 内 思 慮 其 長 揮 スベカラズ

因法眼失父家内名数

官守时

系法眼

史国限人依

学部

借屋 田尾
田也 质島

内外眼科

米萩
金七板

三日过现状、三吉配見之昨

前立

羅

親生秘交不偽

其真祖

三半現在成在待他米無賊因

君祿口供不偽

顯衆所知屬陽世

後立

學

不偽

顯衆所知屬陽世

現生

口供執偽之謂

受其一師

不偽

顯衆所知屬陽世

東之祖家乃天ノ祖ト云々

防長声者祖

若天ノ祖ト云々

前、今、大、初、海、色、留、志、備、快、多、少

西ノ祖ト云々

假令 表長等可考

不謀反不盜不殺

假令 表長等可考

覇者二様 自然堂 怒地 煮塩

表長等可考

覇者二様 城島 横 金七板 衣服 家 舟 橋

表長等可考

布施供養皆無果報
 善行惡行此世故世為常
 果為母慈心皆善斷如鏡
 斷見字已成其死後無生理

善男子等。此世是身皆無果報。起五門令其候入因。像果報。

王常為正貴常為貴
 常見 是男女端正醜陋象
 等類常無改易所以人常
 人常當貴賤常定金富恒命
 故譬如特子隨其本類
 疾因像即空之義實有妄執何時截自墮常
 未可生界終無雜亂

二帝 古法 出世法

實母乳 不生貴物不難也

居家 實養 實法 生家實親子 生圍實居臣

正格食 末處 近親屬 是二德道藝淨
 偏格食 遠離 實象名 而利 穢

國家靈位五命

建治四年四月十九日四十四才

土化十三子三月十九日

心寬政十歲正月十一日

於五至六 七止 廿元

敬思先兄 六十二 未 津根常成

守農先師 七十四 七止 廿元

實政九日八月四日

實政九日八月四日

國法眼先兄

七申 五十一 加津勝延 續德帝意

淨智先師 七十七 廿元

田金流 防 下 景組

馬後先兄 七申 五十一

上方流 廣島 上 唐組

考實 三月八日 實政 五月八日

西歸無子 田金流 防 下 景組

正食 百姓國

百姓の作 真正勤 勿論 虚假 不足 仕方 凡て 十

私食

殺人 盜賊 虚妄 鬼道 扶持 中 飼 米 入 百姓 成り 方々 家 時 時

尚 齋 媿

百姓ハ 食ヒ 食ソス 一ニテモ 働クモ 及カレドデモ 殺サルデモ

知ラヌ 一テモ 下ニ 淡メ 疾ルデモ 殺スル 業ヲ 習フテモ 又 恩ヲ 承ルデモ

他ニ 行カザル 一テモ 他ニ ト ラサル 一テモ 欺カレドデモ 貴界中 務西 姉者 介込 百姓ニ

観セテ 凡ソ 其代リニ 大名ハ 役者 女郎ハ 敵ニ マルソリソレテ 百姓ノ ウラニテ 役者

女郎ニ 敵ノ 國ハ 岩 玉 加 故 十リ

○先心成身する事一板

一常：旅つときはこころをまげんよくする事

一物の丸巻きおちてき理 せきをばらしてもある

一ありきと違はこころをぬる

一諸人が老一教ひあをれよわかくしかなし人と争わず口論せぬ事

一お場子持 爽色あそびなせぬ事

一家内惣し中よくする事

一父母の作もおも肖かぬ事 尤父母を懐む事よるハ常子はた

かこいはいぬ事 一常に外へ出る時は必行定が毎親一云ひ字を^{ちが}行定の遠ハ

ぬれする事 ぬれする事 ぬれする事 ぬれする事 ぬれする事 ぬれする事 ぬれする事 ぬれする事 ぬれする事 ぬれする事

一第一私に一語もして語つらぬ事 是ハ皆親此物成かく

ぬすけ回ち常理しめらがあしと志るべき事

一多の養生をよく一太食大酒せず 息がなほどかたは毎月多の

おろかな事する事

一寝はよく起てお母のきげんおうかひ板ハ遅く寝てお母の寐をあ

時まゝ寒暑おうかひ 湯着ましても 肝中へは 是れもなしてすし

一お母よりし 寝るうけ 物ハ衣服洗道具之も 換せぬ事

一 いたゞき用るもの

一 毎寢居思わぬ程およくかんかくして出入りも擇一と出入り心

一 敬ふべき下は子の男が敬ふべき敬ふ人なりとていふべきは敬ふ

一 衣服食物に心を用ひ毎の好の物着しよく食やすましの衣求りて進ずる

一 是の人、身の上は上下有ればおふ不忠の者、不孝に成也者になりし

一 刃上たてて出来らばおせぬも子不孝也

一 一見物する余指すも右同前之方分る透る方ならむと同伴之新

一 一室ても懐くもたゞお言知てお母の思ひし言すべきは外細成

一 一よく知すれは、一とておれおし知りおべし先はあはれとけ

一 一たとし本心を知しては是れおし知むちき外は、外は本心を

一 一具へしものお本心を知れば、本心は通へ、此道理を念

一 一照説し、たま

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

心友二十四條 親法

心 飾ある時ハ偽が思ふ方ハ 親法
心 私ある時ハ人疑わす方ハ 親法
心 過失ある時ハ人怒む方ハ 親法
心 貪ある時ハ人溜む方ハ 親法
心 迷ある時ハ人答む方ハ 親法
心 賊ある時ハ所好ある時ハ 親法

心 飾ある時ハ偽が思ふ方ハ 親法
心 私ある時ハ人疑わす方ハ 親法
心 過失ある時ハ人怒む方ハ 親法
心 貪ある時ハ人溜む方ハ 親法
心 迷ある時ハ人答む方ハ 親法
心 賊ある時ハ所好ある時ハ 親法

物ある時ハ心廣常ニ 伴む方ハ 親法
氣随ふ時ハ悔む方ハ 親法
直ある時ハ人換わす方ハ 親法
欲ある時ハ仁義自らある方ハ 親法
我慢ある時ハ聖敬ある方ハ 親法
害ある時ハ人敬む方ハ 親法

飾ある時ハ偽が思ふ方ハ 親法
私ある時ハ人疑わす方ハ 親法
過失ある時ハ人怒む方ハ 親法
貪ある時ハ人溜む方ハ 親法
迷ある時ハ人答む方ハ 親法
賊ある時ハ所好ある時ハ 親法

道ノ心ヲ修メテハ 親法ノ心ヲ得ル

板城...

虛島...

...

...

...

...

...

...

...

市子廻組九十三石以下

九十三石 中村利重

内板十石夫

六十石 井上 才助 二十石

久津市元 五十石

井尻徳重

五十石 桂 才助 五十石

久川十石 日夜重 四十石

井上重吉

四十石 東 勇吉 三十石

樋口 四十石

井上源助

四十石 戸川 信介 三十石

長谷川 三十石

大塚政夫

三十石 黒坂 忠吉 三十石

長和 三十石

久利重吉

三十石 小野 仁吉 三十石

長和 三十石

河野善吉

三十石 井上 八七郎 三十石

渡邊 三十石

田中林介

三十石 北二石 下井 北二石

仁田 三十石

戸川 信吉

三十石 北石 中村 多助 北石

村田 三十石

名島増太

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

鈴川 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

佐伯 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

三十石 北石 眞石 北石

井上 三十石

無名 七十石

北五石

林七石

小玉是

北四石

井上茂

三戸金介

北三石

川内信介

岡本勉介

北二石

徳田南吉

森田本吉

北二石

高橋俊吉

山縣祥介

北一石

黒林雄助

井本要介

北一石

田村雅也

森田六郎

北一石

林山定介

仙岩

北一石

湯浅十郎

佐木松助

北一石

岸栄吉

久代郡

北一石

河上伊吉

仁吉

北一石

河野辰吉

湯浅五郎

北一石

岡本彦介

水落新太郎

北一石

西村増吉

益田吉

北一石

井上康助

豊島新八

北一石

大島宗吉

長和

北一石

小野吉吉

小坂近彦

北一石

山縣栄介

静向

北一石

江田徳三

河野

北一石

朝枝平吉

井原

北一石

静向六郎

津井利吉

北一石

菅原利吉

境十平

北一石

田島仁吉

植口依内

北一石

大木彦吉

山縣辰吉

北一石

大森新吉

高島源吉

北一石

小野吉吉

竹田

北一石

黒林新吉

小坂吉吉

北一石

田村

河野

北一石

鈴木新吉

井上

北一石

森田

作

北一石

鈴木新吉

同本利吉

北一石

森田

富永

北一石

山縣栄吉

山下

北一石

二宮

藤

北一石

西村

豊島

北一石

十石

富永

三人七石 井上雄也 三人七石
日二石 河上清也 日
二人七石 有年丹次 三人四石
日 十河和次 二人四石
一人四石 小村源次 二人三石
一人三石 宮本金次 日
朝枝宗三 日
栗田義治 日一石
手依 三人四石
富永辰介 三人三石
坂村辰也 日
福山中記 日
南家清水 日
長和半七 日
坂義三 日
水谷作三 日
山口清川 日
田中榮次 日
富永辰介 日
朝枝宗三 日
福原朝次 日
中島東下 日
竹下政久 日
八百介 日

佛陣僧 廿五石 二人者地也 廿五石
日 田村定智 二人三石
河上清波 日
山縣五郎 廿五石
中村平次 日
川田七之助 十石
森照俊 一人一石
生田 権六 二人一石
宮原 辰介 一人三石
田村宗久 一人一石
森照長三 日
田村宗久 日
静向 起白
山口 公勢 日

佛弓但 廿二石 湯浅左平 廿二石
廿七石 小川清三 日
十五石 青 松栄 十五石
十四石 細上三三 十三石
一人四石 木林辰介 一人三石
二石 江田源次 一人二石
十九石 湯浅左平 十八石
十六石 二寅六次 日
十四石 秋山即三 十四石
廿六石 山田利介 十三石
中村佐十 十九石
伊藤重吉 十六石
福原辰三 日
湯浅左平 日
江田辰也 一人三石
坂根辰也 日
小川内助 日
上野周三 日
山田利介 十三石
佐伯十平 十八石
麻生辰也 日
佐藤辰也 十四石
小野重次 日
湯浅左平 一人二石
中村辰三 廿七石
河上清三 十七石
工藤清三 十五石
松井 延三 十石
朝枝宗三 日
境 孝三 日
福原 辰三 日
進藤 辰三 日
小川内助 日
南部 辰三 日
山縣 辰三 日
山崎 辰三 日
園 辰三 日

佛陣僧 廿五石 二人者地也 廿五石
日 田村定智 二人三石
河上清波 日
山縣五郎 廿五石
中村平次 日
川田七之助 十石
森照俊 一人一石
生田 権六 二人一石
宮原 辰介 一人三石
田村宗久 一人一石
森照長三 日
田村宗久 日
静向 起白
山口 公勢 日

大阪和泉ノ宗トス
東方 工 金徳
都會ヲ居ル

偽ヨリ 契来ル人ヲ換テ業
多シ故ニ高位ノ徳ニ至ル方ハ
金ヲ一歩ノ年ニ掛ルナシ

六節 豊兵衛ノ後

岩玉日本ヲ宗トス
西方 農 木徳
田舎ヲ居ル

偽リニ契来ル人ニ化育定宗
人間皆之ニ賞上ニ去ル下
徳是ニ極ス

實世界ニ根

國夫母当申年七十明和四年四月四日生
十六嫁当兵保申年十五年平生凡来年八四年前
老妪外向ニ不信ノ所作是東中一毎々外向ニ
挨拶お互ナリ多調法ニ自ニ金銭借リト金々ノ
盗ニ
石友トシ存机他ハ盗マシク因テ之レ説
享和甲子四月十三日
白應相傳病士

藤越家本
大島山松澤宗大龍寺
後田中夫右所將由
母七十七未過十歳四月十日親月妙光上
一祖母尾方 中京大坂ニ在リ祖母九十六才
五月十四日生
高貴 一祖母尾方 中京大坂ニ在リ祖母九十六才
衣物 平生木綿中京大坂ニ在リ祖母九十六才
美作 木村ハ人 中京大坂ニ在リ祖母九十六才
三遍 衣系 大坂 申年迄行年七十親家地於家地柘野
作ミラ口深
因事輝

五陰之身衆生隨其所作善惡之業有感得此身正受其報故名正報
人よりして

正報 報すべき
地獄 餓鬼 畜生
傍生 天 人 阿修羅 鬼 畜生
一身持報 成佛者 是迷悟生佛十界之人 皆具覺性 故此乃正報

上脩羅 下地獄 畜生

國之即身矣故是乃十方山河地水州木器界是日依報有情所依故
二アル債ヲ子地ニテ疾ヲ償フ所
地ニテ屬地ニ準メ賊ヲ等アルカ
衆多ク一身ニテ冥疾ヲ顯身ニ示ス

依報 防長 過考未束現世 敗化温印

衆俗德 上 過未束王公 下 衆生世界 土 一國 土ツ、横ニテ言テスル

在界國土衆生各々隨其果報之身依之而受報也依報之國土
寒暑祥災水旱疾病等事皆衆生之業感報亦可名依報

過世下世身之御 高行 母德 命セザル部之ニ屬ス

神武天皇二十九年

分別衆生正分別佛國依報

依報 現世 若國平生耳之性 士行 重寶

土是所依如教佛是能依名正報 依報者身所居故名所依隨所作業之依有勝劣故名依報

未束上國口之令 男姓 其反也 假借也 殺割也 掠奪也

過去未來之因 現世之增減之様 三心ヲ示スリ 勿得創立一

新地開闢 四ノノ 親スヤキカ

五陰之身衆生隨其所作善惡之業有感得此身正受其報故名正報
人ノ正報

正報 或佛者是迷悟生佛十界之人皆具覺性故此乃正報
正報 或佛者是迷悟生佛十界之人皆具覺性故此乃正報

上 脩羅 下 畜生

依報 防長 過考未現世 敗化温印

衆俗德 上 過 下 衆生世界 土 一國 土 横

在界國土衆生各隨其果報之身依之而受報也依報亦可在依報
寒暑祥瑞水旱疾病等事皆是衆生作業感報亦可依報

過世下世身之師 而行 命也 命也 命也

分別衆生正報分別佛國依報

依報 現世 若國平生耳之性 士行 依報者身諸土居故名所依隨所作業依有勝劣故在報
土是所依如報佛是能依名報

未承上國口之令 男姓

過去未承之業 現在之業 新地開闢 四ノノ 親スヤキカ

神代ノ第止三ノ四九十八年

廣紀公 二月廿五日 普恩院殿前少府卿德奉祖天大居士 三十九方

廣達公 六月十日 清雲院殿玉款元祥大居士 廿一方

德永公 六月廿五日 編照殿前北直直營蓮花大居士 五十一方

德倫公 九月廿五日 耕乘院殿前城州即即山口通大居士 五十八方

德忠公 四月廿五日 德德院殿德德道馨大居士 三十八方

德賢公 六月廿五日 德德院殿德德道馨大居士 十六方

宣月二十九日 宣月二十九日 宣月二十九日 宣月二十九日 宣月二十九日

近享二年 近享二年 近享二年 近享二年 近享二年

寬以二庚戌 寬以二庚戌 寬以二庚戌 寬以二庚戌 寬以二庚戌

近享三丙寅 近享三丙寅 近享三丙寅 近享三丙寅 近享三丙寅

寬以三辛未 寬以三辛未 寬以三辛未 寬以三辛未 寬以三辛未

宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日

宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日

宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日

宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日

宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日

宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日 宣月四日

○左傳曰桓二年仲鄭伯聞之見統叔曰寡人聞之哀宗失時
陝谷必至今王子頹歌舞不倦樂禍也夫司寇行教
君為之不舉而況敢樂禍乎奸王之位禍孰大焉
禍忘身憂必及之蓋納王幸

莊二十四年御孫東曰臣聞之儉德之共也後惡之共也夫君有其德
而君納諸士惡無不為國將興聽於民將亡聽於神
神聽於心而一者也依人而行親多涼德其何士之能得

○莊二十四年御孫東曰臣聞之儉德之共也後惡之共也夫君有其德

○文子七年藏方中有言曰臣幸而得則必死

○文子云其辭煩杞煩不祥

○仲尼曰若君之克也文以足矣不克則知其克之無文行而不美

○子產曰政如農功日積思之思其然而成其終朝夕而行之行無

○然思如農之有有時其過鮮矣

○莊子於命於軍曰得地如反死且人從命

○子產曰夫小人之性變於勢盡於禍以是則此物亦為非國家之利也

穆子曰善人富謂之貴
人富謂之強天其強之也其將
聚而弑之

鄭伯有嗜酒為窟室而飲酒

遂和曰疾不可為也
是謂近室疾如蠱非鬼非食惑以喪志
良臣將死天命不祐

君子之近琴瑟以儀節也非以愆也
天有六氣降生五味化為五色徵為五
聲淫生六疾六氣曰陰陽風雨晦明也
命為四時序為五節過則為菑陰淫
寒疾陽淫熱疾風淫末疾雨淫腹疾
晦淫惑疾

明淫心疾女陽物而晦時
淫則時內熱惑滯也
疾者君不節不時能無及此乎

椒吳曰臣聞無瑕者不
以易致火曰僕區
曰盜所獲益亦盜同罪

石心其門國乃陽
定實主以如昭夫
人必至及北門或
是日君胡不宵
國人相與若如
想也必出焉
中思之快後傷
君是也

子高曰君聞之以
防激章者其
亦無厭
偏重必離
善德徒賊

二百八十石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石

二定内州 鹿野
山田新田
神田
森田
井上
多川
萩
若田
桂平

二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石
二百石

四百三十石
四百石
四百石
四百石
四百石
四百石
四百石
四百石
四百石
四百石

桂丹下
雲川
桂
雲川
山田
山田
山田
山田
山田
山田

雲の先
由板
由板
由板
由板
由板
由板
由板
由板
由板

子之此南盜為門者尤羣司用府庫慎爾戒完守
備或列而後出兵車十七乘尸而將盜於北
即之殺尉止子師僕盜泉者死
沙門元照受戒方便第六向重難輕庶弟三汝不
錫磨詐作比丘否
道詢賊違此師長之中而揭法
控大策莫落戒儀

10月16日
10月17日
10月18日
10月19日
10月20日
10月21日
10月22日
10月23日
10月24日
10月25日
10月26日
10月27日
10月28日
10月29日
10月30日
10月31日
11月1日
11月2日
11月3日
11月4日
11月5日
11月6日
11月7日
11月8日
11月9日
11月10日
11月11日
11月12日
11月13日
11月14日
11月15日
11月16日
11月17日
11月18日
11月19日
11月20日
11月21日
11月22日
11月23日
11月24日
11月25日
11月26日
11月27日
11月28日
11月29日
11月30日

百七石 廿斗八升

百石

百石 廿斗八升

百石 廿斗八升

百石 廿斗八升

百石 廿斗八升

植口 洋方人 日 朝枝 乙平

二亮神 日 朝枝 乙平

九十石 乃下 九十一人

八十石 乃下 九十一人

七十石 乃下 九十一人

六十石 乃下 九十一人

四十石 豊田

一人 扶持

三十石

廿五石

廿四石 斗

三十石

廿四石 斗

二十石 四人 四石

林臺

河川 瑞碩

一味 味仙 為

朝枝 以第 三

都島 太淳

杉井 太中

三十一石 昇

廿七石 斗

廿六石 斗

廿三石 斗

廿二石 斗

廿一石 斗

二十石 斗

十八石 斗

能存

留元

全福

無家 太叔

知田

東

藤

祐光

道寂

十四

須

白

藤

四十石 銀 二枚

道順

回泉寺

二人 粟石五升

三定 粟石

可外一人 扶持

道濟

口 外一人 扶持

連定 永叔

口 板本

龍伯

口 一人 三石

未永 子亥

二人 三石

河野 有益

口 後年 七奇

定 黎宮了 尊大 道美

口 道美

中村 一安

七 間 但 外 通 了 二十石 以上 一百五十八人

末 永 弟 伯

馬 陸 但 出 八 石 為 船 了 二十二石 八升 一石 扶持 了 二十人

馬 陸 僧 由 海 去 書 船 廿五石 二 次 了 獲 二人

馬 其 也 若 限 了 九人

馬 作 牙 旗 北 三 石 十八人

馬 船 也 但 四 石 限 了 六十人

諸 細 之 人 但 廿 石 廿 人 廿 七 人 口 但 亦 限 一 石 扶 持 了 人

馬 多 組 廿 三 石 廿 二 人 廿 七 人 廿 七 人 廿 七 人

日 為 福 新 介 組 廿 二 人 廿 三 人 廿 三 人

白佐々木海右衛門但世在門下二十九人 通計九十八人

百五下

九十石 二宮新地 日山田 日三浦 九十石 栗屋金三郎 九十石 山縣子之助
 八十石 熊谷 日山田 日山田 八十二石 山縣 八十一石 野村 八十石 今田傳
 八十石 松井 日中 日朝枝 日山田 日山田 日土倉 日長 日長
 七十石 井下 日中 日木梨 日進 日進 日進 日進 日進 日進 日進 日進
 七十石 依武 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 六十石 志茂 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 六十石 井上 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 六十石 今田 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 六十石 今田 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中

五十石 今田 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 五十石 井上 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 五十石 依武 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 五十石 依武 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 四十石 森野 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 四十石 仁田 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 四十石 井上 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 四十石 井上 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 四十石 藤岡 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中
 四十一石 遠藤 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中 日中

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a list or record. The text is densely packed and includes various characters and numbers. The right page contains a list of entries, many starting with numbers like '四十九', '四十', '三十八', etc., followed by names and locations. The left page continues this list, with entries starting from '北九石' down to '北二石'. The handwriting is in a cursive style, typical of Edo-period documents. There are some red ink markings or stamps interspersed throughout the text.

北九石 山縣 一石 北九石 山縣 一石
北七石 山縣 一石 北七石 山縣 一石
北六石 山縣 一石 北六石 山縣 一石
北五石 山縣 一石 北五石 山縣 一石
北四石 山縣 一石 北四石 山縣 一石
北三石 山縣 一石 北三石 山縣 一石
北二石 山縣 一石 北二石 山縣 一石

長崎藩 長門屋太助防刃表物方宿 鍵屋辰三郎
肥前 久留米 水澤村 福田亭山男 荒卷人之助
長崎 船津町 通仙堂 近藤良三
小松 同作 船同屋 糸前 福岡 水屋 次良 八博 多想 丹町 釘屋 三郎
岩國 用達 長崎 葛屋 町 東原 本子 軒
平川 養乙 榎原 名隣 字子徳
榎藤 時衛 荒後 府中 軒
岡田 伊手 豊前 上毛 郡 川底 村
肥前 代今 町 平川 町

肥前大村 本川 自適 弟 泰輔 長崎 船津町 通仙堂 近藤良三
小松 同作 船同屋 糸前 福岡 水屋 次良 八博 多想 丹町 釘屋 三郎
岩國 用達 長崎 葛屋 町 東原 本子 軒
平川 養乙 榎原 名隣 字子徳
榎藤 時衛 荒後 府中 軒
岡田 伊手 豊前 上毛 郡 川底 村
肥前 代今 町 平川 町
同作 船津 屋 幸 屋 七
中屋 竹 十 九
中屋 竹 十 九

長崎 船津町 通仙堂 近藤良三
小松 同作 船同屋 糸前 福岡 水屋 次良 八博 多想 丹町 釘屋 三郎
岩國 用達 長崎 葛屋 町 東原 本子 軒
平川 養乙 榎原 名隣 字子徳
榎藤 時衛 荒後 府中 軒
岡田 伊手 豊前 上毛 郡 川底 村
肥前 代今 町 平川 町

肥前大村 本川 自適 弟 泰輔 長崎 船津町 通仙堂 近藤良三
小松 同作 船同屋 糸前 福岡 水屋 次良 八博 多想 丹町 釘屋 三郎
岩國 用達 長崎 葛屋 町 東原 本子 軒
平川 養乙 榎原 名隣 字子徳
榎藤 時衛 荒後 府中 軒
岡田 伊手 豊前 上毛 郡 川底 村
肥前 代今 町 平川 町

京下之貴鳥丸西入十二生新寺 伊兵衛

丹后切渡文珠 智月 在阿寺

京都坊上住人地村 植村藤右馬

筑前盛屋中一路 徳政去壽延元字

用武丹羽左京大夫御屋敷 閑屋有鄰

東肥高瀬 友江惟貞 德子泰 東肥人吉藩臣 新宮行光字龍人 稱常寺

長勢豐浦河川 山瀨云或称其和吉 石原字久鳴子 虹山額

振那豐嶋郡 小曾根村川崎作十郎 〇依成郎 牛儿池田珪作

高嶋四郎 大夫名茂 敦字子厚 親就草又米山又杖雲樓美又菊莨高又敷領

肥前村今道後平勝 刺良字伯和子 雞山 高尾之民 官市依

國州津程 岡印寛山 智菰江屋橋町

筑後久留米尾嶋 坂井元貞 杉山三田尻本街

薩州長門三瓶 助之文有 河野孝伯 官市新町

加州全氏 三津高 津澤子 横田京碩 官布今市

豊前田原 徳寺 山根省吉 三南尻 新田

忠海高見町 錦虫 卯兵衛 堀田泰庵 柳子

豊後玖球塚 脇村 宗野 下套口 荒井 三宅元貞 官市新町

豊後日出既見

痔ノ葉

蓮葉三分土灰ノ消石ノ下 草 某 大 甘 下

胃皮燒二下 見合一前

小食 身丁筋 深野安宅

勝田季鳳 名之徳日出人

前博 坂 長宗助 身海

ハニシニ 杉前 漢杜茎山

De yeneedme
ster is behu
ip oel natie
ur

樹膠 脂 辛 辣

天文曆算家

小山好謙

俗稱丸右門 猿屋町

茶屋裏壽

俗稱金四郎 室町右池南

下村政良

俗稱甚之丞 室町九太町北

易學家

俗稱七郎 草江所

真田平之進 高倉井屋町南

杉井暉星

旭木町南

伊良子右馬少允 室町九太町

物産家

俗稱吉油小路五

千葉寺無守 下岡所

山本世彌

俗稱海之進 研馬場

山科半安 御幸町二太町北

水野廣業

俗稱某師南

右槻菜大序 聖護院村

第物 乃多津之只

○水蘇 ○雀麥

○野苧蒿 ○水蘇 ○雀麥

大坂南

俗稱二丁目

胡蒜麥

日道

蕪菜

白中

蕪菜

黃連

山萵菜亦名

豐後

蕪菜

後村

蕪菜

野原

蕪菜

荒

蕪菜

孫田村月石原口佐谷仲龍○疏後入苗若指原小站
平中水原、養、

疏後名苗若石橋下川崎勇七
久苗水、分、重程、リ、銀、用、

防劬山口矢田村深川三甫
在、其、家、

詩在名物辨解四

沈沈江方沸湧一斗入大盆內過之濕盤坐其中
數時熱氣融通
於於脫出不得過和是乎南天葉敷十紋取汁
洗痛必得之檢而
潤是氣後又兼糖氣乾移以收氣
...

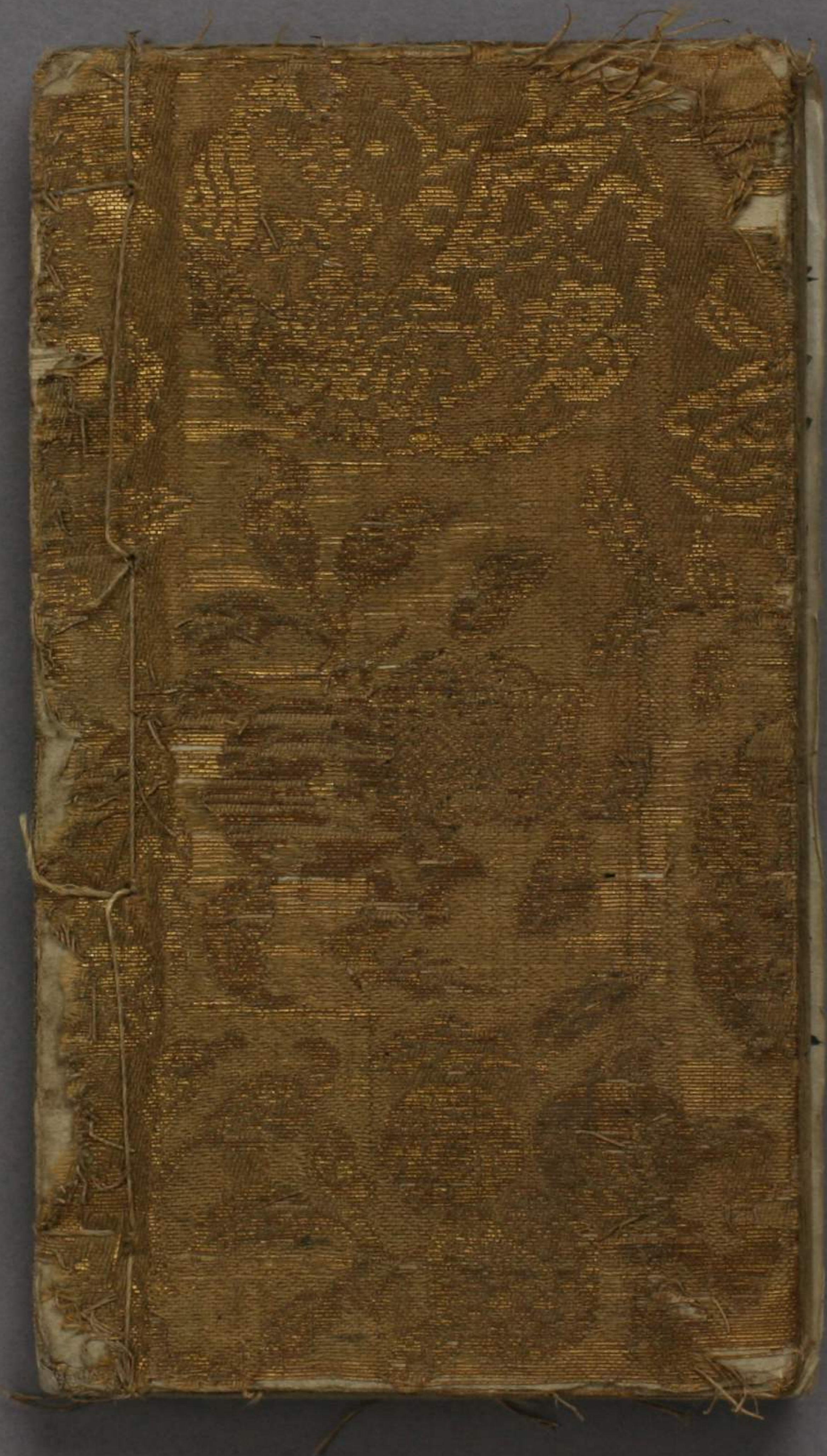
呼坂三尾中田中打高島
天保八面四月北
京二條通富小路東二入
吉田四郎在

東家西
...

面 面

吉田兵衛 十郎

了之味方也



水+15

病水付推俗品、名義者、供養、集の
用心の爲
一命 投者、即ち水、毒、瘴、用、甘、下、在、也

一牢人 一、金、十、者、佛、子、唐、寒、之、干、復、為、更、陽、之、温、飽、車、
一、火、上、云、上、存、時、
一、女、之、四、九、尻、入、置、于、咒、咒、水、症、云、云、
一、長崎、之、善、水、神、之、監、祭、也、
此、後、之、水、災、
此、河、六、河、神、川、日、野、云、此、邊、六、徹、多、川、田、云、
不、當、回、云、云、

一盜賊 幻、妖、神、咒、水、十、金、之、戸、人、水、
一、水、方、 倭、者、卑、十、殿、多、款、愛、云、云、口、十、
一、北、方、水、部、 雲、水、而、危、
一、多、酒、上、云、王、水、神、祭、時、名、子、界、
一、江、戸、水、道、ノ、水、黒、渾、上、之、黒、泥、之、堅、持、云、
一、水、方、 倭、者、卑、十、殿、多、款、愛、云、云、口、十、
一、北、方、水、部、 雲、水、而、危、
一、多、酒、上、云、王、水、神、祭、時、名、子、界、
一、江、戸、水、道、ノ、水、黒、渾、上、之、黒、泥、之、堅、持、云、
一、水、方、 倭、者、卑、十、殿、多、款、愛、云、云、口、十、
一、北、方、水、部、 雲、水、而、危、
一、多、酒、上、云、王、水、神、祭、時、名、子、界、
一、江、戸、水、道、ノ、水、黒、渾、上、之、黒、泥、之、堅、持、云、

見、不、他、于、取、分、内、際、自、見、不、盜、賊、ト、云、云、
中、目、見、亦、方、取、目、前、在、未、目、首、犯、食、在、也、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、

一水方 倭者卑十殿多款愛云云口十、
一北方水部 雲水而危、
一多酒上云王水神祭時名子界、
一江戸水道ノ水黒渾上之黒泥之堅持云、